

上中居前屋敷遺跡

－高前幹線事業に伴う発掘調査－

2014

高崎市教育委員会

序

高崎市は群馬県の南西部にあり、北西に榛名山、北東に赤城山、西に妙義山などの上毛三山を望む関東平野の西北部を市域としております。

古くから文化の栄えたこの地域では、史跡綿貫観音山古墳や元島名將軍塚古墳が築造され、中世には和田氏家臣団をはじめとする武士の城館が多く築かれました。近世には例幣使街道など交通の要衝・商都として栄え、現在もその交通の利便性から北関東有数の「交通拠点都市」として躍進しております。

高崎市は平成23年4月に中核市へ移行し、さらなる発展やより良いまちづくりのため、交通網の整備や区画整理などの事業を実施してきました。本書で報告する上中居前屋敷遺跡は、高崎・前橋両市を結ぶ都市計画道路の建設に伴い発掘調査した遺跡であり、平成21・22・24・25年度分の調査成果をまとめたものです。調査では、古墳時代の溝・中世寺院・中近世の区画溝などの遺構や遺物が発見され、この地域の歴史を知るうえで貴重な資料を得ることができました。なかでも古墳時代の溝から出土した東海系・在地系の土器群、中世寺院に関連する建物跡や瓦類などは、この地域を開拓した人々の営みやその後の発展の様子を今に伝える重要な遺産です。本書がこの地域の文化財をより良く理解し保護していくことに役立ち、そして研究の一助となれば幸いです。

最後に、本遺跡の発掘調査ならびに報告書刊行にあたりご協力・ご指導いただきました地元の皆様、関係諸機関の方々に厚く御礼申し上げますとともに、厳しい気候の中、困難な調査に従事していただいた作業員の方々の労をねぎらい、序といたします。

平成26年3月

高崎市教育委員会
教育長 飯野 眞幸

例言

- 1 本書は高崎市計画道路3・2・1高前幹線事業に伴って実施した平成21・22・24・25年度「上中居前屋敷遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は群馬県高崎市上中居町877-1・877-11・817-1(1区)、813-2・3(2-1区)、802-6(2-2区)、799-1・800-1(3区)、814-1・814-2・814-5・814-10(4区)に所在する。
- 3 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。調査組織は以下のとおりである。

平成21年度：(事務局)	田口一郎	須田奈保子	山田いずみ	(調査担当)	黒田晃	明石雅夫
平成22年度：(事務局)	田口一郎	須田奈保子	山田いずみ	(調査担当)	黒田晃	手島英実子
平成24年度：(事務局)	田口一郎	神澤久幸	山田いずみ	(調査担当)	清水豊	手島英実子
平成25年度：(事務局)	田口一郎	神澤久幸	山田いずみ	(調査担当)	大野義人	岡崎裕子
				(整理担当)	大野義人	手島英実子
- 4 発掘調査期間は以下のとおりである。

平成21年度：上中居前屋敷遺跡1次調査	(平成21年6月15日～平成21年12月25日)
平成22年度：上中居前屋敷遺跡2次調査	(平成22年8月17日～平成22年12月1日)
平成24年度：上中居前屋敷遺跡3次調査	(平成24年7月6日～平成24年8月29日)
平成25年度：上中居前屋敷遺跡4次調査	(平成25年6月10日～平成25年8月8日)
- 5 整理作業期間は平成25年4月1日～平成26年3月31日である。
- 6 本書の執筆・編集は大野・手島が行った。

遺物整理・実測、図版作成等は担当職員、および担当職員の指示の下に青木千賀子、見野恵美子、塚本福代、萩原真理子、吉田三枝子が行った。
- 8 遺構の撮影は発掘調査担当職員が行った。遺物の写真撮影は業者に委託し、一部を手島が行った。
- 9 本事業に際し、発掘調査における表土掘削および埋め戻し作業は(株)井ノ上が行った。また、遺構平面図・空中写真撮影を(株)測研・(株)シン技術コンサル、自然科学分析をパリオ・サーヴェイ(株)に委託した。
- 10 本遺跡の出土遺物・記録類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 11 発掘調査にあたり、地元関係者の方々、高崎市役所都市整備部都市施設課にご協力をいただいた。
- 12 発掘調査にあたり、多くの作業員の方々の協力をいただいた。記して感謝する。

凡例

- 1 本書に使用した地図は、高崎市都市計画図(1/2500)、国土地理院発行の1/25,000地形図『高崎』である。
- 2 本書中の座標値は平面直角座標第IX系国家座標(世界測地系)であり、方位はその座標北(G.N.)である。高さは、東京湾平均海面(T.P.)を基準とする海拔高であらわす。
- 3 本書で使用した遺構記号は次のとおりである。溝:SD、井戸:SE、土坑:SK、ピット:Piである。
- 4 遺構・遺物図の縮尺は原則として以下のとおりであり、各図にスケールを付した。縮尺を変更したものについては、各図に別途スケールを付した。
遺構:溝・土坑・柱穴・ピット・井戸 1/40
遺物:土器 1/3、瓦・軟質陶器・板碑 1/4、石器・金属製品 1/3、石臼 1/6、古銭 1/1
- 5 遺物写真の縮尺は原則として以下のとおりである。縮尺を変更したものについては、各図にスケールを付した。
土器・瓦・軟質陶器・板碑 1/4、石器・金属製品 1/3、石臼 1/6、古銭 1/1
- 6 遺構の切り合い関係、遺物における漆附着範囲・ガラス質物附着範囲などにはトーンを用いており、凡例は各図に付した。
- 7 遺物図における1点破線は軸の範囲を示す。また、中近世の陶磁器については1点破線を補足するため、遺物図断面に軸際部分を表す三角マークを付した。
- 8 遺物観察表に用いた単位はcmであり、()で示した数値は推定値、[]で示した数値は残存値である。
- 9 本書で使用した火山灰の略称については、以下のとおりである。
As-A: 浅間A軽石(天明3年の浅間山噴火に由来)
As-B: 浅間B軽石(天仁元年の浅間山噴火に由来)
As-C: 浅間C軽石(4世紀初頭の浅間山噴火に由来)
Hr-FA: 榛名ニッ岳渋川(6世紀初頭の榛名山噴火に由来)
- 10 出土瓦の色調については、遺物観察表で以下の略称を用いた。
1 A: 褐灰色(10YR5/1)
1 B: 褐灰色(10YR5/1)表面および中心部が褐灰色、それ以外は灰白色(10YR8/1)を呈する
2 : 黄灰色(2.5Y6/1)
3 A: にぶい黄橙色(10YR7/3)
3 B: にぶい黄橙色(10YR7/3)中心部が褐灰色(10YR5/1)を呈する
- 11 遺構・遺物図のトレースおよび本書の編集はAdobe社のIllustratorを用いた。

目次

口絵 序文 例言 凡例

目次 挿図目次 表目次

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	1
第3節 調査日誌抄	1

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2

第3章 検出遺構

第1節 基本層序	17
第2節 調査の概要	17
第3節 溝跡	18
第4節 井戸跡	65
第5節 礎石建物・土坑跡	73
第6節 掘立柱建物・ピット	88
第7節 As-A 軽石充填遺構	96
第8節 遺構外出土遺物	98
第9節 自然科学分析	105

第4章 成果と課題

第1節 上中居前屋敷遺跡の遺構変遷	107
第2節 中世寺院と墓域	108
第3節 中世瓦の分析	111

挿図目次

第 1 図	上中層崩壊危険調査区位置図	4	第 42 図	51～54号調査断面図・53号湧出土遺物図	56
第 2 図	上中層崩壊危険調査区辺境分布図	5	第 43 図	1号井戸平面図・断面図および出土遺物図	65
第 3 図	上中層崩壊危険調査区全体図・等高線図	8	第 44 図	2～4号井戸平面図・断面図および4号井戸出土遺物図	66
第 4 図	1区調査区全体図	10	第 45 図	5～8号井戸平面図・断面図および6・8号井戸出土遺物図	67
第 5 図	2区調査区全体図	12	第 46 図	9～13号井戸平面図・断面図	68
第 6 図	3区調査区全体図	14	第 47 図	14～16号井戸平面図・断面図	69
第 7 図	4区調査区全体図	16	第 48 図	17号井戸平面図・断面図および14～16・18号井戸出土遺物図	70
第 8 図	基本地形図	17	第 49 図	18・19号井戸平面図・断面図	71
第 9 図	1・2・4号調査断面図	18	第 50 図	20～22号井戸平面図・断面図および 21・22号井戸出土遺物図	72
第 10 図	3号調査断面図・断面図	20	第 51 図	1号礎石建物跡平面図	75
第 11 図	3号湧出土遺物図	21	第 52 図	1号礎石建物跡断面図	76
第 12 図	6号調査断面図および3・4号湧出土遺物図	22	第 53 図	1～5号土坑平面図・断面図	77
第 13 図	5号調査断面図および7～10号調査断面図・断面図	24	第 54 図	19～21号土坑平面図・断面図	78
第 14 図	7号湧出土遺物図①	25	第 55 図	22～24号土坑平面図・断面図	79
第 15 図	7号湧出土遺物図②	26	第 56 図	25・26号土坑平面図・断面図	80
第 16 図	7号湧出土遺物図③	27	第 57 図	27～29号土坑平面図・断面図	80
第 17 図	7・9号湧出土遺物図	28	第 58 図	30～34号土坑平面図・断面図	81
第 18 図	11号調査断面図・断面図および出土遺物図	30	第 59 図	35～38号土坑平面図・断面図	82
第 19 図	12・13号調査断面図・断面図	32	第 60 図	39～42号土坑平面図・断面図	83
第 20 図	14・15号調査断面図・断面図	34	第 61 図	43～46号土坑平面図・断面図	84
第 21 図	13号湧出土遺物図①	35	第 62 図	47～51号土坑平面図・断面図	85
第 22 図	13号湧出土遺物図②	36	第 63 図	52号土坑平面図・断面図および 22・36・40・44号土坑出土遺物図	86
第 23 図	14・15号湧出土遺物図	37	第 64 図	45・46号土坑出土遺物図	87
第 24 図	16～18号調査断面図	38	第 65 図	1号竪立柱建物・4～8号ピット平面図・断面図	89
第 25 図	17・19～22号調査断面図および17・22号湧出土遺物図	39	第 66 図	9～12号ピット平面図・断面図	90
第 26 図	23～25号調査断面図	40	第 67 図	22～37号ピット平面図・断面図	91
第 27 図	26・28～30号調査断面図	41	第 68 図	38～52号ピット平面図・断面図	92
第 28 図	29号調査断面図・出土遺物図	42	第 69 図	53～67号ピット平面図・断面図	93
第 29 図	27～29号調査断面図	43	第 70 図	68～80号ピット平面図・断面図	94
第 30 図	31～33号調査断面図	44	第 71 図	81～95号ピット平面図・断面図	95
第 31 図	34～36号調査断面図・出土遺物図	46	第 72 図	96～101号ピット平面図・断面図	96
第 32 図	35・36号湧出土遺物図	47	第 73 図	AsA 軽石充填遺構平面図・断面図	97
第 33 図	37号調査断面図・出土遺物図	47	第 74 図	遺構外遺物出土状況図	98
第 34 図	38号調査断面図・出土遺物図	48	第 75 図	遺構外出土遺物図①	99
第 35 図	39～41号調査断面図	48	第 76 図	遺構外出土遺物図②	100
第 36 図	42号湧出土遺物図	49	第 77 図	遺構外出土遺物図③	101
第 37 図	42・43号調査断面図	49	第 78 図	遺構外出土遺物図④	102
第 38 図	44～46号調査断面図・断面図	52	第 79 図	竪穴遺体・足先遺体	106
第 39 図	44号調査断面図出土状況図および50号調査断面図・ 47～50号調査断面図	53	第 80 図	上中層崩壊危険調査区遺構変遷図	110
第 40 図	44・45号湧出土遺物図	54	第 81 図	中世Ⅰ～Ⅱ期の例証文献平凡	112
第 41 図	45・50号湧出土遺物図	55			

表目次

第 1 表	上中區前屋敷遺跡周辺遺跡一覧表	6	第 9 表	清跡出土遺物観察表⑥	64
第 2 表	清跡出土遺物観察表①	57	第 10 表	清跡出土遺物観察表⑦	65
第 3 表	清跡出土遺物観察表②	58	第 11 表	井戸跡出土遺物観察表①	72
第 4 表	清跡出土遺物観察表③	59	第 12 表	井戸跡出土遺物観察表②	73
第 5 表	清跡出土遺物観察表④	60	第 13 表	土坑跡出土遺物観察表	87
第 6 表	清跡出土遺物観察表⑤	61	第 14 表	遺跡外出土遺物観察表①	103
第 7 表	清跡出土遺物観察表⑧	62	第 15 表	遺跡外出土遺物観察表②	104
第 8 表	清跡出土遺物観察表⑦	63			

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

平成20年10月、都市整備部都市施設課より、高崎市計画道路3・2・1号高前幹線事業に伴う埋蔵文化財の照会があった。事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、翌年6月9日に都市施設課より文化財保護法第94条に基づく通知が文化財保護課に提出された。事業予定地周辺では上中居土地区画整理事業や住宅建設に伴う調査によって、古墳時代から平安時代の集落跡や中近世の館跡などが調査されており、事業予定地においても同様の遺構が検出されるものと予測された。都市施設課と文化財保護課との間で埋蔵文化財保護の協議をおこなったが、事業計画の変更は困難であるとの回答を得たため、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。

平成19・20年度および平成21年度調査の一部については「下中居天神裏遺跡」として報告済みのため、本報告書では平成21・22・24・25年度までの4カ年度分の調査報告をおこなうこととする。

第2節 調査の方法

発掘調査は、平成21年度は平成21年6月15日から12月25日、平成22年度は平成22年8月17日から12月1日、平成24年度は平成24年7月6日から8月29日、平成25年度は平成25年6月10日から平成25年8月8日まで調査をおこなった。

発掘調査対象地は約6,000㎡と広大であり、排出土の仮置き場や安全を考慮して、調査対象地を便宜的に小調査区に分割して調査を実施した。発掘調査中の掘削によって生じた排出土は、未調査箇所および調査済み箇所をそれぞれ仮置き場として事業地内で管理した。

発掘調査は、遺構が検出される深度（遺構確認面）まで重機を使用した表土除去作業をおこなった。遺構確認面では人力により遺構平面プランの検出をおこない、遺構の形状や重複関係の確認をおこなった。遺構確認後は土層観察用ベルトの設定や半裁方向を決定し、順次人力での掘削をおこなった。土層観察用ベルトは、各遺構の覆土堆積状況を観察し、分層作業や写真撮影、断面図化作業をおこなった後に取り除いた。掘削が完了した遺構は35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルムおよびデジタルカメラによる撮影をおこない、光波測距儀や平板測量で平面図・断面図ならびに遺物出土状況の記録図作成をおこなった。なお、調査最終段階では6×6版フィルムによる航空写真撮影を実施した。検出した遺物は出土状況の記録写真や分布状況の記録図面を作成した後、遺構または層位ごとに取り上げをおこなった。調査終了後は重機による埋め戻しをおこなった。

第3節 調査日誌抄

平成21年7月2日	重機を導入し、2-1区の表土掘削を開始。	平成24年7月10日	重機を導入し、3区の表土掘削を開始。
9月3日	2-1区にて土層の区別確認、中世の溝、俵石を伴う柱穴、ピット多数検出。	7月19日	33号溝より古墳中層の灰出土。
10月22日	8号井戸より内耳掘出。中世の溝、柱穴群掘削終了。	7月23日	34～36号溝より江戸後期の陶器類出土。
11月16日	2-2区の表土掘削を開始。2-1区から続く溝を確認。	8月9日	15号井戸より江戸後期の徳利2点出土。
11月26日	10号溝より巴文軒瓦瓦・銅製文軒平瓦出土。	8月24日	遺構掘削を終了し、全景・細部撮影完了写真を撮影。
12月22日	2-2区の調査を終了し、航空写真を撮影。	8月29日	埋め戻しを完了し、現場での発掘調査を終了。
12月25日	2-2区の埋め戻しを完了し、現場での発掘調査を終了。		
平成22年8月24日	重機を導入し、1-1区の表土掘削を開始。	平成25年6月10日	重機を導入し、調査区北部の表土掘削を開始。
9月3日	5・7号溝掘削終了。下層より古墳掘削を中心とする土層が多量に出土。	6月14日	中世の溝を複数確認。8号溝より瓦葺き・瓦出土。
9月17日	3号溝より古墳前期を中心とする土層が多量に出土。	6月27日	4号土坑より銅鏡が複数出土。
9月22日	深間C坑石上面で御ヶ坪壙土層・広口壙などを検出。	6月28日	2号井戸より中世の瓦が多量に出土。
10月18日	1-1区の埋め戻しを完了し、1-2区の表土掘削を開始。	7月11日	重機を導入し、調査区南部の表土掘削を開始。
12月1日	1-2区の遺構掘削を終了し、航空写真を撮影。	7月26日	遺構掘削を終了し、航空写真を撮影。遺構測量を実施。
		7月30日	部分的に地山直上の遺構検出を実施。溝1条とピット数基を検出。
		8月12日	埋め戻しを終了し、現場での発掘調査を終了。

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

上中居前屋敷遺跡は高崎市上中居町に所在し、JR高崎駅から東に約1.5kmの距離に位置している。周辺の地形は北西から南東方向に緩やかに傾斜しており、榛名山麓を水源とする多数の河川が南東方向へ流下している。榛名・赤城両山の間を流れる利根川は前橋泥流を基盤とする前橋台地を、榛名山東麓を水源とする中小河川は相馬ヶ原扇状地を形成し、碓井川・烏川・井野川流域は河川の浸食により、小規模な低地と微高地が複雑に入り組んだ地形を形成している。前橋台地上には井野川が流れ、この流域に形成される井野川低地帯を境として、おおむね西域を指して高崎台地と呼称する場合が多い。高崎台地上にはその基盤である前橋泥流の上に、高崎泥流と呼ばれる泥流が堆積している。また、井野川低地帯の高位段丘には、高崎泥流が堆積するとともに、その低位段丘には6世紀代の榛名山二ツ岳の噴火に関連した井野川泥流の堆積が認められている。

本遺跡周辺は戦国時代に関野氏によって敷設されたとされる長野堰から分水した水路が複数流れるエリアである。長野堰は大橋町で一貫堀川に分流し、高関町付近で地獄堰・矢中堰・倉賀野堰に分かれ、最終的に烏川や井野川へ流れ込む。本遺跡はこのうち矢中堰と倉賀野堰に挟まれた南東方向へのびる微高地上に立地している。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺では古墳時代や中世を中心に数多くの遺跡が調査されている。以下にその一部を取り上げて歴史的環境を概観したい。

旧石器・縄文時代 本遺跡周辺では前橋泥流層が厚く堆積しているため、旧石器時代の遺構は検出されていない。縄文時代の遺跡も顕著とは言えず、遺物の出土はあっても遺構の検出は少ない。遺構は上中居遺跡群で縄文中期後半頃を中心とすると考えられる集石遺構、土坑、被熱痕跡および当該期の土器群が確認されており、遺構群との時期関係は不明ながらも土偶や石棒なども出土している。さらに縄文後期の土器群も一括廃棄された状態で出土しているため、継続的な土地利用の様子がうかがわれる。また、下中居条里遺跡では縄文中期後半の堅穴住居跡1軒、土坑5基が確認されている。遺物は宿大類村西遺跡で縄文前期の石器が多量に出土しているほか、高関高根遺跡、高関東沖・村前遺跡、高関堰村遺跡などで縄文中期から後期の土器・石器が出土している。

弥生時代 前橋台地上では弥生中期後半頃から集落が営まれ始める。烏川左岸段丘上には土器型式の標識遺跡として著名な竜見町遺跡、高崎城V・VI遺跡、城南小学校校庭遺跡が、烏川と井野川に挟まれた台地上の微高地には高崎競馬場遺跡、高関村前遺跡、高関堰村遺跡、高関東沖・村前遺跡などが所在する。弥生中期後半に入ると城南小学校校庭遺跡などで集落が形成され始める。当該期には環濠集落の存在が特筆され、高関堰村遺跡、高関東沖・村前遺跡、高崎城V・VI遺跡で確認されている。中期後半の集落は後期初頭までの短期間で終息を迎え、集落数はほぼ半減する。その後、後期後葉になると再び集落が増加し、高関村前遺跡、高関堰村遺跡、高関東沖・村前遺跡、下中居条里遺跡、宿大類村西遺跡などで集落が確認されている。さらに、高関高根遺跡では中期中葉頃のビット内再葬墓である可能性を有する遺構が検出され、高崎城三の丸遺跡では弥生中期後半と考えられる方形周溝墓が確認され、群馬県内での最古例として知られる。また、上大類北宅地遺跡でも弥生後期の方形周溝墓が確認されている。中でも、宿大類村西遺跡の住居跡から出土した南関東系の壺は弥生後期前半に位置付けられ、中居町一丁目遺跡、上大類北宅地遺跡に先行して、南関東地域との交流を示す例として注目される。弥生後期になると大規模な集落が形成され、集落数自体も増加するが、井野川下流域の低地帯周辺から遺跡は発見されていない。

古墳時代 古墳時代の遺跡は縄文時代・弥生時代に比べ飛躍的に増加する。特に、井野川左岸から烏川への合流点にかけての微高地上に集落が広がり、井野川左岸・烏川左岸下流域に古墳が集中する。また、井野川に沿った微高地の東側から利根川右岸にかけて後背湿地が広がっており、近年の発掘調査の結果、古墳時代前期にまで遡る水田が累々と営まれていたことが明らかになってきた。

古墳前期の集落は中居町一丁目遺跡、上中居遺跡群、宿大類村西遺跡、上大類北宅地遺跡などで集落と方形周溝墓、下中居条里遺跡、上中居辻薬師Ⅲ遺跡で集落が、上中居辻薬師Ⅱ遺跡、柴崎遺跡群では方形周溝墓が確認されている。中でも、中居町一丁目遺跡では南関東系の壺、上大類北宅地遺跡では樽式壺と南関東系壺類が出土し、貝沢柳町遺跡、倉賀野万福寺遺跡、下佐野Ⅰ遺跡では東海西部系加飾壺が方形周溝墓から出土している。また、上中居遺跡群の住居跡から南関東系の壺が、高崎城Ⅹ遺跡では東海西部系加飾壺が、中居町一丁目遺跡、上中居遺跡群、寺尾町下遺跡では布留式土器が出土している。これら井野川下流域は外来系土器の影響が濃厚な地域であり、東海西部系を中心とした複数系統の集団の流入が古墳前期における当地域の急速な開発につながったと推測されている。

古墳中期の集落は前期から継続する上大類北宅地遺跡、西島相ノ沢遺跡、下中居条里遺跡、下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡などで確認されるにとどまる。

古墳後期の集落は柴崎遺跡群、高関村前遺跡、高関村前Ⅱ遺跡、高関東沖・村前遺跡、上中居辻薬師Ⅱ遺跡、上中居遺跡群、下佐野Ⅰ・Ⅱ地区で確認されており、古墳中期に一度は減少した集落が再び増加していく。生産遺跡は東町Ⅲ遺跡でAs-C下の水田跡とHr-FA・Hr-FPを含む洪水層下の水田跡が、高関東沖・村前遺跡では後期の島跡が確認されている。

古墳前期に該当する古墳は、4世紀初頭築造とされる前方後墳の元島名將軍塚古墳、4世紀後半代の柴崎蟹沢古墳がある。柴崎蟹沢古墳は小規模ながら「正始元年」銘の三角緑神獸鏡を有し、この鏡と同范関係にあるものが、奈良県桜井茶臼山古墳、兵庫県森尾古墳、山口県竹島御家老屋敷古墳から出土している。中期初頭になると、烏川左岸および井野川下流域に大規模な大型前方後円墳が進出し、浅間山古墳、大鷲巻古墳、それより一段階後出の5世紀後半築造の小鷲巻古墳、越後塚古墳などが分布する。後期初頭になると、聖天山古墳、6世紀後半には井野川中流域における中核的な首長墓と考えられている五靈神社古墳・浜尻天山古墳などが築造される。

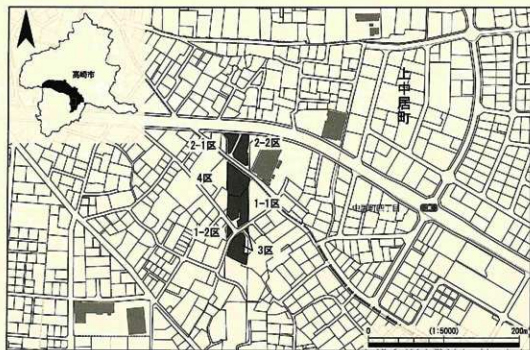
一方、上佐野町から下佐野町にかけての烏川左岸一帯には、古墳前期から始まり6世紀後半を主体とする佐野古墳群が形成される。代表的な古墳は前期末から中期初頭に築造された大型円墳の長者屋敷天王山古墳、古墳後期の凝灰岩の切石を用いて石室を構築した漆山古墳、蔵王塚古墳である。

奈良・平安時代 奈良・平安時代になると条里制の導入や灌漑技術の発達に伴い、大規模な水田開発がおこなわれる。本遺跡周辺においても高関村前Ⅱ遺跡、高関北沖遺跡、下中居条里遺跡、柴町Ⅰ～Ⅲ遺跡、東町Ⅰ～Ⅵ遺跡などでAs-B下水田が確認されている。これらが帰属する集落も近辺の微高地上に営まれ、高関村前遺跡、下中居条里遺跡などで当該期の住居跡が確認されている。また、東町Ⅳ遺跡では8世紀代と想定される洪水層の下から、旭町Ⅰ遺跡・真町Ⅰ遺跡では9世紀代の洪水層の下から水田跡が検出された。Hr-FA・Hr-FP関連の洪水は複数回起こったと考えられており、今後古墳時代から平安時代後期までの農耕遺構が検出される可能性は高いと考えられる。

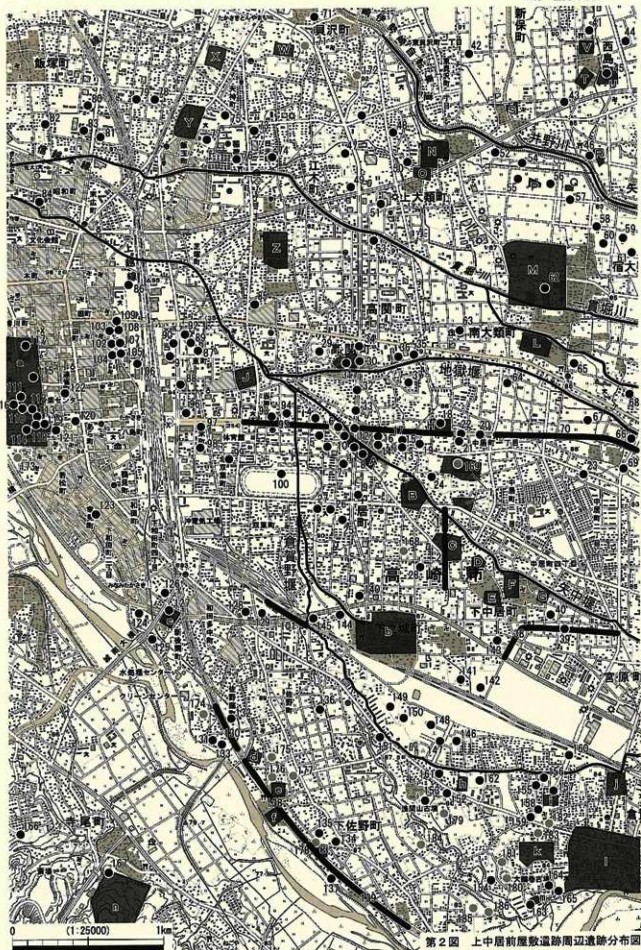
中世 中世になると寺尾・山名・倉賀野・綿貫・嶋名・和田・長野各氏が高崎市域に拠点を築き、多くの城館・環濠屋敷が造営されるようになる。本遺跡周辺は和田氏の領域に含まれ、和田氏に属する一族の環濠屋敷が地獄塚、矢中塚に沿うように分布する。下中居新井屋敷、高尾屋敷はそれぞれ和田氏騎馬衆の新井大学、高尾佐渡守の屋敷と推定されており、これらの武士団が和田氏の軍事を支えていたと考えられている。これら屋敷跡の一部は発掘調査でも確認されており、下中居天神裏遺跡において下中居新井屋敷の堀、上中居岡東遺跡2次調査および上中居遺跡群では丸茂屋敷の堀が、上中居辻薬師遺跡および上中居西屋敷Ⅱ遺跡において反町城の堀と郭が、高関塚村遺跡では高関屋敷の

堀がそれぞれ検出されている。また、下之城村前IV遺跡では堀や獨立建物など跡と想定される遺構が確認されており、和田氏下之城の関連施設と推測されている。

近世 近世になると慶長三年(1598)井伊直政が箕輪城から高崎城に拠点を移したことにより、城下町が形成される。現在のJR高崎駅西口周辺を中心に町屋や社寺が建ち並び、中山道と三國街道が通ることから宿場町としても繁栄する。周辺では上中居辻薬師遺跡、上中居辻薬師Ⅱ遺跡では中世から継続する反町城の一部が調査され、近世の陶磁器が出土している。また、天明三年(1783)の浅間山噴火に伴うAs-A軽石を除去した災害復旧痕(処理溝)が東町遺跡、栄町遺跡など多数確認されている。



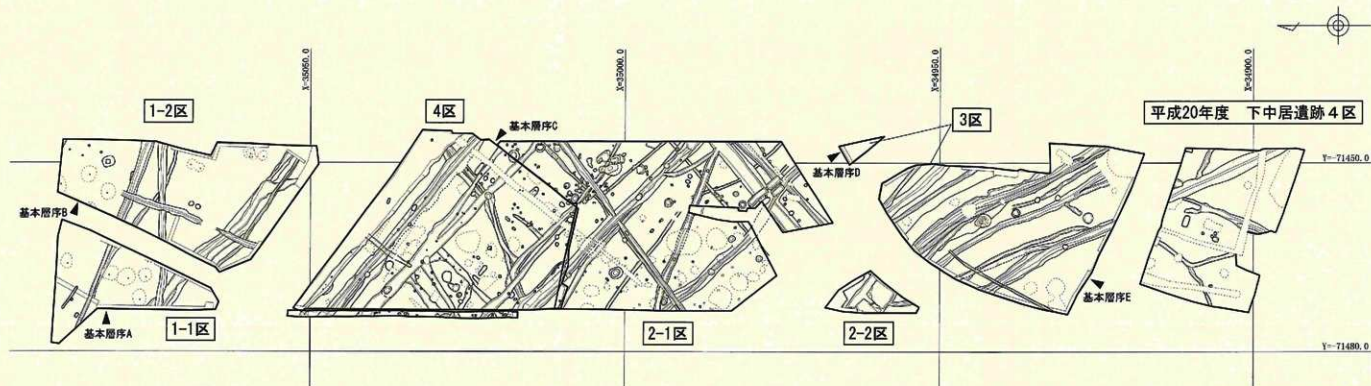
第1図 上中居前屋敷遺跡調査区位置図



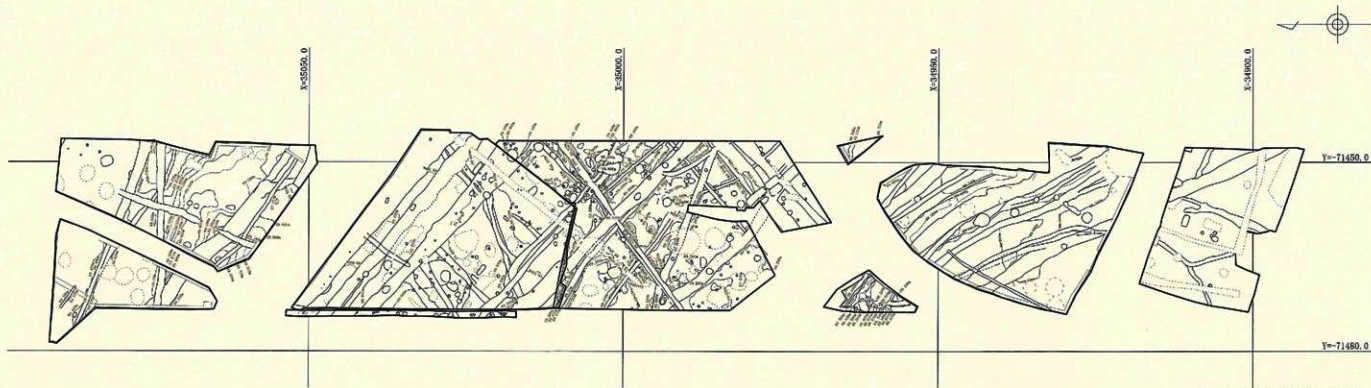
第2圖 上中居前屋敷敷道跡周辺遺跡分布圖

第1表 上中居前屋敷遺跡周辺遺跡一覧表

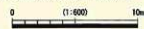
No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	上中居前屋敷遺跡	56	天田Ⅱ遺跡	111	高崎城IV (西ノ側山ノ上ノ遺跡)	164	倉賀野万福寺Ⅱ遺跡
2	下中居天神宮遺跡	57	宿大領村北遺跡	112	高崎城V (東ノ側山ノ上ノ遺跡)	165	倉賀野宮之前遺跡
3	上中居半塚Ⅰ遺跡	58	宿大領矢島前遺跡	113	高崎城VI (上ノ遺跡)	166	石積野遺跡
4	上中居半塚Ⅱ遺跡	59	天神遺跡	114	高崎城VII (下ノ遺跡)	167	寺尾町下遺跡
5	上中居平塚遺跡3	60	宿大領村東遺跡	115	高崎城VIII (西ノ側山ノ上ノ遺跡)	168	宿後庭古墳(佐野村74)
6	上中居早送場遺跡	61	山崎遺跡	116	高崎城IX (上ノ遺跡)	169	宿後庭古墳(佐野村71)
7	上中居西原屋敷遺跡	62	宿大領村西遺跡	117	高崎城XⅠ (山ノ上ノ側山ノ上ノ遺跡)	170	念仏塚古墳(佐野村60)
8	上中居西原屋敷Ⅱ遺跡	63	南大領中過遺跡	118	高崎城XⅡ (上ノ遺跡)	171	正念寺社古墳(高崎市223)
9	上中居西原屋敷Ⅲ遺跡	64	南大領横原沖遺跡	119	高崎城XⅢ (上ノ遺跡)	172	御天山古墳(高崎市227)
10	上中居西原屋敷遺跡4	65	南大領村南遺跡	120	高崎城下町遺跡	173	御政神社古墳
11	上中居辻茶師遺跡	66	柴崎遺跡群(Ⅱ) (御殿・御殿・御殿・富士塚)	121	城下町Ⅱ遺跡	174	御堂塚古墳(佐野村10)
12	上中居辻茶師Ⅱ遺跡	67	柴崎遺跡群(Ⅳ) (御殿・御殿・御殿)	122	佐野町遺跡	175	浪山古墳(佐野村27)
13	上中居辻茶師遺跡4次調査	68	柴崎遺跡群(Ⅴ) (御殿・御殿・御殿・御殿)	123	奇見町遺跡	176	磯工塚古墳(佐野村65)
14	上中居辻茶師遺跡5次調査	69	西浦・吹手遺跡(御殿1・御殿2)	124	城南小学校前遺跡(御殿西側山ノ上遺跡)	177	長者塚天王山古墳(佐野村34)
15	上中居辻茶師遺跡6次調査	70	柴崎遺跡群・南大領遺跡群 (御殿山ノ上側・御殿・御殿・御殿・御殿・御殿・御殿)	125	新後回中過遺跡(北大塚遺跡)	178	浅間山古墳(倉賀野町1)
16	上中居辻茶師遺跡7次調査	71	貝沢Ⅰ遺跡	126	新後回遺跡	179	大船巻古墳(倉賀野町2)
17	上中居遺跡群	72	貝沢町遺跡	127	新後回遺跡2	180	小島巻古墳(倉賀野町3)
18	上中居南東遺跡2次調査	73	林原作所遺跡	128	相田中遺跡	181	一本杉古墳(倉賀野町6)
19	上中居南東遺跡2次調査	74	日光町遺跡	129	上佐野御嶺遺跡	182	安楽寺古墳
20	中居町一丁目遺跡	75	橋野町Ⅰ遺跡	130	船橋遺跡	183	庚申塚古墳(佐野村62)
21	中居町一丁目遺跡2	76	橋野町Ⅱ遺跡	131	上佐野御嶺遺跡	184	大山古墳(佐野村52)
22	中居町一丁目遺跡3	77	飯ノⅡ遺跡	132	上佐野船橋Ⅱ遺跡	185	茶臼山古墳(佐野村53)
23	矢中遺跡群(中居町二丁目遺跡)	78	飯塚大冢代遺跡	133	上佐野船橋Ⅲ遺跡	186	板石古墳(高崎市207)
24	上中居宇名堂遺跡	79	飯塚Ⅱ東遺跡	134	下佐野一本木遺跡	A	反町遺跡
25	上中居荒神Ⅰ遺跡	80	飯塚東金井遺跡	135	下佐野一本木遺跡2	B	新堀の替(中居の窟)
26	上中居荒神Ⅱ遺跡	81	飯塚東金井Ⅱ遺跡	136	下佐野松谷塚遺跡	C	下中居新井敷敷
27	上中居荒神遺跡3次調査	82	飯塚西金井遺跡	137	下佐野長者塚敷遺跡	D	高尾屋敷くぐり塚
28	上中居島原御遺跡	83	飯塚西金井Ⅱ遺跡	138	下佐野遺跡Ⅰ地区	E	下中居扇屋敷
29	高岡高根遺跡	84	昭和町Ⅰ遺跡	139	下佐野遺跡Ⅱ地区	F	下中居坊盛敷
30	高岡塚村遺跡	85	江木西前沖遺跡	140	下之城村北遺跡	G	道橋屋敷
31	高岡塚村遺跡2	86	江木諏訪西遺跡	141	下之城村東遺跡	H	丸尾屋敷
32	高岡村前遺跡	87	東町遺跡	142	下之城村東遺跡2	I	宇名車塚原遺跡
33	高岡村前Ⅱ遺跡	88	東町Ⅱ遺跡	143	下之城・村東遺跡3	J	扇川屋敷
34	高岡東沖・村南遺跡	89	東町Ⅲ遺跡	144	下之城村西遺跡	K	高岡屋敷(内田屋敷)
35	高岡東沖Ⅱ遺跡	90	東町Ⅳ遺跡	145	下之城村前Ⅰ遺跡	L	大船橋
36	高岡東沖Ⅲ遺跡	91	東町Ⅴ遺跡	146	下之城村前Ⅱ遺跡	M	大船橋
37	岡久保遺跡	92	東町Ⅵ遺跡	147	下之城村前Ⅲ遺跡	a	和巾着(近世高崎城)
38	下中居余塚遺跡	93	岩押町Ⅰ遺跡	148	下之城村前Ⅳ遺跡	b	和巾着
39	下中居余塚Ⅱ遺跡	94	岩押町Ⅱ遺跡	149	下之城村前Ⅴ遺跡	c	和巾着
40	下中居余塚Ⅲ遺跡	95	岩押町Ⅲ遺跡	150	下之城村前Ⅵ遺跡	d	佐野屋敷
41	西島糟ノ沢遺跡	96	柴町Ⅰ遺跡	151	倉賀野西上正六遺跡	e	壺口屋敷
42	新原町遺跡(1～Ⅲ)	97	柴町Ⅱ遺跡	152	倉賀野東上正六遺跡	f	清水屋敷
43	新原八坂遺跡	98	柴町Ⅲ遺跡	153	倉賀野東上正六遺跡(2次)	g	倉賀野新堀敷
44	西島遺跡群(Ⅱ)	99	北沢遺跡	154	倉賀野西下正六遺跡	h	水泉寺の礎
45	西島遺跡群(Ⅳ)	100	高崎後馬場遺跡	155	倉賀野東上Ⅰ遺跡(倉賀野上野町・西野町)	h	水泉寺の礎
46	矢島町村西・南東遺跡	101	双葉町Ⅰ遺跡				
47	上大領八反田遺跡	102	高町Ⅰ遺跡	156	倉賀野余里Ⅱ遺跡(倉賀野上野町・西野町)		
48	上大領東遺跡	103	高町Ⅱ遺跡				
49	上大領坂ノ原遺跡	104	高町Ⅲ遺跡	157	倉賀野余里Ⅲ遺跡(倉賀野上野町)		
50	上大領北宅地遺跡(1・2次)	105	高町Ⅳ遺跡	158	倉賀野余里Ⅳ遺跡(倉賀野上野町)		
51	上大領野地田遺跡	106	高町Ⅴ遺跡	159	倉賀野余里Ⅴ遺跡(倉賀野上野町)		
52	上大領川押Ⅱ遺跡	107	高町Ⅵ遺跡	160	倉賀野余里Ⅵ遺跡(倉賀野上野町)		
53	上大領野宮遺跡	108	高町Ⅶ遺跡	161	倉賀野上新堀Ⅰ遺跡		
54	川原遺跡	109	高町Ⅷ遺跡	162	倉賀野下新堀遺跡		
55	天田遺跡	110	高崎城Ⅲ (西ノ側山ノ上ノ遺跡)	163	倉賀野万福寺遺跡		



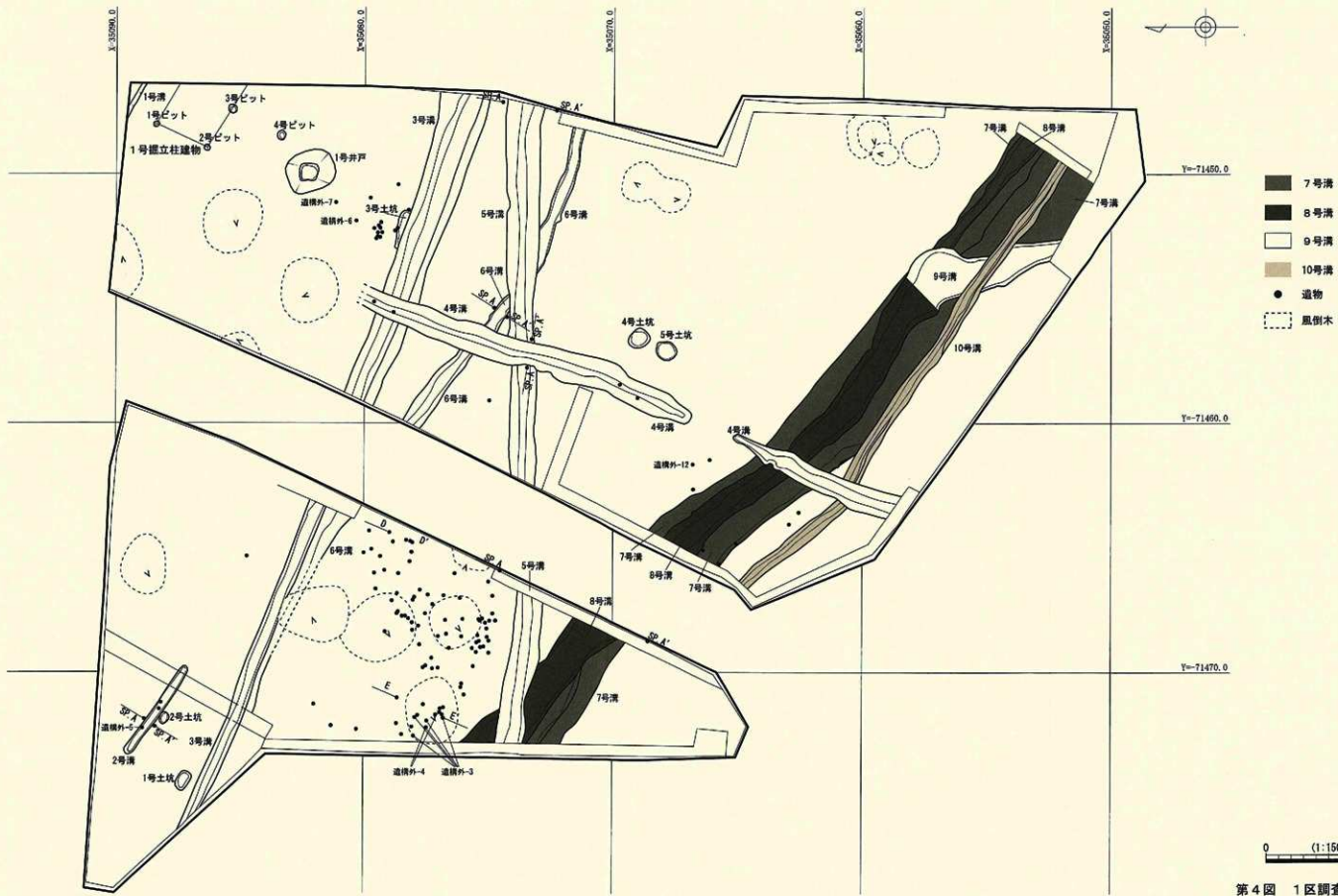
上中居前屋敷遺跡全体図



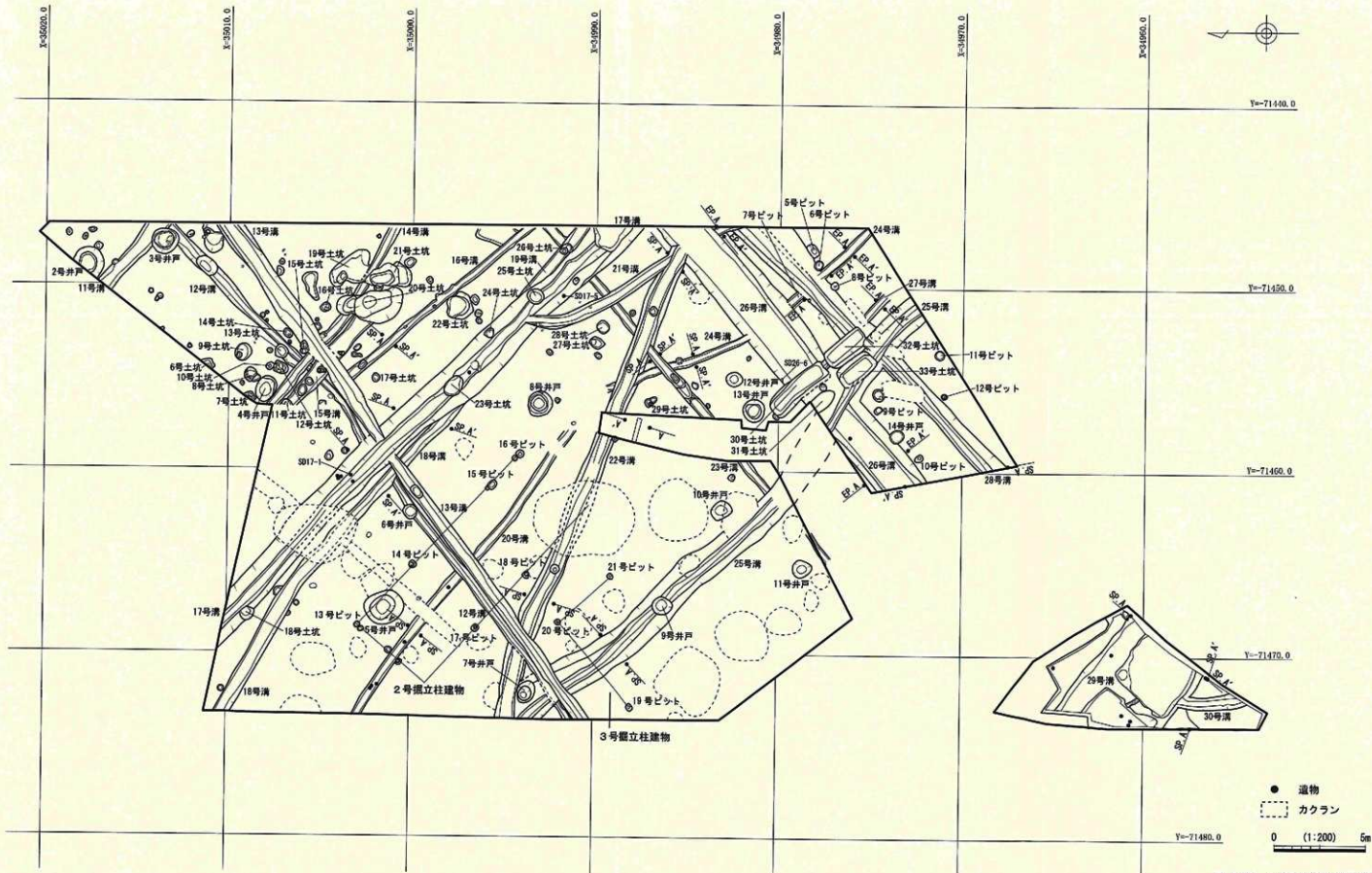
上中居前屋敷遺跡等高線図



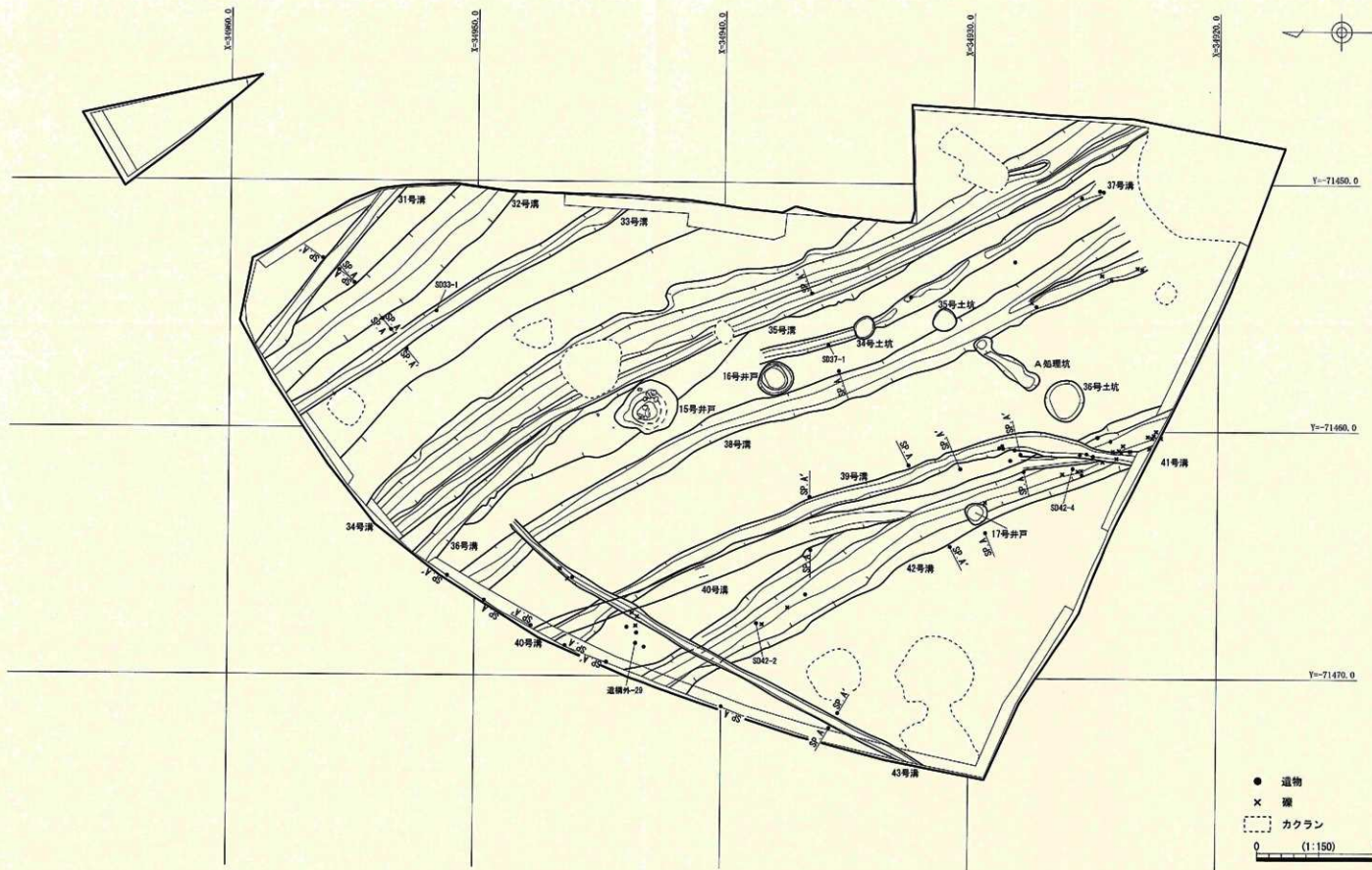
第3図 上中居前屋敷遺跡全体図・等高線図



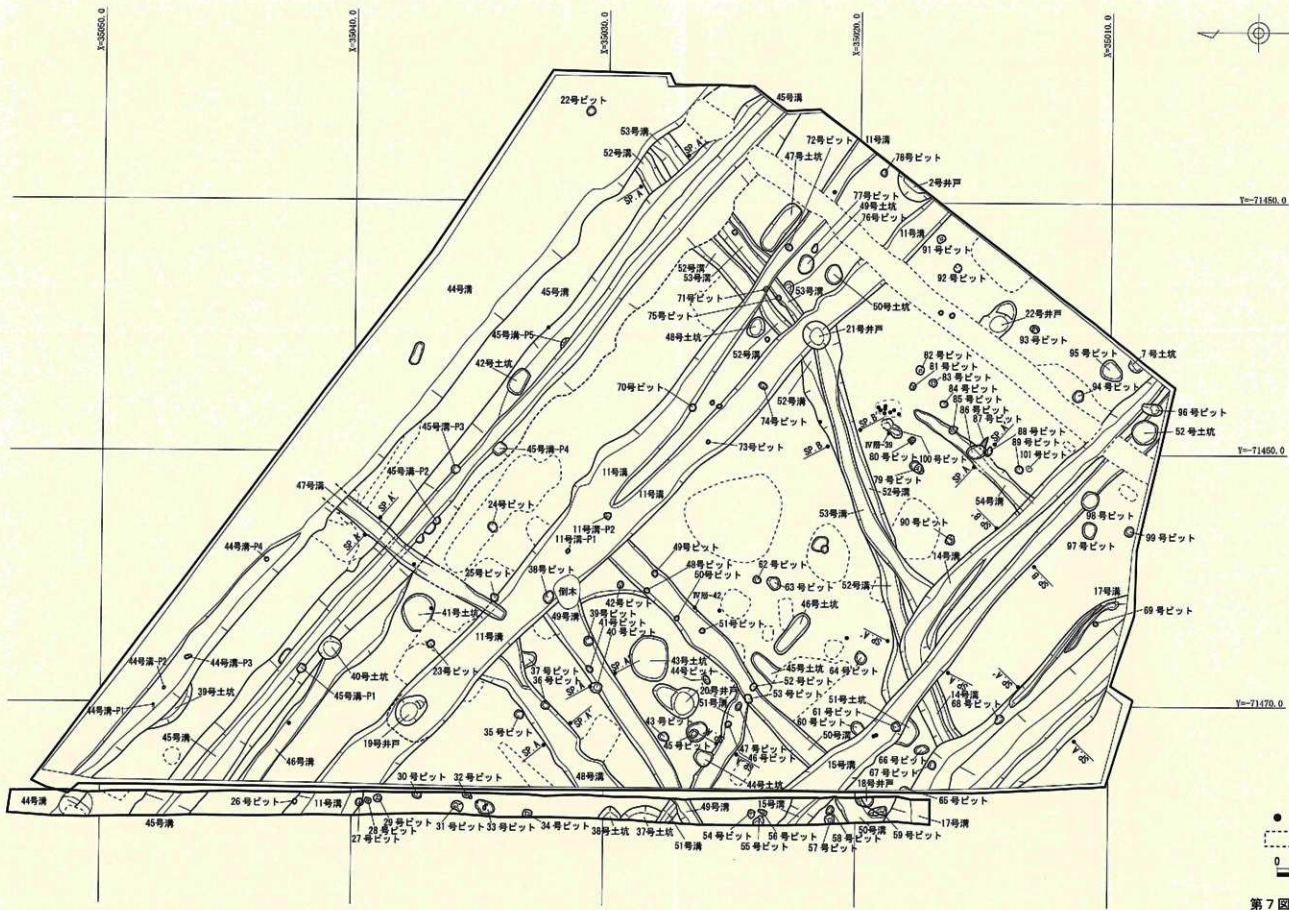
第4図 1区調査区全体図



第5図 2区調査区全体図



第6図 3区調査区全体図

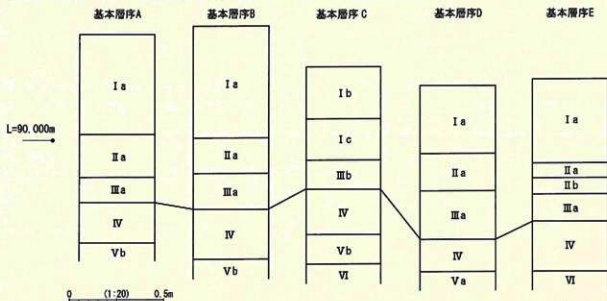


第7図 4区調査区全体図

第3章 検出した遺構・遺物

第1節 基本層序

本遺跡では、I～VI層の基本層序を確認した。I層は現表土・耕作土の一部にあたり、As-A軽石を含む暗褐色～灰黄褐色細砂層である。II層はAs-B軽石を含む黒褐色シルト層で、低地部分でのみAs-B二次堆積層を確認した。III層は黒褐色シルト～砂質土層で原則的にAs-Bなどの軽石を含まない。IV層はAs-C軽石を少量含む黒褐色シルト層で、遺構確認面である。V層は褐色から褐灰色の漸移層であるが、VI層の影響か彩度に乏しい。VI層は高崎泥流層で、低地付近でのみ確認された。なお、微高地上のIIa層およびIII層では洪水由来と想定される黄褐色微砂ブロックを少量混入する。



第8図 基本層序図

基本層序

I a	暗褐色(10YR3/3)	細砂。As-A軽石含む。近現代耕作土
I b	灰黄褐色(10YR4/2)	黄色ブロック・礫やや多量含む。しまり強い、粘性弱い。
I c	にぶい黄色(2.5Y6/3)	黄色砂質土。As-A軽石微量混じる。しまり・粘性極めて弱い。
II a	暗褐色(10YR3/4)	シルト。As-B軽石混じる。
II b	黒褐色(10YR3/2)	シルト。部分的にピンク灰の混じるAs-B軽石主体の層。鉄分沈着。
III a	黒褐色(10YR2/3)	シルト。軽石粒少量含む。
III b	黒褐色(10YR3/1)	砂質土。炭粒・橙色粒微量含む。軽石粒少量含む。しまり強い、粘性弱い。
IV	黒褐色(10YR2/2)	シルト。白色軽石(As-C軽石)少量含む。遺構確認面
V a	褐色(10YR4/4)	シルト。漸移層。
V b	褐灰色(10YR5/1)	シルト。地山ブロック多量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。漸移層。
VI	明黄褐色(10YR7/6)	シルト混じり微砂。高崎泥流層。

第2節 調査の概要

本遺跡は矢中堰と倉賀野堰に挟まれた微高地上に立地している。この微高地には古墳時代から平安時代までの幅広い時期の集落が確認されており、矢中堰沿いでは多くの中世城館があったと推定されている。このうち、下中居新井屋敷・丸茂屋敷の堀が近年の調査により確認されている。

検出した遺構は、中世の掘立柱建物、溝跡54条、井戸跡22基、土坑52基、ピット101基であり、縄文時代および古墳時代から中世まで幅広い時期の遺構を確認した。

第3節 溝跡

検出した溝の総数は54条で、1区で10条、2区で20条、3区で13条、4区で11条を検出した。年代別に見てみると、古墳時代前期8条、古墳時代中期1条、古墳時代後期7条、As-B以前3条、As-B以降1条、中世12条、中世(15世紀)以前6条、中世～近世2条、近世5条、時期不明3条などとなっている。出土遺物を見ても、3・7号溝から古墳前期を中心とする二重口縁壺・小型丸底壺・S字壺・樽式土器が多量に出土し、溝群の中で古い様相を呈する。また、11・13・15号溝からは13世紀後半から14世紀初頭の軒瓦を含む多量の瓦類と瓦質火鉢が出土しており、17号溝では経筒底板、27号溝では板葺、44号溝では小型の五輪塔が出土するなど中世寺院関連の貴重な資料となった。

1号溝(第9図)

走行方向：走行方位はN-58°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長1.4m、上幅1.2m、下幅0.34m、深さ96cm 出土遺物：土師器壺 覆土：上層に洪水起源とみられる微砂が堆積し、下層には黒褐色粘土層が堆積することから、一時滞水状態にあったものが洪水により埋没したと考えられる。 遺構年代：出土遺物から古墳時代を上限とすると考えられる。

2号溝(第9図)

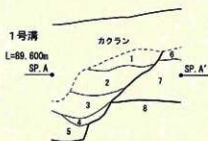
走行方向：走行方位はN-55°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長4.3m、上幅0.34m、下幅0.2m、深さ20cm 出土遺物：なし 覆土：細砂混じりシルト層が堆積するが非常に浅く、溝として機能していたかは不明。 遺構年代：不明

3号溝(第10～12図)

重複：4号溝に切られる 走行方向：走行方位はN-68°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長32.0m、上幅2.0～2.3m、下幅0.3～0.4m、深さ50～78cm 出土遺物：須恵器環、土師器環・大環・器台・壺・二重口縁壺・小型丸底壺・壺・台付壺・小型壺、S字壺、樽式土器、縄文土器(加曾利E3) 覆土：下層に水成堆積が確認できることから水路と考えられる。 遺構年代：覆土にAs-C軽石を含む、古墳時代前期の遺物が多量に出土することから、古墳時代前期と考えられる。

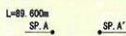
4号溝(第9・12図)

重複：3・5～8・10号溝を掘り込む 走行方向：走行方位はN-22°-Eで、北東から南西に流れる 規模・形状：検出長23.5m、上幅0.8m、下幅0.3m、深さ43cm 出土遺物：土師器壺・S字壺・小型壺、軟質陶器鉢、縄文土器(加曾利E3) 覆土：上層は微砂をブロック状に含み、下層は黒褐色粘質土層が堆積することから、滞水状態の時期もあったと考えられる。 遺構年代：Hr-FA起源とみられる洪水層を覆土とする6号溝を掘り込むことから、6世紀初頭以降の開削と考えられる。



- 1 暗褐色土(10YR3/3) 白色パミスをおおむね含む、粘質やや硬、1号溝フタ土
- 2 暗褐色土(10YR3/4) やや硬の大きい白色パミスを含む、1号溝フタ土
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 部分的に砂粒を含む、1号溝フタ土
- 4 暗褐色土(10YR2/3) 粘質やや硬、1号溝フタ土
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 粘質やや硬、1号溝フタ土
- 6 黒褐色土(10YR2/2) 白色パミスを含む、堆山
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 白色パミスを含む、堆山
- 8 褐色シルト(10YR4/6) 堆山

2号溝



- 1 黒褐色(10YR2/2) 細砂混じりシルト、小窪含む。

4号溝

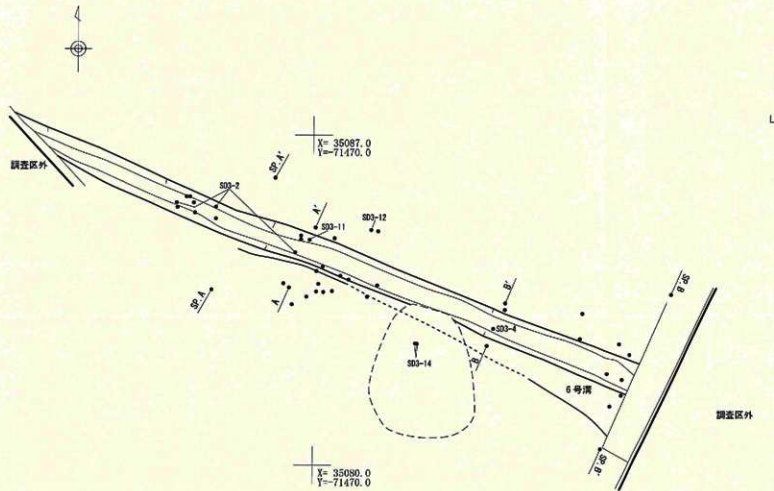


- 1 黒褐色土(10YR2/3) 白色パミス・微砂粒を含む、粘質強い。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) シルト粒を含む、粘質やや硬。

0 (1:40) 1m

(断面図)

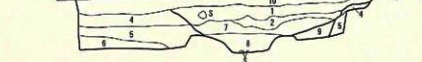
第9図 1・2・4号溝断面図



3号溝
L=89.600m
SP. A



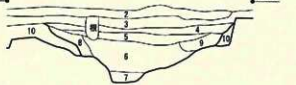
3号溝
L=89.600m
SP. B



- 1 黒褐色(10YR2/2) シルト、暗褐色シルトブロック含む。上部にAe-2bミズを含む。3号溝フタ土。
- 2 黒褐色(10YR2/2) 腐葉土。3号溝フタ土。
- 3 黒褐色(10YR2/2) シルト。3号溝フタ土。
- 4 暗褐色(10YR3/2) シルト。Ae-2cミズを含む。基本副序層a層。
- 5 黒褐色(10YR2/2) シルト。Ae-2bミズを含む。岡山黄色土ブロック含む。基本副序層。

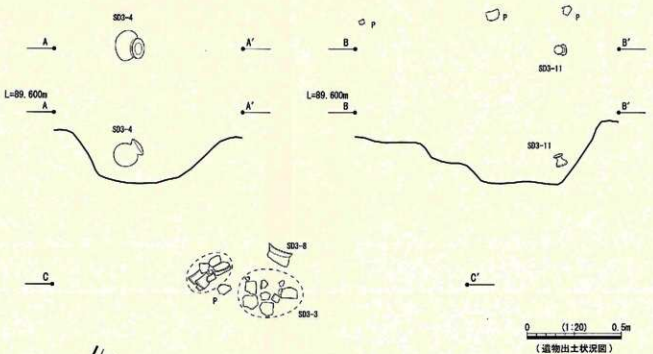
- 6 褐色(10YR4/4) シルト、油土。
- 7 暗褐色(10YR3/2) 鉄水浸潤と想定される熟砂土層の残。3号溝フタ土。
- 8 暗褐色(10YR3/2) 岡山黄鉄土と想定されるシルト-細砂のフタ土状堆積。厚(4.3cm)砂を含む。3号溝フタ土。
- 9 暗褐色(10YR3/2) 鉄水浸潤と想定されるシルト-熟砂土層の残。6号溝フタ土。
- 10 暗褐色(10YR3/2) 暗褐色ヒラシルト。Ae-2bミズを含む。

3号溝
L=90.000m
SP. C

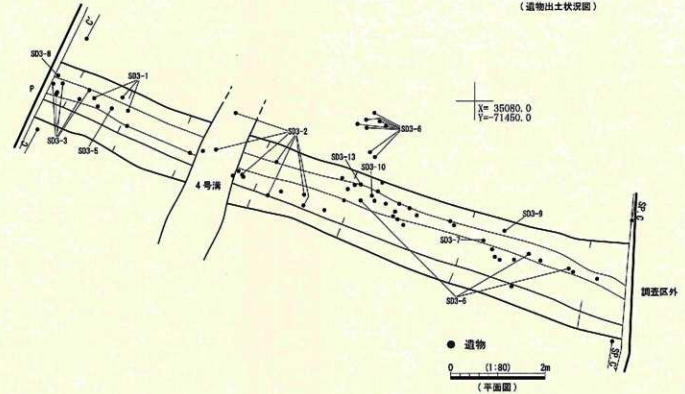


- 1 暗褐色(10YR3/2) 砂砂。Ae-2bミズを含む。近畿代群粘土。
- 2 暗褐色(10YR3/2) シルト。
- 3 黒褐色(10YR2/2) シルト。基本副序層a層。
- 4 黒褐色(10YR2/2) シルト。暗褐色シルトブロック含む。3号溝フタ土。
- 5 黒褐色(10YR2/2) 腐葉土。3号溝フタ土。
- 6 暗褐色(10YR3/2) 岡山黄鉄土と想定されるシルト-細砂のフタ土状堆積。3号溝フタ土。
- 7 褐色(10YR4/4) シルト。3号溝フタ土。
- 8 暗褐色(10YR3/2) 岡砂質シルト。3号溝フタ土。
- 9 暗褐色(10YR3/2) シルト。Ae-2cミズを含む。3号溝フタ土。
- 10 黒色(10YR2/1) シルト。Ae-2bミズを含む。基本副序層a層。

3号溝遺物出土状況図



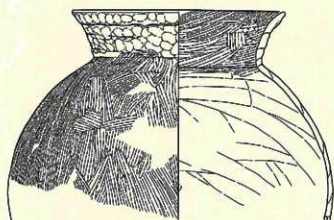
0 (1:200) 0.5m
(遺物出土状況図)



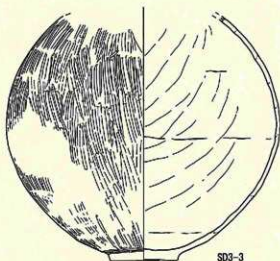
● 遺物
0 (1:80) 2m
(平面図)

第10図 3号溝平面図・断面図

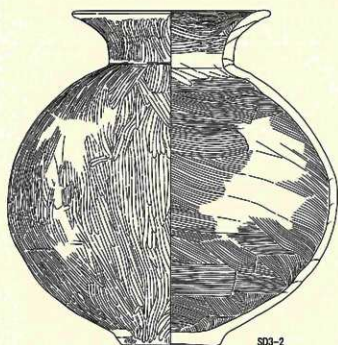
0 (1:400) 1m
(断面図)



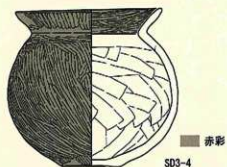
SD3-1



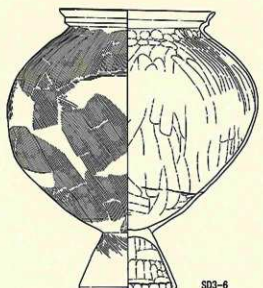
SD3-3



SD3-2



SD3-4



SD3-6

0 (1:4) 10cm
(SD3-36)

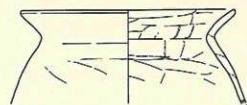


SD3-5



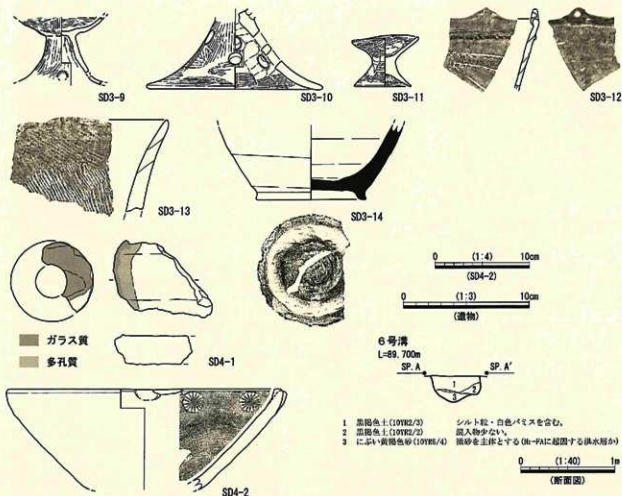
SD3-7

0 (1:3) 10cm
(遺物)



SD3-8

第11图 3号溝出土遺物図



第12図 6号溝断面図および3・4号溝出土遺物図

5号溝 (第13図)

重複：6・7号溝を掘り込み、4号溝に切られる 走行方向：走行方位は $N-90^{\circ}-E$ で、西から東に流れる 規模・形状：検出長26.0m、上幅1.6～2.6m、下幅0.5m、深さ76～84cm 出土遺物：なし 覆土：Hr-FAの洪水起源とみられる微砂がレンズ状に堆積することから、複数回の洪水によって埋没した水路と考えられる。 遺構年代：Hr-FA起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、6世紀初頭以前の開削と考えられる。

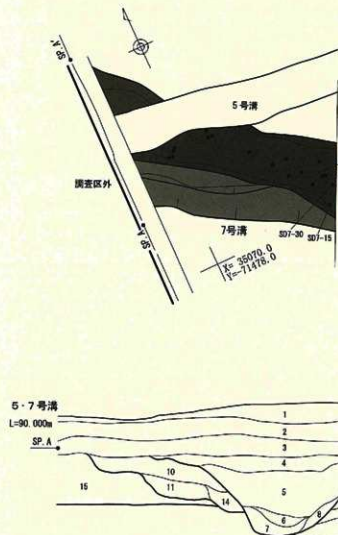
6号溝 (第12図)

重複：4・5号溝に切られる 走行方向： $N-60^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長27.3m、幅0.5～0.8m、深さ27cm 出土遺物：土師器 覆土：下層にHr-FAの洪水起源とみられる微砂が堆積することから水路と考えられる。 遺構年代：Hr-FA起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、6世紀初頭以前の開削と考えられる。

7号溝 (第13～17図)

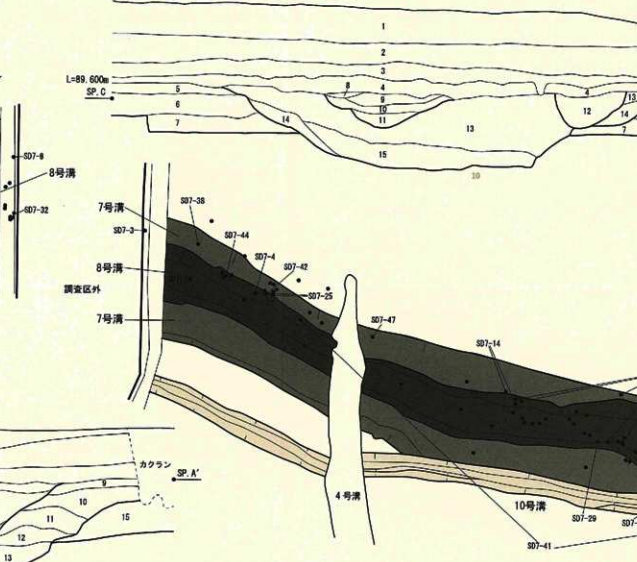
重複：4・5・8・9号溝に切られる 走行方向：走行方位は $N-38^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長35.0m、上幅2.4～3.8m、下幅0.6～1.8m、深さ50～90cm 出土遺物：土師器 高坏・器台・壺・二重口縁壺・小型丸底壺・甕・台付甕・S字甕・小型甕・鉢、樽式土器、縄文土器(加曾利E3、後期) 覆土：上層に黒褐色～黒色のシルト層、下層に微砂主体の洪水堆積層とシルト～微砂主体の水成堆積が確認できることから、水路が洪水によって埋没し洪水堆積層が土壌化したものと考えられる。 遺構年代：出土遺物により古墳時代前期のものと考えられる。

5・7～10号溝



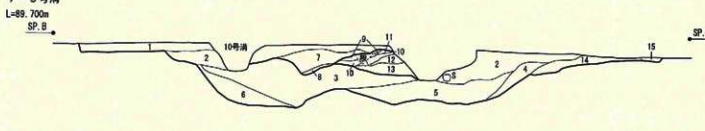
- 1 褐色色 (10YR2/3) 細砂, Ae-β+ミズを含む, 基本層付14層, 近現代堆積土
- 2 緑褐色 (10YR2/2) 細砂, Ae-β+ミズを含む
- 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズを含む, 主に黄褐色微砂ブロック (0~4%) 混入の多量含む
- 4 暗褐色 (10YR2/3) 微砂, 8号溝フタ土
- 5 暗褐色 (10YR2/4) 微砂, 埋没土ブロック混入, 8号溝フタ土
- 6 暗褐色 (10YR2/3) 微砂, 主に黄褐色微砂ブロック内に含有8号溝フタ土
- 7 暗褐色 (10YR2/3) シルト, 主に黄褐色微砂ブロック次に多量含む, 8号溝フタ土
- 8 黄褐色 (10YR2/4) シルト, Ae-β+ミズ多量含む
- 9 褐色 (10YR4/4) シルト, 黄褐色微砂, 7号溝フタ土
- 10 黒褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズ混入, 7号溝フタ土
- 11 黒色 (10YR2/1) シルト, 暗褐色シルトブロック混入, 7号溝フタ土
- 12 暗褐色 (10YR2/3) 洪水堆積と想定される微砂主体の層, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 13 褐色色 (10YR2/3) 河川堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 14 灰褐色 (10YR4/2) 洪水堆積と想定されるシルト~微砂の層, 7号溝フタ土
- 15 黒褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズ多量含む

7・8・10号溝



- 1 褐色色 (10YR4/4) シルト, 洪水堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 2 暗褐色 (10YR2/3) 洪水堆積と想定される微砂主体の層, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 3 暗褐色 (10YR2/3) 河川堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 4 灰褐色 (10YR4/2) 洪水堆積と想定されるシルト~微砂の層, 7号溝フタ土
- 5 黒褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズ多量含む

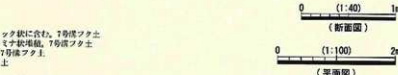
7～9号溝



- 1 黒褐色 (10YR2/3) シルト, 洪水堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 2 暗褐色 (10YR2/2) 洪水堆積と想定される微砂主体の層, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 3 暗褐色 (10YR2/2) 河川堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 4 暗褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズ多量含む
- 5 暗褐色 (10YR2/3) 洪水堆積と想定される微砂主体の層, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 6 暗褐色 (10YR2/3) 河川堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 7 暗褐色 (10YR2/3) 洪水堆積と想定される微砂主体の層, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 8 暗褐色 (10YR2/3) 河川堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 9 灰褐色 (10YR4/2) 洪水堆積と想定されるシルト~微砂の層, 7号溝フタ土
- 10 黒褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズ多量含む
- 11 暗褐色 (10YR2/3) 洪水堆積と想定される微砂主体の層, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 12 暗褐色 (10YR2/3) 河川堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 13 暗褐色 (10YR2/3) 洪水堆積と想定される微砂主体の層, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 14 暗褐色 (10YR2/3) 河川堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 15 暗褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズ多量含む

- 1 褐色 (10YR4/4) 細砂, Ae-β+ミズを含む, 基本層付14層, 近現代堆積土
- 2 緑褐色 (10YR2/2) 細砂, Ae-β+ミズを含む
- 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズを含む, 主に黄褐色微砂ブロック (0~4%) 混入の多量含む
- 4 暗褐色 (10YR2/3) 微砂, 8号溝フタ土
- 5 暗褐色 (10YR2/4) 微砂, 埋没土ブロック混入, 8号溝フタ土
- 6 暗褐色 (10YR2/3) 微砂, 主に黄褐色微砂ブロック内に含有8号溝フタ土
- 7 暗褐色 (10YR2/3) シルト, 主に黄褐色微砂ブロック次に多量含む, 8号溝フタ土
- 8 黄褐色 (10YR2/4) シルト, Ae-β+ミズ多量含む
- 9 褐色 (10YR4/4) シルト, 黄褐色微砂, 7号溝フタ土
- 10 黒褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズ混入, 7号溝フタ土
- 11 黒色 (10YR2/1) シルト, 暗褐色シルトブロック混入, 7号溝フタ土
- 12 暗褐色 (10YR2/3) 洪水堆積と想定される微砂主体の層, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 13 褐色色 (10YR2/3) 河川堆積と想定されるシルト~微砂主体のクマシテ堆積, 礫 (φ3~5mm) 多量含む, 古墳時代前期の遺物多量含む, 7号溝フタ土
- 14 灰褐色 (10YR4/2) 洪水堆積と想定されるシルト~微砂の層, 7号溝フタ土
- 15 黒褐色 (10YR2/2) シルト, Ae-β+ミズ多量含む

- 7号溝
- 8号溝
- 9号溝
- 10号溝
- 遺物



第13図 5号溝断面図および7～10号溝平面図・断面図

8号溝 (第13図)

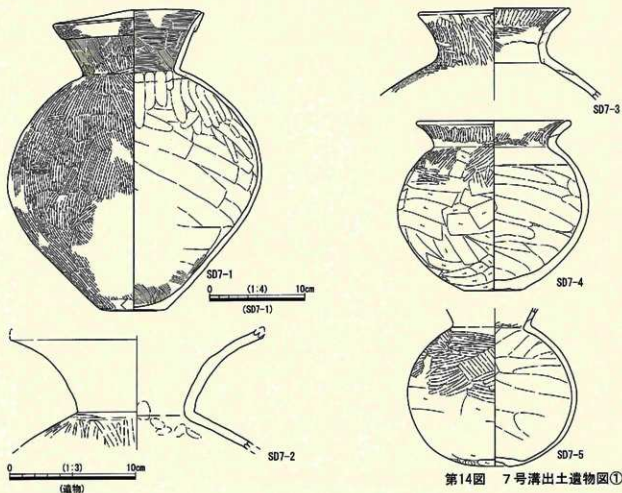
重複：7号溝を掘り込み、4・9号溝に切られる 走行方向：走行方位は $N-54^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長31.6m、上幅1.4m、下幅0.58m、深さ33~54cm 出土遺物：土師器甕・S字甕、縄文土器(縄文中期後葉) 覆土：上層にHr-FAの洪水起源とみられる微砂が堆積し、下層に微砂主体の水成堆積が確認できることからHr-FA起源の洪水により埋没した水路と考えられる。 遺構年代：Hr-FA起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、6世紀初頭以前の開削と考えられる。

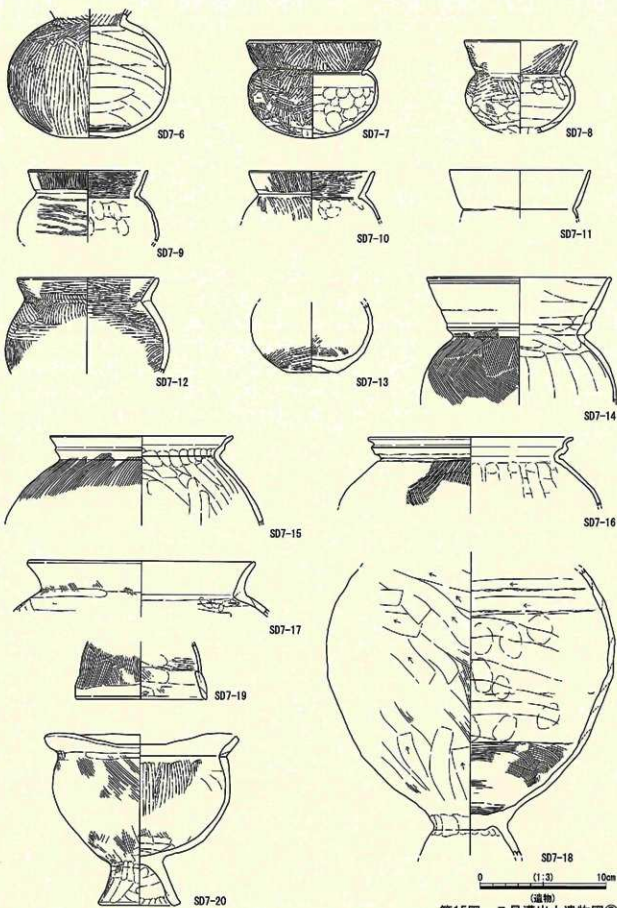
9号溝 (第13・17図)

重複：7・8号溝を掘り込み、10号溝に切られる 走行方向：走行方位は $N-10^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長4.7m、上幅2.2m、下幅1.96m、深さ20cm 出土遺物：土師器高坏・壺・二重口縁壺・甕・台付甕・S字甕、縄文土器(加曾利E3) 覆土：上層にHr-FAの洪水起源とみられる微砂ブロックを含むシルト層が堆積し、下層に細砂~微砂主体の水成堆積が確認できることから、Hr-FA起源の洪水により埋没した水路と考えられる。 遺構年代：Hr-FA起源と考えられるブロックを覆土に含むことから、6世紀初頭以前の開削と考えられる。

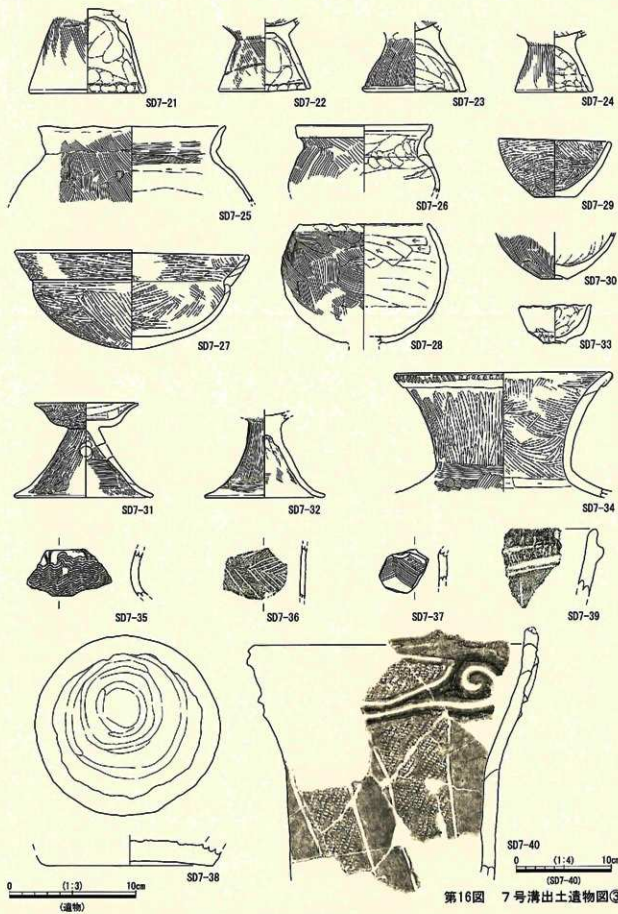
10号溝 (第13図)

重複：9号溝を掘り込み、4号溝に切られる 走行方向：走行方位は $N-55^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長21.3m、幅0.6m、深さ34cm 出土遺物：土師器甕・S字甕、縄文土器(縄文中期後葉) 覆土：Hr-FAの洪水起源とみられる微砂ブロックを含むシルト層が堆積することから、Hr-FA起源の洪水によって埋没し洪水堆積層が土壌化したものと考えられる。 遺構年代：Hr-FA起源と考えられるブロックを覆土に含むことから、6世紀初頭以前の開削と考えられる。

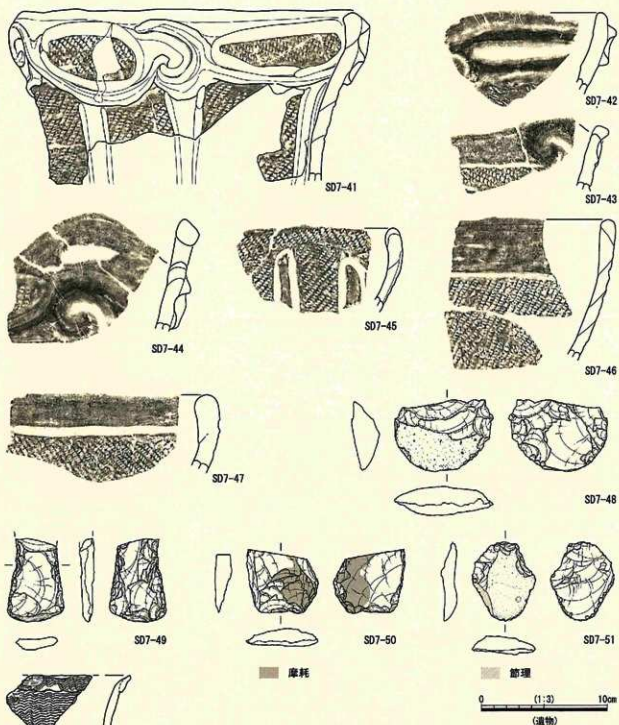




第15図 7号溝出土遺物図②



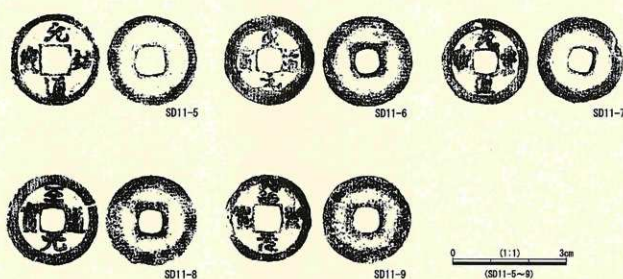
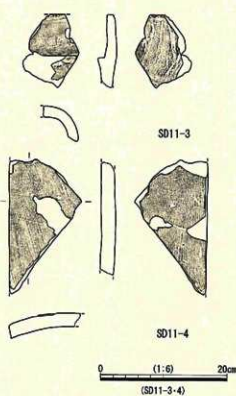
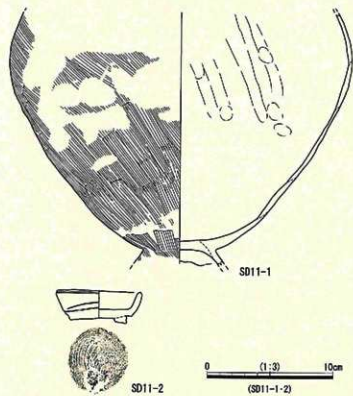
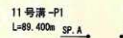
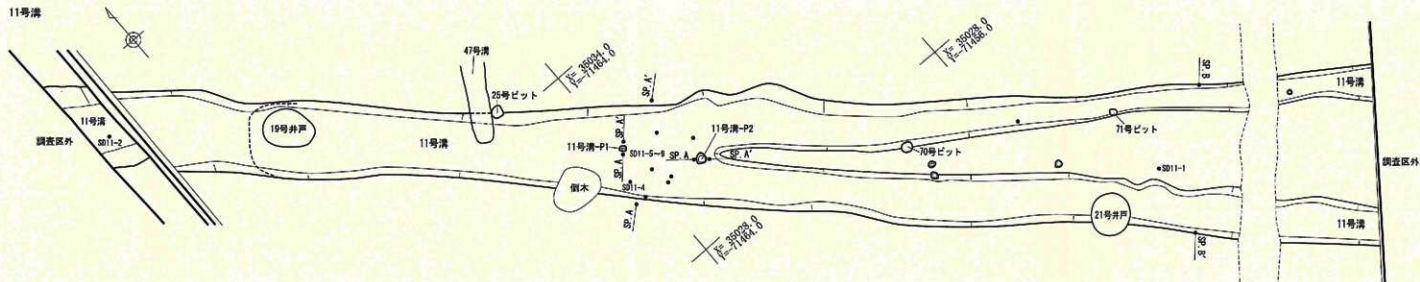
第16图 7号溝出土遺物③



第17図 7・9号溝出土遺物図

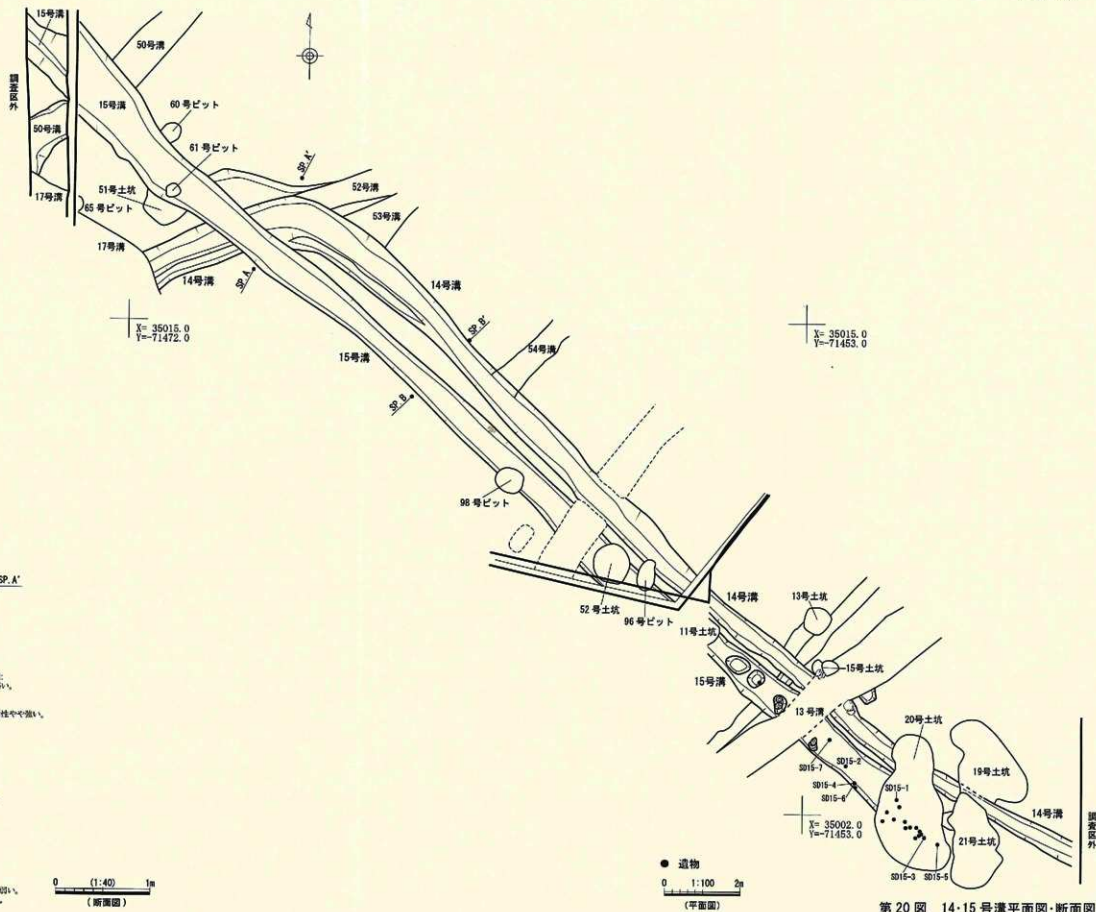
11号溝 (第18図)

重複：3号井戸に切られる。12号溝と重複するが前後関係不明。 走行方向：走行方位はN-50°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長38.5m、上幅1.0m、深さ27cm 出土遺物：土師質土器皿、丸瓦・平瓦、土師器坏・甕・S字甕・小型甕 覆土：中層に洪水起源とみられる黄色砂質土を微量含み、下層は水成堆積が確認できることから、水路と考えられる。 遺構年代：出土遺物および覆土の状況から、中世のものと考えられる。 所見：13号溝と連続するL字状の区画溝となる可能性も考えられる。



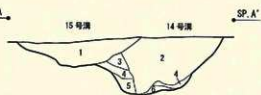
第18図 11号溝平面図・断面図および出土遺物図

14・15号溝



14号-15号溝

L=89.800m SP.A



- 1 黒褐色土 (H09K2/1) 白・棕色軽石碎多量。しまり強い。粘り強い。15号溝アタシ。
- 2 黒褐色土 (H09K4/1) 褐色軽石や中多量。しまり強い。粘り強い。
- 3 黒褐色土 (H09K4/1) 白・褐色軽石や中少量。しまり・粘り中強い。
- 4 黒褐色土 (H09K4/1) ベヤ中厚。埋込ブロック少量。しまり強い。粘り中強い。
- 5 黒褐色土 (H09K4/1) 埋込ブロックが多量。埋込埋込中。しまりや中強い。粘り中強い。
- 6 黒褐色土 (H09K4/1) 粘り中。埋込埋込中。しまり・粘り中強い。
- 11 号溝アタシ

14号-15号溝

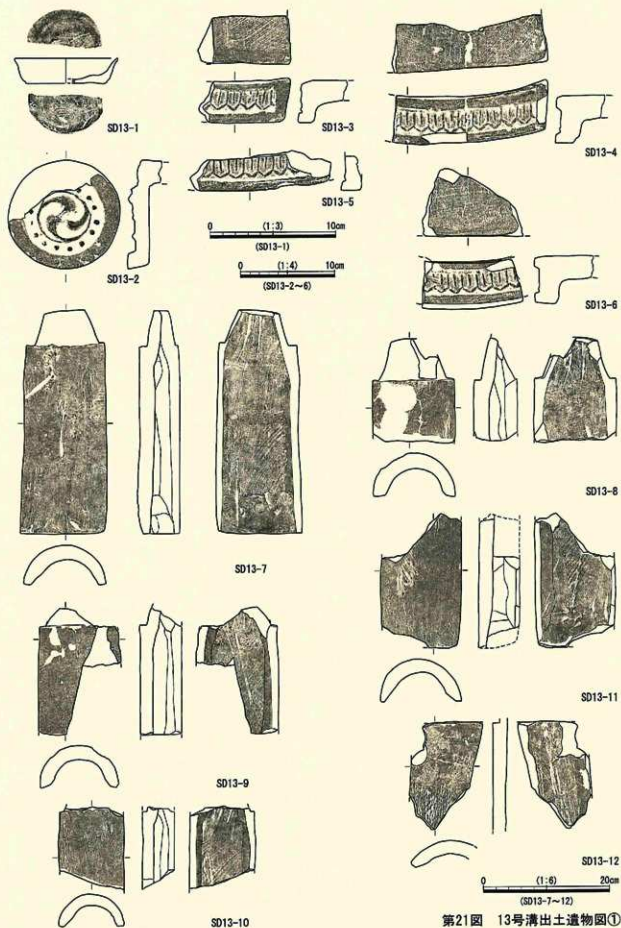
L=89.800m SP.B



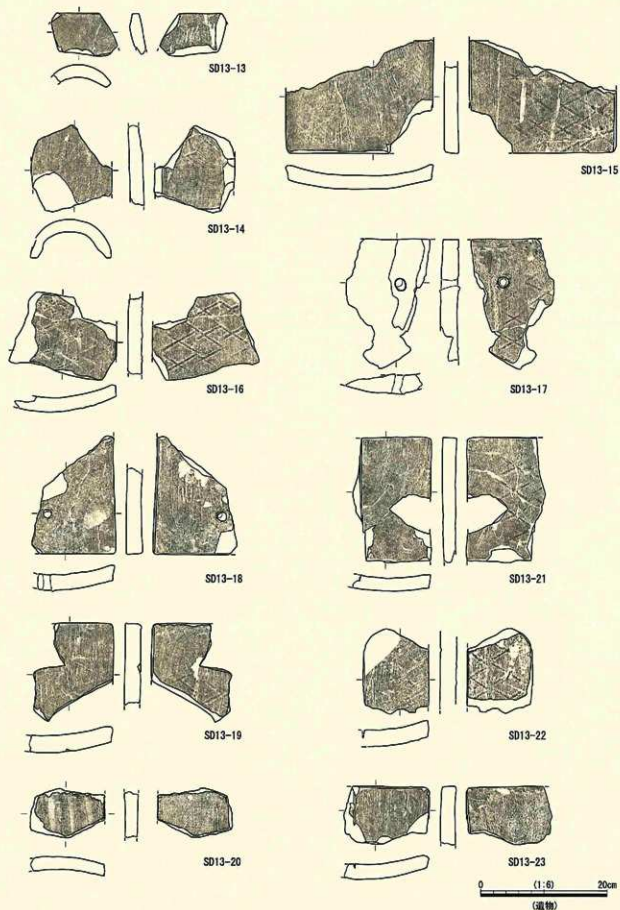
- 1 黒褐色土 (H09K4/1) 白色軽石多量。黄褐色や中少量。しまり強い。粘り強い。
- 2 黒褐色土 (H09K4/1) 埋込ブロック多量。しまり・粘り中強い。
- 3 黒褐色土 (H09K4/1) 粘り中少量。小石ごく少量。しまりや中強い。粘り中強い。
- 4 黒褐色土 (H09K4/1) 粘り中少量。埋込ブロック少量。しまり強い。粘り中強い。

0 (1:400) 1m
(断面図)● 遺物
0 1:100 2m
(平面図)

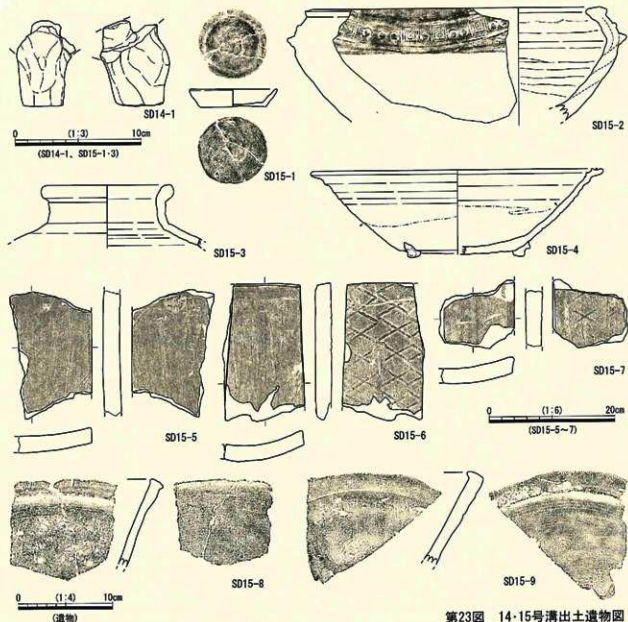
第20図 14-15号溝平面図・断面図



第21図 13号溝出土遺物図①



第22図 13号溝出土遺物図②



第23図 14・15号溝出土遺物図

16号溝 (第24図)

走行方向：走行方位は $N-40^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長13.0m、上幅0.6m、下幅0.5m、深さ20cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物：丸瓦、土師器S字甕 覆土：下層に黄褐色粒を含む。 遺構年代：出土遺物から14世紀以降の廃絶と考えられる。 所見：遺構群の東辺を区画する溝と考えられ、23号溝と連続するL字状の溝である可能性が高い。

17号溝 (第24・25図)

重複：12・17～19・23号溝を掘り込み、13号溝・18・23～25号土坑に切られる 走行方向：走行方位は $N-48^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長40.7m、幅1.6～2.2m、深さ64～84cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物：丸瓦・平瓦、土師質土器皿、内耳鍋・鉢、焼締陶器、漆器、銅製品(経筒底板か) 覆土：上層は黄褐色粒を含むシルト層、下層は黒褐色粘質土層が堆積することから、水を溜めた堀のような性格をもった区画溝と考えられる。 遺構年代：出土遺物の帰属年代から15世紀以降の廃絶と考えられる。

18号溝(第24図)

重複: 17号溝に切られる 走行方向: 走行方位は $N-60^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長38.8m、幅0.6~0.9m、深さ38cm 出土遺物: なし 覆土: 洪水起源とみられるにぶい黄褐色の砂質土層でシルトブロックをわずかに含む。 遺構年代: 15世紀以降に廃絶した17号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

19号溝(第25図)

重複: 17号溝・26号土坑に切られる 走行方向: 走行方位は $N-50^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長6.3m、幅0.6m、深さ28cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物: なし 覆土: 暗褐色粘質土層でシルトブロックを多量に含む。 遺構年代: 15世紀以降に廃絶した17号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

20号溝(第25図)

重複: 12・13号溝に切られる 走行方向: 走行方位は $N-52^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長19.4m、上幅0.6m、下幅0.4m、深さ16cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物: 土師器・丸・壺、縄文土器(加曾利E3) 覆土: 下層に地山黄色土ブロックを含むことから人為的な埋没の可能性がある。 遺構年代: 15世紀以降に廃絶した13号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。上限は不明であるが、中世の遺構群とは主軸が異なるため、出土遺物の帰属年代である古墳時代まで遡る可能性もある。

21号溝(第25図)

重複: 23号溝を掘り込む。22・26・28号溝と重複するが前後関係不明。 走行方向: 走行方位は $N-32^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長12.2m、上幅0.6m、下幅0.2m、深さ38cm 出土遺物: なし 覆土: 下層に黒褐色粘質土層が堆積することから、滞水状態の時期もあったと考えられる。 遺構年代: 15世紀以降に廃絶した23号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

22号溝(第25図)

重複: 7号井戸を掘り込み、12・13・23・24号溝に切られる。21号溝と重複するが前後関係不明。 走行方向: 走行方位は $N-70^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長27.5m、上幅1.0~1.3m、下端0.5m、深さ46cmで底部は平坦である。 出土遺物: 土師器高坏・壺、縄文土器(加曾利E3) 覆土: 上層に黒褐色粘質土層、下層に粗砂から小礫を主体とする水成堆積が確認できることから、当初は水路として使用されていたと考えられる。 遺構年代: 15世紀以降に廃絶した13号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。上限は不明であるが、中世の遺構群とは主軸が異なるため、出土遺物の帰属年代である古墳時代まで遡る可能性もある。

16号溝

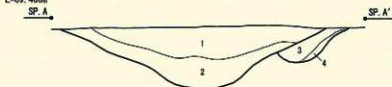
L=89.200m



- 1 黒褐色土(10YR2/3) 粘土質、シルト質、シルト小ブロックを多く含む。
2 黒褐色土(10YR2/3)

17-18号溝

L=89.400m



- 1 黒褐色土(10YR2/3) 赤色粘・バミスを含む。17号溝フタ土
2 黒褐色土(10YR2/2) 赤色粘を含む。17号溝フタ土
3 にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルトをわずかに含む。18号溝フタ土
4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルトブロックを含む。18号溝フタ土

0 (1:40) 1m

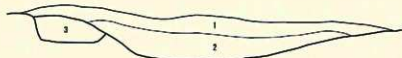
(断面図)

第24図 16~18号溝断面図

17・19号溝

L=89.400m

SP. A



- 1 暗褐色土(10YR2/3) シルト粒・シルトブロックを多く含む。粘性有。17号溝フタ土
- 2 黒褐色土(10YR2/3) シルト粒を含む。粘土塊が多く、17号溝フタ土
- 3 暗褐色土(10YR2/3) シルト粒・シルトブロック・砂粒を多量に含む。19号溝フタ土

20号溝

L=89.300m

SP. A'

SP. A

SP. A'



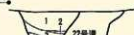
- 1 黒褐色土(10YR2/3) 赤色粒を含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) シルト粒・シルト小ブロックをやや多く含む。

21号溝

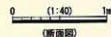
L=89.200m

SP. A

SP. A'



- 1 黒褐色土(10YR2/3) 小塊をブロック状にわずかに含む。21号溝フタ土
- 2 暗褐色土(10YR2/3) 黄褐色シルト・砂粒を含む。21号溝フタ土
- 3 黒褐色土(10YR2/3) シルト粒をわずかに含む。粘性有。21号溝フタ土
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色シルトを多量に含む。粘性有。21号溝フタ土



(断面図)

22号溝

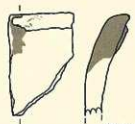
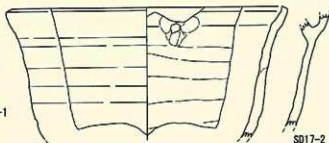
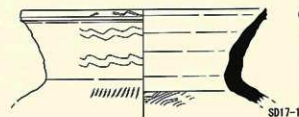
L=89.300m

SP. A

SP. A'

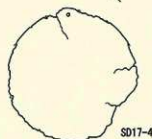


- 1 黒褐色土(10YR2/3) 赤色粒を含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) シルト粒・シルト小ブロックを含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR7/2) シルトを含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 砂粒を多量含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/3) シルト粒・シルトブロックを多量含む。
- 6 砂粒 やや粗の大きい砂を主体とする層。
- 7 黒褐色土(10YR2/3) 砂粒を多量に含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/3) シルトブロックを多量に含む。

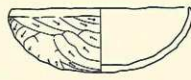


漆付着範囲

SD17-3



SD17-4



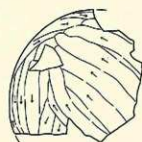
SD17-5

0 (1:4) 10cm

(SD17-2・5)

0 (1:3) 10cm

(遺物)



SD22-1

23号溝 (第26図)

第25図 17・19~22号溝断面図および17・22号溝出土遺物図

重複：22・24号溝を掘り込み、17・19・21号溝に切られる。25号溝と重複するが前後関係不明。
 走行方向：走行方位はN-50°-Eで、北東から南西に流れる 規模・形状：検出長23.7m、上幅0.5m、
 下幅0.4m、深さ20cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物：なし 覆土：下層に地山黄色土ブ
 ロックを多量に含むことから、人為的な埋没の可能性ある。 遺構年代：23号溝と連続すると考
 えられる16号溝の年代により、15世紀以降に廃絶したと考えられる。 所見：遺構群の南辺を区
 画する溝と考えられ、16号溝と連続するL字状の溝である可能性が高い。

24号溝(第26図)

重複: 22号溝を掘り込み、23号溝に切られる。26・28号溝と重複するが前後関係は不明。 走行方向: 走行方位は $N-30^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長17.3m、上幅0.4m、下幅0.3m、深さ22cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物: 土師器坏、縄文土器(加曾利E3) 覆土: 下層に地山黄色土ブロック・黄褐色粒を含む。 遺構年代: 15世紀以降に廃絶した23号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

25号溝(第26図)

重複: 7号井戸を掘り込み、12・13号溝・31・33号土坑に切られる。23・26・28号溝・9号井戸と重複するが前後関係不明。 走行方向: 走行方位は $N-45^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長31.0m、上幅1.6~2.0m、下幅0.5~0.8m、深さ60~70cm 出土遺物: 板碑、土師器壺、縄文土器(縄文中期後葉) 覆土: 黒褐色~暗褐色の粘質土層が堆積することから、水を溜めた堀のような性格をもった区画溝と考えられる。 遺構年代: 15世紀以降に廃絶した13号溝に切られることから、それ以前に開削された溝と考えられる。

23号溝

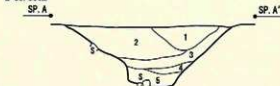
L=89.200m



- 1 黒褐色土(10YR2/2) 粘性や含有。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色シルトブロックを多量に含む。

25号溝

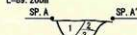
L=89.300m



- 1 黒色土(10YR4/6) 細かい砂粒を含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) シルト。細かい砂粒を含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) シルト。細かい砂粒を含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) ϕ 5mmほどの粒を含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) シルト粒・砂を含む、粘性強い。

24号溝

L=89.200m



- 1 黒褐色土(10YR2/2) シルト皮をわずかに含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 砂粒を多く含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) シルトブロック・砂粒を含む、粘性有。
- 4 黄褐色シルト(10YR6/0) 黒褐色土をブロック状に含む。

0 (1:40) 1m
(断面図)

第26図 23~25号溝断面図

26号溝(第27・28図)

重複: 30~33号土坑・14号井戸に切られる。21・22・24・25号溝と重複するが前後関係不明。 走行方向: 走行方位は $N-50^{\circ}-E$ で、北東から南西に流れる 規模・形状: 検出長18.0m、上幅3.0m、下幅1.5m、深さ50cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物: 丸瓦・熨斗瓦、内耳鍋・片口鉢、陶磁器、石臼、縄文土器(縄文中期後葉) 覆土: 黒褐色土層 遺構年代: 14世紀後半から15世紀代に帰属する内耳鍋や片口鉢、近世の陶磁器類が出土することから、近世に廃絶したと考えられる。ただし、溝の主軸が13・23号溝と近似しており、開削時期は中世まで遡る可能性がある。 所見: 溝の基底部で検出された柱根は9・10号ピットとともに26号溝にかけられた橋脚の柱柱となる可能性がある。

27号溝(第29図)

重複: 28号溝と重複するが、遺構の重複が激しく前後関係不明。 走行方向: 走行方位は $N-45^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長3.6m、上幅0.5m、下幅0.2m、深さ14cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物: 板碑 覆土: 不明 遺構年代: 不明

28号溝(第27・29図)

重複: 32・33号土坑・6~8号ピットに切られる。21・24・25・27号溝と重複するが前後関係不明。 走行方向: 走行方位は $N-48^{\circ}-W$ で、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長19.0m、上幅1.2~2.4m、下幅0.26~0.4m、深さ50cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物: 丸瓦、内耳鍋、焼締

陶器、陶磁器、縄文土器（縄文中期後葉） 覆土：上層にAs-A軽石を多量に含み、下層は小礫をやや多量に含む黒褐色粘質土層が堆積する。このことから、水を溜めた堀のような性格をもった溝と考えられるが、水路として使用された時期もあったとみられる。 遺構年代：上層にAs-A軽石を含むことから、近世に廃絶したと考えられる。

29号溝（第27～29図）

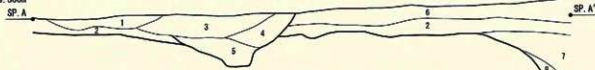
重複：30号溝を掘り込む 走行方向：走行方位はN-50°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長6.0m、上幅5.0m、下幅3.0m、深さ1.0mで底部は平坦である。 出土遺物：内耳鍋、陶磁器、漆器、曲げ物、こも編み石 覆土：上層はAs-A軽石を含む砂質土、中層は黒褐色土層、下層は細砂を主体とする水成堆積層で部分的にAs-A軽石が介在する。調査区西壁では中層でAs-A一次堆積層が確認できる。 遺構年代：As-A一次堆積層を覆土とすることから、近世のものと考えられる。

30号溝（第27図）

重複：29号溝に切られる 走行方向：走行方位はN-5°-Wで、北から南に流れる 規模・形状：検出長3.5m、上幅0.7m、下幅0.5m、深さ80cmで底部はほぼ平坦である。 出土遺物：なし 覆土：上層は黒褐色粘質土層、中層は灰黄褐色砂質土、下層はシルトブロックを多量に含む粘質土が堆積することから、滞水と流水を繰り返していたと考えられる。 遺構年代：遺構の重複関係から、近世以降のものと考えられる。ただし出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

26・28号溝

L=89.300m



- 1 暗褐色土(10YR3/3) As-A・シルト砂を含む、粘性有。
- 2 暗褐色土(10YR2/3) シルト小ブロックをわずかに含む、粘性有。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2) As-A・シルト砂を含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) As-A粒を多く含む、粘性弱い、28号溝フタ土
- 5 暗褐色土(10YR2/2) 小礫を多く含む、粘性有、28号溝フタ土
- 6 暗褐色土(10YR2/3) 赤色粒を多く含む、粘性有。
- 7 暗褐色土(10YR2/2) 赤色粒をわずかに含む、粘性極めて強い、26号溝フタ土
- 8 暗褐色土(10YR2/2) 7層に接するシルトを含む、28号溝フタ土

26号溝

L=89.200m

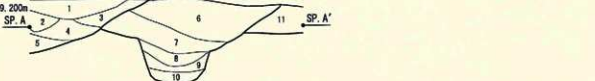


28号溝

L=89.200m

29・30号溝

L=89.200m



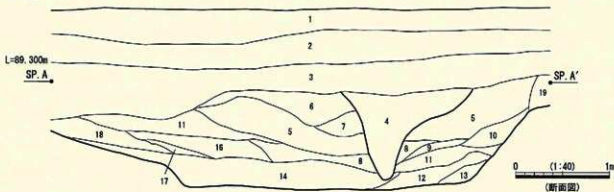
- 1 褐色土(10YR4/4) As-A粒を多く含む、粘性弱い、
- 2 暗褐色土(10YR2/4) 砂粒を含む、粘性やや強い、
- 3 に近い黄褐色土(10YR4/3) 砂粒を含む、粘性有、
- 4 黒褐色土(10YR2/2) As-A粒を含む、粘性やや強い、
- 5 黒褐色土(10YR2/2) As-A粒・砂粒を多量に含む、粘性弱い、
- 6 黒褐色土(10YR2/3) シルトを含み、小礫をわずかに含む、粘性有、30号溝フタ土
- 7 黒褐色土(10YR2/2) シルトを含み、砂粒を含む、粘性やや強い、30号溝フタ土
- 8 灰黄褐色土(10YR5/2) シルトを多く含む、粘性弱い、30号溝フタ土
- 9 黒褐色土(10YR2/2) シルト粒・小ブロックを多く含む、粘性有、30号溝フタ土
- 10 黒褐色土(10YR2/2) 灰黄褐色のシルトブロックを多量に含む、30号溝フタ土
- 11 黒褐色土(10YR2/3) 粘性やや強い、地山（風入物少ない）。



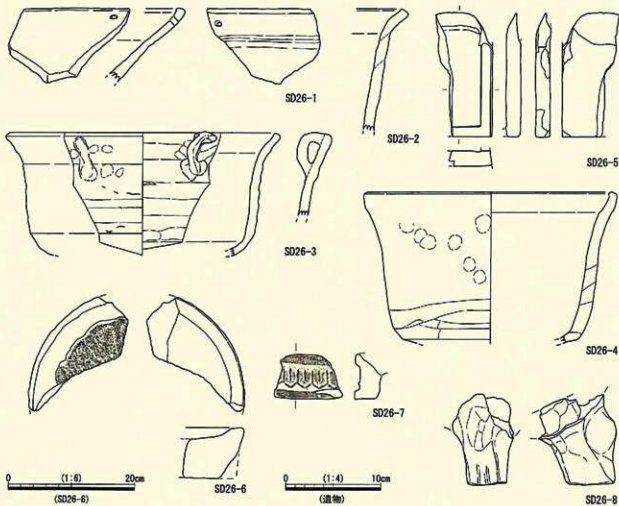
(断面図)

第27図 26・28～30号溝断面図

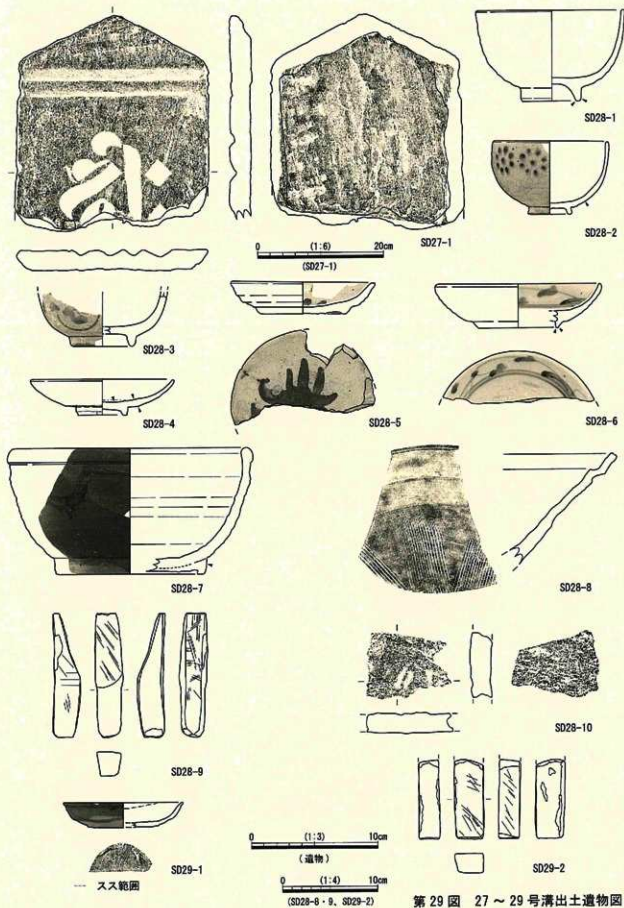
29号溝



- | | | | |
|--------------------|------------------------------|--|-----------------------|
| 1 黒褐色土(10YR2/2) | 泥や腐材を含む。黄土 | 10 黒褐色土(10YR2/2) | シルト小ブロックを含む。粘性強い、 |
| 2 キー層褐色土(10Y4/3) | As-層。小礫を含む。 | 11 灰黒褐色土(10YR2/2) | 砂粒を多量に含む。 |
| 3 黒褐色土(10YR2/2) | As-層を多く含む。 | 12 黒褐色土(10YR2/3) | 黒色土をブロック状に含む。粘性強い、 |
| 4 黒褐色土(10YR2/2) | As-層。砂粒をわずかに含む。 | 13 黒色土(10YR2/1) | 砂粒を含む。粘性強い、 |
| 5 黒褐色土(10YR2/3) | As-層を含む。 | 14 As-層と考えられるバミスと砂の混じり。部分的にシルトブロックを含む。 | |
| 6 暗褐色土(10YR2/4) | As-層。砂粒を含む。粘性弱い。 | 15 暗褐色土(10YR2/2) | シルトブロック・シルト粒を含む。粘性強い、 |
| 7 暗褐色土(10YR2/4) | As-層。砂粒を多く含む。 | 16 濃い黄褐色土(10YR4/3) | 細かい砂粒を多く含む。 |
| 8 にぶい黄褐色土(10YR4/2) | As-層をわずかに含む。細かい砂粒を多く含む。粘性弱い、 | 17 黒褐色土(10YR2/2) | 細かい砂粒を含む。 |
| 9 黒褐色土(10YR2/2) | シルトを含む。粘性強い、 | 18 にぶい黄褐色土(10YR4/2) | 細かい砂粒を多く含む。16層とほぼ同じ土 |
| | | 19 黒褐色土(10YR2/1) | 赤色粒をわずかに含む。地山 |



第28図 29号溝断面図・出土遺物図



第29図 27～29号溝出土遺物図

31号溝(第30図)

重複: 32号溝を掘り込む 走行方向: 走行方位はN-40°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長8.5m、上幅0.6~1.0m、下幅0.28~0.52m、深さ14cmで底部はほぼ平坦である。

出土遺物: 土師器、施軸陶器、縄文土器(縄文中期後葉) 覆土: Hr-FAの洪水起源とみられる土が堆積することから、Hr-FA洪水により埋没したと考えられる。遺構年代: Hr-FA起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、6世紀初頭以前の開削と考えられる。

32号溝(第30-31図)

重複: 31号溝に切られる 走行方向: 走行方位はN-40°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長11.6m、上幅2.0m、下幅0.4m、深さ62cm 出土遺物: 土師器環 覆土: 上層にAs-C軽石粒を含む

遺構年代: 覆土にAs-C軽石を含むことから、As-C降下以前の開削と考えられる。

33号溝(第30-31図)

走行方向: 走行方位はN-30°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長15.4m、上幅0.6~0.84m、下幅0.22~0.4m、深さ23cm 出土遺物: 土師器環・S字甕 覆土: 上層にAs-C軽石粒を含む

遺構年代: 覆土にAs-C軽石を含み、上層から古墳時代中期の土器が出土することから、古墳時代中期頃の廃絶と考えられる。

34号溝(第31図)

重複: 35号溝に切られる 走行方向: 走行方位はN-20°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長33.3m、上幅1.45~1.8m、下幅0.5m、深さ85cm 出土遺物: 須恵器環・甕、土師器環・S字甕、陶器碗・筒型香炉・擂鉢・片口鉢・水注・仏飯器、磁器碗、焼結陶器甕、砥石

覆土: As-A・As-B軽石を少量含む細砂が堆積することから、水路と考えられる。遺構年代: 覆土にAs-A・As-B軽石を含み、18世紀代の陶磁器が多量に出土することから近世に廃絶したと考えられる。ただし、13世紀後半の焼結陶器も出土しており、流れ込みの可能性があるものの開削時期が中世まで遡る可能性もある。

35号溝(第31-32図)

重複: 34・36号溝を掘り込む 走行方向: 走行方位はN-20°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長34.3m、上幅0.5~0.9m、下幅0.3m、深さ58cmで底部はほぼ平坦である。

出土遺物: 土師器高坏、陶器碗・筒型香炉・片口鉢、磁器碗、内耳鍋、縄文土器(縄文中期後葉) 覆土: As-A軽石を含むシルト混じり細砂が堆積することから、水路と考えられる。遺構年代: 覆土にAs-A軽石を含み、18世紀代の陶磁器が出土することから、近世に廃絶したと考えられる。

36号溝(第31-32図)

重複: 35号溝に切られる 走行方向: 走行方位はN-40°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長11.5m、上幅0.4~0.8m、下幅0.3~0.4m、深さ40cmで底部は平坦である。

出土遺物: 土師器環・甕・S字甕、陶器碗・筒型香炉・徳利・猪口、磁器碗、砥石 覆土: As-A軽石を含む黒褐色細砂を覆土とし、上面はAs-A・As-Bを多量に含む細砂が堆積する。遺構年代: 覆土にAs-A軽石を含み、18世紀代の陶磁器が出土することから、近世に廃絶したと考えられる。

31号溝

L=89.800m
SP. A'

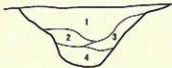


1 茶褐色土、黄色味のある洪水由来の土(Hr-FA洪水?)に混じる。

0 1m
(1:40)
(断面図)

32号溝

L=89.800m
SP. A'



1 暗褐色土、As-C・黄色粒混、粘性弱く、しまり有。
2 1層に混るが色調明るい。
3 基本層(伴埋a層)の粘土質混じり。粘性弱く、しまり有。
4 3層に混るが、砂粒を混じる。

33号溝

L=89.800m
SP. A'



1 暗褐色土、As-C・黄色粒混、粘性弱く、しまり有。
2 1層に混るが、色調明るい。

第30図 31~33号溝断面図

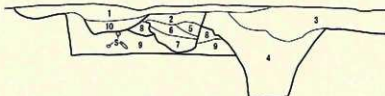
34 ~ 36号溝

34 ~ 36号溝

L=89,900m

SP. A'

Y=34950.0
Y=71460.0

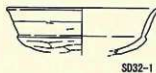


- 1 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, Ae・A・As・B・ミス多量含む, 黄褐色粒(鉄分)多量含む。
- 2 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, Ae・B・ミス混入。
- 3 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, Ae・B・ミス混入。
- 4 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, Ae・A・As・B・ミス少量混入, 黒褐色粒(鉄分)多量混入, 34号溝フタ土
- 5 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり磁粉, Ae・B・ミス混入, 暗褐色シルトブロック多量混入, 磁粉アラス。
- 6 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり磁粉, Ae・B・ミス少量混入, 35号溝フタ土
- 7 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり磁粉, 暗褐色シルトブロック混入, 磁粉アラス
- 8 黒褐色(10YR2/2) 磁粉混じりシルト, 褐色磁粉ブロック多量混入, 地山
- 9 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり磁粉, 地山
- 10 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, Ae・B・ミス混入, 36号溝フタ土
- 11 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, 褐色磁粉ブロック
- 12 暗褐色(10YR2/4) シルト混じり磁粉。

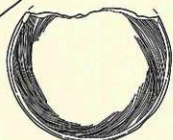
調査区外

34号溝

36号溝



SD32-1



SD33-1

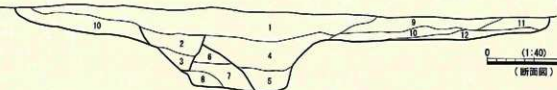


34・35号溝

L=89,900m

SP. B'

Y=34935.0
Y=71450.0



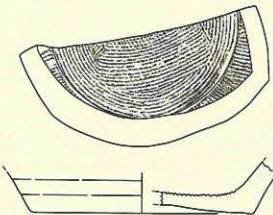
- 1 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, Ae・A・As・B・ミス多量含む, 黄褐色粒(鉄分)多量含む。
- 2 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり磁粉, Ae・B・ミス少量混入, 38号溝フタ土
- 3 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり磁粉, 暗褐色シルトブロック混入, 39号溝フタ土
- 4 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, Ae・A・As・B・ミス少量混入, 暗褐色粒(鉄分)多量混入, 34号溝フタ土
- 5 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, 褐色磁粉ブロック混入, 35号溝フタ土
- 6 黒褐色(10YR2/2) 磁粉混じりシルト, 褐色磁粉ブロック多量混入, 地山
- 7 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり磁粉, 地山
- 8 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, 地山
- 9 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり磁粉, Ae・B・ミス混入
- 10 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり磁粉, 地山
- 11 黒褐色(10YR2/2) 磁粉, 褐色磁粉ブロック(地山), 白色粒混入, 地山
- 12 暗褐色(10YR2/4) シルト混じり磁粉。



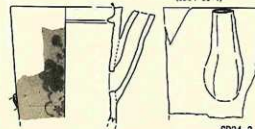
SD34-35-1

0 (1:1) 3cm

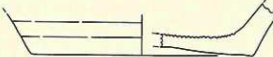
(SD34-35-1)



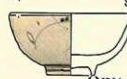
SD34-2



SD34-3



SD34-4

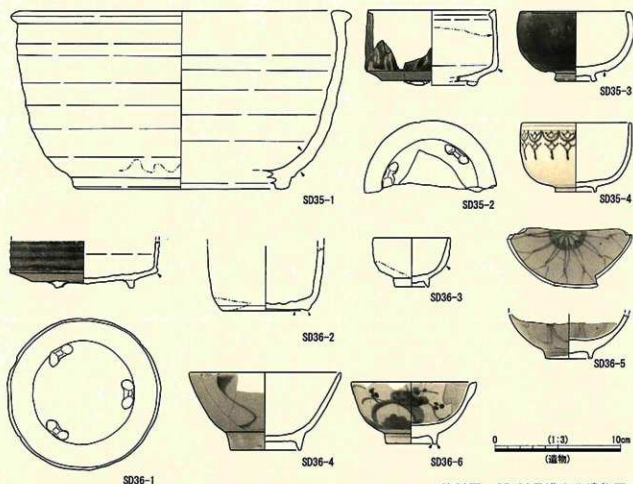


SD34-5

0 (1:3) 10cm

(遺物)

第31図 34~36号溝断面図・出土遺物図



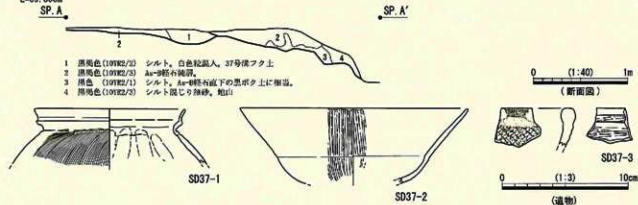
第32図 35・36号清出土遺物図

37号溝 (第33図)

重複：34号土坑に切られる 走行方向：走行方位はN-20°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状：検出長15.2m、上幅0.5～0.8m、下幅0.25m、深さ15cmで底部はほぼ平坦である。出土遺物：土師器甕・S字甕・埴、縄文土器（縄文中期後葉） 覆土：黒褐色シルト層を覆土とし、As-B 軽石純層に掘り込まれる。遺構年代：As-B 純層に掘り込まれることから、As-B 降下以前の廃絶と考えられる。ただし、わずかながら古墳時代前期の土師器が出土しており、流れ込みの可能性があるものの、開削時期が古墳時代まで遡る可能性もある。

37号溝

L=89.800m



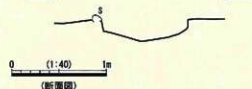
第33図 37号溝断面図・出土遺物図

38号溝(第34図)

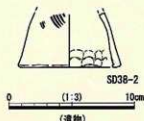
重複: 35号土坑に切られる 走行方向: 走行方位はN-20°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長30.0m、上幅0.95~1.4m、下幅0.22~0.6m、深さ40cm 出土遺物: 土師器甕・台付甕・S字甕・小型丸底壺 覆土: 黒褐色シルト層 遺構年代: 出土遺物の所属年代から古墳時代前期のものと考えられる。

38号溝

L=09.700m
EP. A



SD38-1



SD38-2

第34図 38号溝断面図・出土遺物図

39号溝(第35図)

重複: 41・42号溝を掘り込み、40・43号溝に切られる 走行方向: 走行方位はN-20°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長26.0m、上幅0.5~0.65m、下幅0.3m、深さ10cm 出土遺物: 土師器甕・台付甕、馬歯 覆土: As-B 軽石を含む細砂混じりシルト~シルト混じり細砂が堆積することから、水路と考えられる。 遺構年代: 遺構の重複関係から、As-B降下以前に開削されたと考えられる。

40号溝(第35図)

重複: 39号溝を掘り込み、42号溝に切られる 走行方向: 走行方位はN-20°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長15.5m、上幅0.9m、下幅0.45m、深さ87cm 出土遺物: なし 覆土: 上層から中層にAs-C 軽石を含む黒褐色シルトが堆積し、下層に地山黄色土ブロックを含む細砂混じりシルトが堆積する 遺構年代: 覆土にAs-C 軽石を含むことから、As-C降下以降に廃絶したと考えられる。

41号溝(第35図)

重複: 42号溝を掘り込み、39号溝に切られる 走行方向: 走行方位はN-3°-Wで、北から南に流れる 規模・形状: 検出長2.3m、上幅0.5m、下幅0.3m、深さ10cm 出土遺物: 土師器甕・S字甕 覆土: 黒褐色シルト 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

39号溝

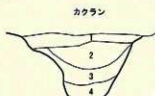
L=09.900m
SP. B'



- 1 黒褐色(10YR2/2) 微砂混じりシルト、褐色粒少量混入。
- 2 黒褐色(10YR2/2) シルト混じり細砂、As-Bバミミ混入、39号溝フタ土
- 3 黒褐色(10YR2/3) シルト混じり細砂、褐色採砂ブロック(洪水起源?)少量混入、39号溝フタ土

40号溝

L=09.900m
SP. A'



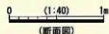
- 1 黒褐色(10YR2/2) 緑砂混じりシルト、As-A・As-Bバミミ混入、シルト、As-Cバミミ少量混入、褐色粒(鉄分)・黒褐色粒混入、40号溝フタ土
- 2 黒褐色(10YR2/2) シルト、褐色・黄褐色粒(地山)混入、40号溝フタ土
- 3 黒褐色(10YR2/2) 緑砂混じりシルト、黄褐色シルトブロック(地山)多量混入、40号溝フタ土
- 4 黒褐色(10YR2/3)

41号溝

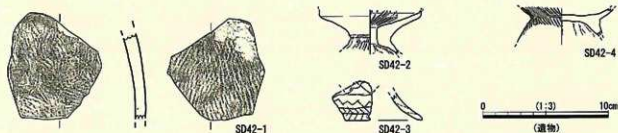
L=09.000m
SP. C'



- 1 黒褐色(10YR2/3) シルト、41号溝フタ土



第35図 39~41号溝断面図



第36図 42号溝出土遺物図

42号溝 (第36・37図)

重複：40号溝を掘り込み、39・41・43号溝・17号井戸に切られる 走行方向：走行方位はN-25°-Wで、北西から南東に流れる **規模・形状**：検出長27.0m、上幅1.9～2.8m、下幅0.4～0.7m、深さ1.0m **出土遺物**：須恵器甕、土師器壺・甕・S字甕・器台、弥生土器（吉ヶ谷式系）、内耳鍋 **覆土**：上層に一次堆積に近いAs-Bが堆積し、下層は地山黄色土ブロックを含む黒褐色シルトが堆積することから、水を溜めた堀のような区画溝と考えられる。ただし、上層に2～5mm大の礫を含むことから、水路として使用された時期もあったとみられる。 **遺構年代**：覆土の上層に一次堆積に近いAs-Bが堆積することから、As-B降下以前に廃絶したと考えられる。出土遺物の大半が古墳時代前期に帰属することから、流れ込みの可能性があるものの、開削時期が古墳時代まで遡る可能性がある。

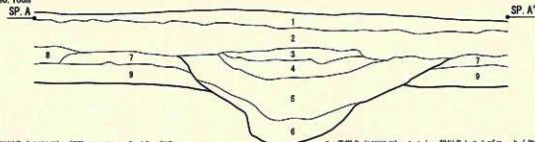
備考：平成20年度下中居天神裏遺跡4区27号溝と同一の溝

43号溝 (第37図)

重複：39・40・42号溝を掘り込む 走行方向：走行方位はN-30°-Eで、北東から南西に流れる **規模・形状**：検出長19.0m、上幅0.45m、下幅0.2m、深さ25cm **出土遺物**：陶器碗 **覆土**：黒色粘質土 **遺構年代**：遺構の重複関係からAs-B降下以降の開削と考えられる。

42号溝

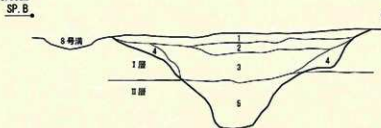
L=90.100m



- | | |
|---|---|
| 1 黒褐色 (10YR2/2) 細砂、As-A・As-Bパミス混入。 | 6 黒褐色 (10YR2/2) シルト、黄褐色シルトブロック（地山）混入、42号溝フタ土。 |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト混じり細砂、As-Bパミス混入。 | 7 黒褐色 (10YR2/2) シルト、黄褐色シルトブロック（地山）・褐色粒（鉄分）混入。 |
| 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト、As-Bパミス多量混入（一次堆積に近い）、42号溝フタ土。 | 8 黒褐色 (10YR2/2) 緑砂混じりシルト、褐色粒（鉄分）・白色粒混入、シルト、白色粒混入。基本層厚1.0m。地山。 |
| 4 黒褐色 (10YR2/2) シルト、褐色粒（鉄分）混入。礫（φ5mm）混入。しまり強い。 | 9 黒色 (10YR2/1) シルト、褐色粒（鉄分）混入。42号溝フタ土。 |

42号溝

L=89.900m



- | | |
|--|---|
| 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト、As-A・As-Bパミス・褐色粒（鉄分）混入。42号溝フタ土。 | 4 黒褐色 (10YR2/2) シルト、黄褐色シルトブロック（地山）少量混入。42号溝フタ土。 |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト、As-Aパミス少量・As-Bパミス混入。褐色粒（鉄分）混入。礫（φ5mm）混入。しまり強い。42号溝フタ土。 | 5 黒褐色 (10YR2/2) シルト、黄褐色シルトブロック（地山）混入。42号溝フタ土。 |
| 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト、As-Bパミス混入。褐色粒（鉄分）少量混入。礫（φ2～5mm）混入。42号溝フタ土。 | |

第37図 42・43号溝断面図

44号溝(第38~40図)

重複: 52・53号溝を掘り込み、47号溝に切られる 走行方向: 走行方向はN-52°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長37.9m、上幅4.7m以上、下幅4.4m以上、深さ63cm 出土遺物: 陶磁器碗・皿、染付碗、軟質陶器鉢、丸瓦・平瓦、五輪塔、須恵器甕、土師器甕、S字甕、縄文土器、鉄片、動物の歯 覆土: 細砂質、最下層に砂利層 遺構年代: 出土遺物から中世に開削されたと考えられる。

45号溝(第38・40・41図)

重複: 46・52・53号溝を掘り込み、47号溝に切られる 走行方向: 走行方向はN-50°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長36.8m、上幅2.7~2.95m、下幅0.4~0.5m、深さ45~99cm 出土遺物: 軒丸瓦・丸瓦・平瓦、龍泉窯青磁碗、片口鉢、焙烙、土師質土器皿、輪羽口、銅銭、須恵器壺、土師器壺・壺・高坏、S字甕 覆土: 砂質、下層は粘質を呈する部分もある 遺構年代: 出土遺物から中世に開削されたと考えられる。備考: 薬研掘りであり、中層より瓦が点的に出土。東部では古墳時代前期の土師器の混入が多数みられる。

46号溝(第38図)

重複: 45号溝に切られる 走行方向: 走行方向はN-53°-Wで、北西から南東に流れる 規模・形状: 検出長8.5m、上幅1.0~1.4m、下幅0.7~1.1m、深さ26cm 出土遺物: 熨斗瓦、平瓦、S字甕、縄文土器 覆土: 砂粒を含む粘質土 遺構年代: 出土遺物から中世に開削されたと考えられる。

47号溝(第39図)

重複: 11・44・45号溝を掘り込む 走行方向: 走行方向はN-34°-Eで、北東から南西に流れる 規模・形状: 検出長7.8m、上幅0.7m、下幅0.4m、深さ41cm 出土遺物: 磁器碗、平瓦、土師器小片 覆土: 砂質、As-A軽石を少量含む 遺構年代: 出土遺物および覆土の状況からAs-A降下以降と考えられる。

48号溝(第39図)

重複: 11号溝と重複するが前後関係不明 走行方向: 走行方向はN-50°-Eで、南西から北東に流れる 規模・形状: 検出長6.4m、上幅1.1~1.5m、下幅0.75~1.2m、深さ40cm 出土遺物: 陶器小片、S字甕 覆土: 地山黄色土ブロックの混入がみられる。最下層に砂層を形成 遺構年代: 出土遺物から中世に開削されたと考えられる。

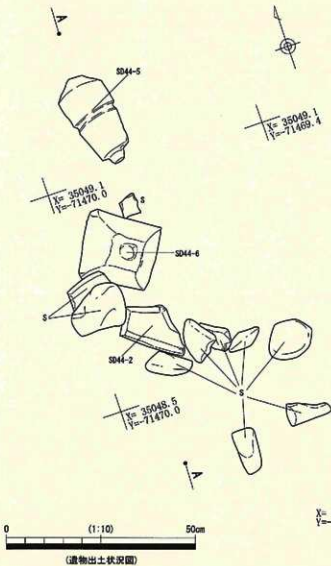
49号溝(第39図)

重複: 11号溝と重複するが前後関係不明 走行方向: 走行方向はN-57°-Eで、南西から北東に流れる 規模・形状: 検出長10.4m、上幅0.5~0.9m、下幅0.65~1.15m、深さ25cm 出土遺物: 土師器小片 覆土: 地山黄色土ブロックの混入が多くみられる 遺構年代: As-B軽石を含まないためB降下以前の可能性があるが、出土遺物が僅少であるため断定することはできない。

50号溝(第39・41図)

重複: 15号溝に切れ、11号溝と重複するが前後関係不明 走行方向: 走行方向はN-44°-Eで、南西から北東に流れる 規模・形状: 検出長11.5m、上幅1.2m、下幅0.9m、深さ39cm 出土遺物: 陶器皿、丸瓦・平瓦、土師器台付壺・壺、S字甕、縄文土器 覆土: 砂粒を少量含む粘質土。下層は地山黄色土ブロックの混入が多くみられる 遺構年代: 出土遺物から中世に開削されたと考えられる。

44号溝遺物出土状況図



47号溝

L=89.900m

SP. A

SP. A'



- 1 に近い黄色土 (2.8Y6/3) As-A 粒やや少量。砂質。しまりやや強い、粘性弱い。
2 灰褐色土 (10YR6/2) As-A 粒少量。しまり・粘性やや強い。

48号溝

L=90.000m

SP. A

SP. A'



- 1 褐色土 (10YR6/1) 黄色土ブロックやや少量。しまり・粘性やや強い。
2 に近い黄褐色土 (10YR5/3) 黄色土ブロック少量。しまりやや強い、粘性やや強い。
3 灰褐色土 (10YR5/2) 黄色土ブロックやや少量。しまり・粘性やや強い。
4 黒褐色土 (10YR3/1) 砂質。黄色土ブロックやや多量。しまり・粘性弱い。

49号溝

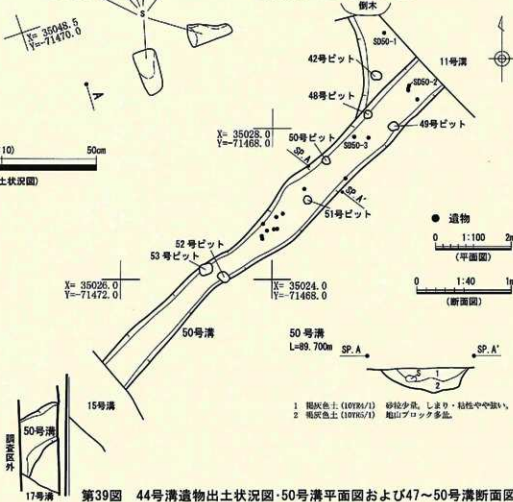
L=89.800m

SP. A

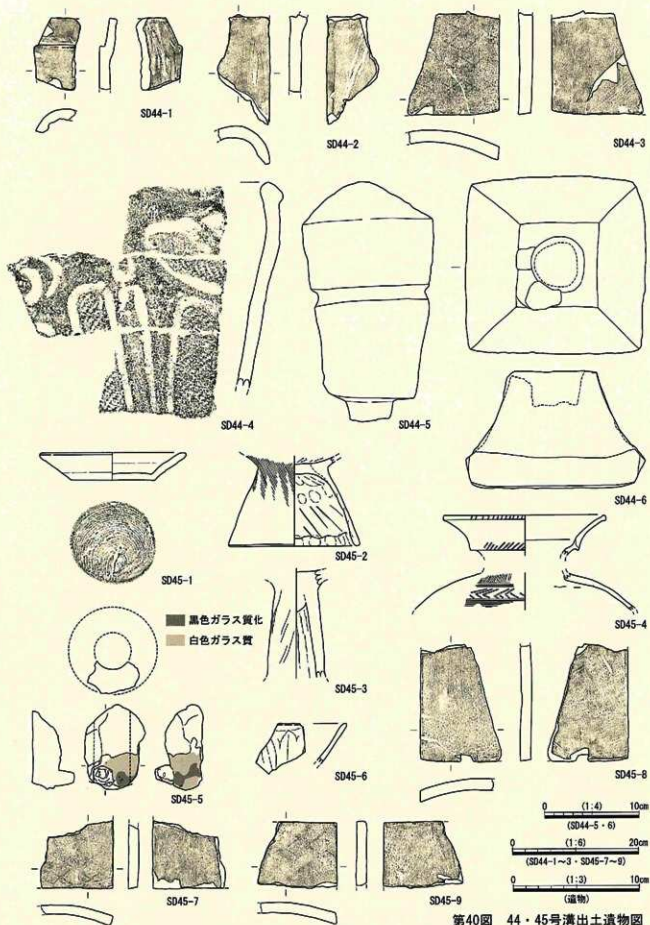
SP. A'



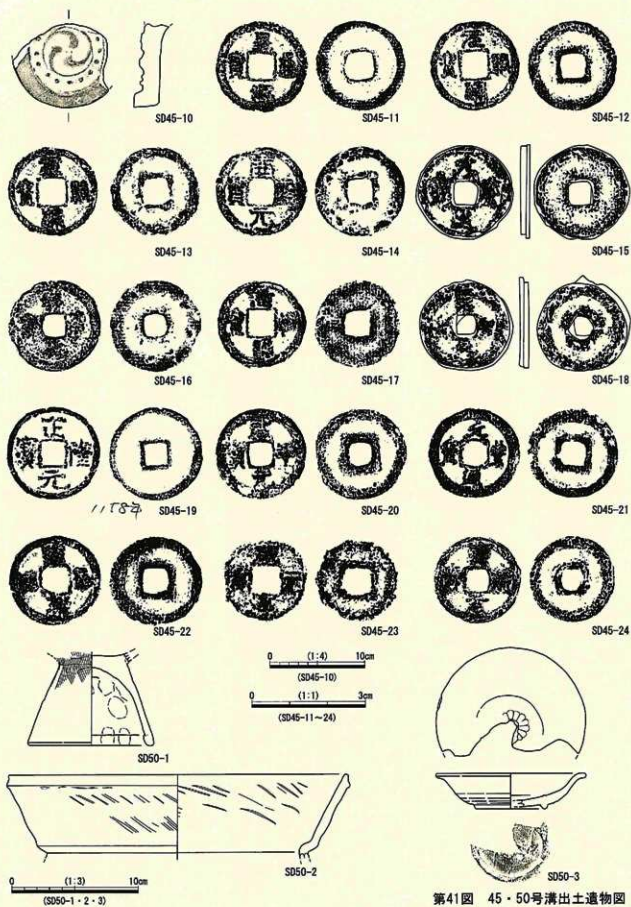
- 1 褐色土 (10YR6/1) 白色粒やや少量。黄色土ブロックやや多量。しまり強い、粘性弱い。
2 褐色土 (10YR5/1) 地山ブロック多量。



第39図 44号溝遺物出土状況図・50号溝平面図および47~50号溝断面図



第40図 44・45号溝出土遺物図



第41图 45・50号清出土遺物図

51号溝(第42図)

重複: 50号溝と重複するが前後関係不明 走行方向: 走行方向はN-61°-Wで、南東から北西に流れる 規模・形状: 検出長5.8m、上幅0.5~0.9m、下幅0.2、深さ10~19cm 出土遺物: 土師器小片、S字甕 覆土: 砂粒を少量、地山黄色土ブロックを多量に含む 遺構年代: 出土遺物および覆土中にAs-B軽石を含まないことから古墳時代前期頃の可能性がある。

52号溝(第42図)

重複: 11・14・15・44・45・53号溝に切られる 走行方向: 走行方向はN-50°-EおよびN-64°-Eで、北東から南西に流れる 規模・形状: 検出長20.5m、上幅0.8~1.6m、下幅0.6~0.9m、深さ34cm 出土遺物: 土師器壺、S字甕 覆土: 粘質土。下層は地山黄色土ブロックの混入が多くみられる 遺構年代: 出土遺物および覆土中にAs-B軽石を含まないことから古墳時代前期頃の可能性がある。

53号溝(第42図)

重複: 52号溝を掘り込み、11・14・44・45・53号溝に切られる 走行方向: 走行方向はN-51°-EおよびN-73°-Eで、北東から南西に流れる 規模・形状: 検出長21.4m、上幅0.8~1.0m、下幅0.6~0.7m、深さ65cm 出土遺物: 土師器壺・壺、S字甕、弥生土器壺 覆土: 粘質土 遺構年代: 出土遺物および覆土中にAs-B軽石を含まないことから古墳時代前期頃の可能性がある。

54号溝(第42図)

重複: 14号溝に切られる 走行方向: 走行方向はN-40°-Eで、北東から南西に流れる 規模・形状: 検出長6.0m、上幅0.5~0.75m、下幅0.35~0.5m、深さ19cm 出土遺物: 土師器小片、S字甕 覆土: 地山黄色土ブロックを多く含む粘質土 遺構年代: As-B軽石を含まないためAs-B降下以前の可能性があるが、出土遺物が僅少であるため断定することはできない。

51号溝

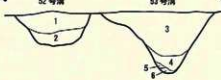
L=89.800m SP.A SP.A'



- 1 褐色土(10YR6/1) 地山ブロック多量。炭粒ごく少量。砂少量。しまり・粘性やや強い。

52号・53号溝

L=89.800m SP.A SP.A'



- 1 褐色土(10YR6/1) やや粘質。縦・白色粒やや多量。しまり強い、粘性やや強い。
 2 灰黄褐色土(10YR5/2) 地山ブロック多量。灰黄状に酸化。しまりやや弱い、粘性やや強い。
 3 褐色土(10YR6/1) 粘性多量。白色粒少量。小骨ごく少量。しまり強い、粘性やや強い。
 4 褐色土(10YR5/1) 粘質。地山ブロックごく少量。
 5 淡黄色土(10YR8/1) 地山土床。しまりやや弱い、粘性やや強い。
 6 褐色土(10YR5/1) 砂粒やや多量。しまりやや弱い、粘性やや強い。

54号溝

L=89.500m SP.A SP.A'



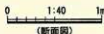
- 1 に近い黄褐色土(10YR5/2) 地山ブロック主体。樹木の土。しまり・粘性やや強い。
 2 黒褐色土(10YR2/1) 地山ブロックやや少量。しまり強い、粘性やや強い。54号フック土
 3 灰黄褐色土(10YR5/2) 地山ブロック多量。しまり・粘性やや強い。54号溝フック

52号・53号溝

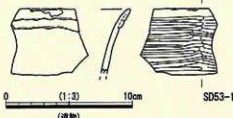
L=89.800m SP.B SP.B'



- 1 褐色土(10YR6/1) 黄・白色粒少量。しまり強い、粘性強い。
 2 褐色土(10YR5/1) やや粘質。灰色粘土ブロックやや少量。黄色粒少量。しまりやや弱い、粘性やや強い。
 3 褐色土(10YR6/1) やや粘質。斑点状に酸化。しまり・粘性やや強い。
 4 褐色土(10YR4/1) 白色粒やや多量。しまり強い、粘性やや強い。
 5 に近い黄褐色土(10YR5/2) 細砂質。斑点状に酸化。しまりやや弱い、粘性やや強い。



(断面図)



第42図 51~54号溝断面図・53号溝出土遺物図

第2表 溝跡出土遺物観察表①

図版	出土地	番号	種類 器種	流量 (cm)			形状		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第1100 PL. 14	1区 S03	1	土師器 壺	16.8	—	[16.7]	口縁部薄い粘土帯付加による折り返し後ヨコナデ、胴部オサエ、胴部ヨコナデ、胴部タチ・ヨコミガキ	口縁～胴部ヨコミガキ、胴部ヘラナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4 ～暗褐色 8D/3	石灰、黒炭 多量	1/3	口縁部に横線模成を採すなど百ヶ条式系帯の彫割が見られる
第1100 PL. 15	1区 S03	2	土師器 壺	(15.3)	7.7	26.6	口縁部ハケナデ後タチミガキ、胴部タチズリ後タチミガキ、底部ハケナデ後タチミガキ	口縁部ヨコハケ後ヨコミガキ、胴部ハケ後タチ、胴部～胴部ヨコ・ナメハケ	淡黄褐色 7.5YR8/6	石灰、黒炭 多量、赤色粒	3/4	埴輪質化、胴部下縁が歪曲するなど流麗な彫割の形が見られる。焼成時の温度あり
第1100 PL. 16	1区 S03	3	土師器 壺	—	7.2	[25.8]	タチミガキ	ヘラナデ	黄褐色 10YR6/4	長石、黒・褐色粒	2/3	—
第1100 PL. 15	1区 S03	4	土師器 小壺型	11.5	4.5	12.5	口縁部タチハケ、胴部タチハケ後ヨコナデ、胴部タチ・ナメミガキ、底部タチ後ナデ	口縁部ヨコミガキ、胴部ヨコヘラナデ、胴部下半～底部ナメヘラナデ	橙 5YR6/6	石灰、黒炭 多量、赤色粒	残存	外側赤彩
第1100 PL. 15	1区 S03	5	土師器 壺	11.4	—	[14.3]	口縁部タチミガキ、胴部ヨコナデ、胴部ヨコハケ後タチ・ヨコミガキ	口縁部タチ・ナメミガキ、胴部上半帯付オサエ・ヨコナデ、胴部下半・オサエ	黄褐色 5YR5/6	石灰、長石、黒炭 多量、赤色粒	1/2	右肩傾向か
第1100 PL. 15	1区 S03	6	土師器 S字型	16.2	9.8	29.8	口縁部ヨコナデ、胴部ナメハケ、上部ナメハケ後ナデ・オサエ	口縁部ヨコナデ、胴部ナメハケ・オサエ、胴部上半～中位ナデナデ、下位ヨコナデ、一部ヘラナデ、台部下縁折り返し後ナデ・オサエ	黄褐色 10YR6/4	石灰、黒炭 多量、長石	2/3	台部内面に白色土を多量に含む土結付 古灰前期中葉以降
第1100 PL. 15	1区 S03	7	土師器 壺	(14.4)	—	[3.0]	ヨコミガキ	ヨコミガキ	赤 10YR5/6	白・黒色粒	口縁部 破片	内外面赤彩
第1100 PL. 15	1区 S03	8	土師器 壺	(16.8)	—	[7.4]	ヘラナデ	ヘラナデ	橙 7.5YR7/6 黒色粒	長石、黒・黒色粒	口縁部 1/4	—
第1200 PL. 15	1区 S03	9	土師器 高杯	—	—	[5.5]	ヘラミガキ	杯部ナデ後ヨコミガキ、胴部ヨコナデ、胴部上半半帯付底。	橙 7.5YR7/6	白・黒、黒色粒	2/3	遺孔2ヵ所残存
第1200 PL. 15	1区 S03	10	土師器 壺台	—	13.9	[6.4]	胴部上半タチミガキ、胴部下半ヨコミガキ、胴部ヨコナデ。	胴部上半ナデ、胴部下半～底部ヨコ・ナメハケ後ナデ	橙 7.5YR6/6	黒炭多量	1/2	脚部遺孔2段3孔
第1200 PL. 15	1区 S03	11	土師器 ミニチュア高杯	5.2	4.5	4.1	指ナデ後ヨコミガキ	杯部指ナデ・一部ヨコハケ後ヨコミガキ、杯部指ナデ後ヨコ・タチミガキ	にぶい黄褐色 7.5YR7/6	石灰、黒炭 多量、赤色粒	完形	—
図版	出土地	番号	種類 器種	流量 (cm)			成・彫刻技法の特徴		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高						
第1200 PL. 15	1区 S03	12	縄文土器 深鉢	—	—	—	底状口縁。口縁部に折みを加えた強い隆帯を1条施させる。以下流線による区画と彫刻は縄文様位施文様により縄文様的な文様が施される。口部内面は滑らかな。	黄褐色 2.5Y4/1	石灰、長石、黒色粒	破片	縄文後期前式 区之内2式	
図版	出土地	番号	種類 器種	流量 (cm)			形状		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第1200 PL. 15	1区 S03	13	土師器 壺	—	—	—	横いナメハケ	タチ・ナメミガキ	黄褐色 2.5Y7/2	石灰、長石、黒色粒	破片	口縁部帯状の割取
第1200 PL. 15	1区 S03	14	埴輪器 壺	—	8.6	—	口コロナデ。底部ヘラ切り後高台付付。	口コロナデ。	黄褐色 10YR5/1	長石、白・黒色粒	底部 4/5	—
図版	出土地	番号	種類 器種	流量 (cm)			重量 (g)		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	長さ	高さ				
第1200 PL. 15	1区 S04	1	フイゴ 羽口	6.5	2.5	[7.8]	86.0	灰白色 10YR7/1	先端は溶融し、黒色にガラス質化しており、白色のガラス質物が付着。内外面ナデ。	黄褐色 10YR5/1	1/3	—
図版	出土地	番号	種類 器種	流量 (cm)			形状		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第1200 PL. 15	1区 S04	2	炊煮陶器 片口鉢	(28.6)	—	[10.6]	口コロナデ。	ヘラナデ。	橙 5YR6/6	黒炭多量、白・黒色粒	1/5	—
図版	出土地	番号	種類 器種	流量 (cm)			形状		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第1400 PL. 15	1区 S07	1	土師器 壺	15.8	6.8	31.8	口縁部薄い粘土帯付加による折り返し後ヨコハケ、胴部タチ・ハケ後タチミガキ、胴部ミガキ	口縁～胴部ヨコ・ナメハケ、胴部上半帯付オサエ～中位ヘラナデ、下位ヨコ・ナメハケ	にぶい黄褐色 10YR7/4	石灰、黒炭 多量、赤色粒	2/3	—
第1400 PL. 15	1区 S07	2	土師器 壺	(20.0)	—	[9.0]	口縁～胴部ヨコナデ、胴部タチミガキ	口縁～胴部ヨコナデ、胴部ナデ、指オサエ	橙 7.5YR7/6	石灰、長石、黒・黒色粒	口縁部 1/2	—
第1400 PL. 15	1区 S07	3	土師器 小壺型	11.8	—	[7.3]	口縁部ヨコナデ後タチミガキ、胴部ナデ後タチ・ヨコミガキ	口縁部ヨコナデ後タチミガキ、胴部ヨコハケ後ナデ、胴部ヘラナデ	にぶい黄褐色 10YR7/4	石灰、黒炭 多量	1/3	—

第3表 溝跡出土遺物観察表②

層別	出土地	発号	種別 器種	法量 (cm)			形状		色類	胎土	残存	備考	
				口径	底径	器高	外面	内面					
第14層 PL. 16	1区 S07	4	土師器 小型壺	11.9	4.7	13.5	口縁部ヨコナデ後タナメ ガキ、胴部ヘラケズリ後 ミガキ	口縁部ヨコハケ後タ ナメガキ、胴部ナデ	にぶい黄 緑 10YR7/4	石灰、黒炭 母粒、赤 石、赤色 母粒、赤 褐色母 粒多量	4/5	—	
第14層 PL. 16	1区 S07	5	土師器 小型壺	—	2.2	[12.5]	口縁部ヨコナデ後タナメ ガキ、胴部ヨコケズリ後 ヨコ・ナナメミガキ	口縁部ナデ後タナメ ガキ、胴部ナデ・指 ナデ	黄褐色 10YR8/4	石灰、赤石 母粒、赤 褐色母粒 少量	4/5	焼成時の黒斑あり	
第15層 PL. 16	1区 S07	6	土師器 小型壺	—	4.0	[10.2]	タナ・ナナメミガキ	口縁部ナデ後タナメ ガキ、胴部ヘラケ ズリ	にぶい黄 緑 7.5YR7/4	石灰、黒炭 母粒、赤 石、赤色 母粒	2/3	焼成時の黒斑あり	
第15層 PL. 16	1区 S07	7	土師器 壺	10.2	—	7.8	口縁部ヨコナデ後タナ メ・ナナメミガキ、体部ケ ズリ後ミガキ	口縁部ヨコナデ後タ ナメ・ナナメミガキ、 体部指ナデ・オサエ	黄褐色 10YR8/3	石灰、赤石 母粒、赤 褐色母粒 少量	4/5	—	
第15層 PL. 16	1区 S07	8	土師器 壺	(8.9)	—	[7.4]	口縁部ヨコナデ後ミガ キ、体部ナデ・一部ハケ 後ミガキ	口縁部ヨコナデ後ミ ガキ、体部ヘラケナ デ	にぶい黄 緑 10YR7/4	石灰、黒炭 母粒	1/2	—	
第15層 PL. 16	1区 S07	9	土師器 小皿(大底)	(9.6)	—	[5.8]	口縁部タナメガキ、胴部 強いナデ、胴部ヨコケ ズリ後ヨコミガキ	口縁部ヨコナデ後ミ ガキ、体部ヘラケナ デ	褐色 7.5YR7/6	長石、黒 褐色母粒	1/4	右留系	
第15層 PL. 16	1区 S07	10	土師器 小皿(大底)	(10.0)	—	[3.9]	口縁・胴部タナメガキ、 胴部強いナデ	口縁部ヨコミガキ、 胴部ナデ	褐色 5YR6/8	赤褐色、赤 石、黒、 褐色母粒	口縁部 母粒	1/3	—
第15層 PL. 16	1区 S07	11	土師器 中皿(大底)	(11.2)	—	[3.8]	口縁部ヨコミガキ	口縁部ヨコミガキ	にぶい黄 緑 7.5YR6/4	黒褐色、赤 褐色母粒、 赤褐色母 粒少量	口縁部 母粒	1/2	—
第15層 PL. 16	1区 S07	12	土師器 小型壺	(11.1)	—	[7.5]	口縁部ヨコミガキ、胴部 タナ・ヨコミガキ	ヨコミガキ	黄褐色 10YR8/3	石灰、赤色 母粒、赤 褐色母粒	口縁部 母粒	1/4	右留傾向
第15層 PL. 16	1区 S07	13	土師器 小皿(大底)	—	4.1	[5.4]	ヘラミガキ	ヘラナデ後ヘラミガ キ	にぶい黄 緑 10YR7/4	長石、黒 褐色母粒	口縁部 母粒	1/3	—
第15層 PL. 16	1区 S07	14	土師器 S字壺	(14.5)	—	10.1	口縁部・胴部ナデ、胴部 タナ・ナナメハケ	口縁部・胴部ヘラナ デ、胴部指ナデ	にぶい黄 緑 10YR7/2	石灰、黒炭 母粒、内 面赤褐色 母粒少量	口縁部を伸長(山 添系ととの折衷)	1/5	—
第15層 PL. 16	1区 S07	15	土師器 S字壺	14.4	—	[7.0]	口縁部ヨコナデ、胴部 ナメハケ	口縁部ナデ、指オサエ、 胴部ナメハケ	黄褐色 10YR8/3	石灰、黒炭 母粒、片 赤、赤色 母粒	口縁部 母粒	1/5	—
第15層 PL. 16	1区 S07	16	土師器 S字壺	(16.2)	—	[6.4]	口縁部ヨコナデ、胴部 ナメハケ	口縁部ヨコナデ、胴 部指ナデ	黄褐色 10YR6/2	長石、黒 褐色母粒	口縁部 母粒	—	—
第15層 PL. 16	1区 S07	17	土師器 壺	17.9	—	[4.4]	口縁部ナメハケ後ヨコ ナデ、胴部ヘラケズリ後 オサエ	口縁部ヨコハケ後ヨ コナデ、胴部ヘラケ ズリ後ナデ・指オサ エ	にぶい黄 緑 10YR7/4	石灰、黒炭 母粒、赤 褐色母粒 少量	口縁部 母粒	—	—
第15層 PL. 16	1区 S07	18	土師器 金付壺	—	—	[22.7]	ハケナデ後ケズリ・ナ デ	胴部ヘラナデ、胴部 下層ハケナデ	にぶい黄 緑 10YR7/2	長石、黒 褐色母粒	口縁部 母粒	1/4	—
第15層 PL. 16	1区 S07	19	土師器 S字壺	—	(10.3)	[4.6]	ヨコハケ後各部下境 折り返し・ヨコ・ナ ナメハケ後ヨコナデ	ヨコハケ後各部下境 折り返し・ヨコ・ナ ナメハケ後ヨコナデ	にぶい黄 緑 10YR7/4	石灰、黒炭 母粒、赤 褐色母粒、 チャート	全部	1/4	在地化
第15層 PL. 16	1区 S07	20	土師器 金付壺	(14.9)	6.5	13.6	口縁部ハケ後ナデ、胴部 一部ヘラケズリ・ハケ ナデ・指オサエ	口縁部ハケ後ナデ、胴 部ヘラケズリ後ナ デ・指オサエ	にぶい黄 緑 10YR7/4	石灰、黒炭 母粒、片 赤、赤色 母粒	全部	2/3	—
第16層 PL. 16	1区 S07	21	土師器 S字壺	—	11.3	[6.7]	ナナメハケ後指ナ デ	各部下境折り返し後 指ナデ・オサエ	にぶい黄 緑 10YR7/3	石灰、内 面赤褐色 母粒	全部	—	—
第16層 PL. 16	1区 S07	22	土師器 S字壺	—	7.3	[5.8]	ナナメハケ後指ナ デ	各部下境折り返し後 指ナデ・オサエ	黄 7.5YR6/6	石灰、黒炭 母粒	全部	輪痕み残存	—
第16層 PL. 16	1区 S07	23	土師器 S字壺	—	8.1	[5.5]	全部上半タナハケ後ナ メハケ、全部下半ナ デ・一部ヨコハケ	ナメハケ後ナデ	にぶい黄 緑 7.5YR7/4 微細粒	石灰、黒炭 母粒、赤 褐色母粒	全部	4/5	—
第16層 PL. 16	1区 S07	24	土師器 S字壺	—	6.2	[4.9]	タナハケ後指ナ デ	各部下境折り返し後 指ナデ・オサエ	にぶい黄 緑 7.5YR7/4	石灰、片 赤、黒炭 母粒	全部	輪痕み残存	—
第16層 PL. 16	1区 S07	25	土師器 壺	(14.9)	—	[6.0]	口縁部ヨコナデ後ナメ ハケ、胴部ナメハケ ハケ	口縁部ヨコハケ後 ナデ、胴部指ナデ	にぶい黄 緑 7.5YR6/3	長石、白 褐色母粒	口縁部 母粒	—	—
第16層 PL. 16	1区 S07	26	土師器 小型壺	(10.7)	—	[5.3]	口縁部ヨコナデ、胴部粗 いナデ・ナメハケ後 ヘラナデ	ナメハケ後ヨコナ デ、指オサエ	黄 5YR6/6	石灰、内 面赤褐色 母粒、赤 褐色母粒 少量	口縁部 母粒	1/4	—
第16層 PL. 16	1区 S07	27	土師器 鉢	18.3	—	7.9	口縁部ヨコミガキ、体部 ヨコ・ナナメミガキ	ヨコ・ナナメハケ後 ヨコ・ナナメミガキ	黄 5YR7/4	石灰、黒炭 母粒、赤 褐色母粒	全部	4/5	—
第16層 PL. 16	1区 S07	28	土師器 金付壺	10.4	—	[8.5]	口縁部指ナデ、胴部上 半ハケナデ、胴部下半 ナデ	胴部上半ヘラケズ リ、胴部下半ヘラナ デ	にぶい黄 緑 10YR7/3	長石、黒 褐色母粒	全部	1/3	—
第16層 PL. 16	1区 S07	29	土師器 鉢	8.8	3.2	4.7	口縁部ナデ、体部ヘラケ ズリ後ヨコ・ナメミガ キ、底部ケズリ	ヨコ・ナメミガキ	にぶい黄 緑 10YR7/3	石灰、赤色 母粒粗多 量、赤色 母粒	ほぼ環 形	—	—

第4表 清跡出土遺物観察表③

図版	出土地	番号	種別 器種	度量 (cm)			形跡		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第16図 PL. 16	1区	30	土師器 鉢	—	2.0	[3.7]	片部ナメハケ。底部 ナメハケ	片部ナメハケ。底部 ナメハケ	黄褐色 10YR7/2	黄、黒 黄褐色、赤色	1/2	5号鉢か
第16図 PL. 16	1区	31	土師器 鉢	(8.1)	(11.0)	7.5	器底部コナテ後タテ、 ココミガキ、台部ナメ ハケ	器底部ナメハケ、ココ ミガキ、台部コナテ 後タテ	黄褐色 7.5YR7/4	黄、黒 黄褐色、黒、 白色	1/2	台部上位に透孔 3ヶ所。器底部が 小さく高麗系 の形が見られる
第16図 PL. 16	1区	32	土師器 高杯	—	8.5	[6.7]	器部ハケタテミガキ、 器部ハケ後ココミガキ	器部ミガキ、器部ナ メハケ後タテ、器部 ナメハケ	ぶい 5YR7/4	黄、黒 褐色	4/5	—
第16図 PL. 16	1区	33	平腹土師 器	(5.8)	1.8	3.0	器部ナメハケ。器部下 部ヘラケズリ	器部ナメハケ。器部 ナメハケ	褐色 7.5YR7/4	黄、黒 褐色	1/2	—
第16図 PL. 16	1区	34	得式土師 器	(17.0)	—	[10.0]	口縁部細い粘土層付加 による折り返し後口唇上 にヘラケズリによる割 み、器部に器底文一帯 透孔文一帯透孔文一帯 ナメハケ	口縁部ミガキ、器部 ヘラケズリ	ぶい 7.5YR7/4	黄、黒 褐色、黒、 白色	口縁一 部部 1/3	—
第16図 PL. 16	1区	35	得式土師 器	—	—	[2.8]	頸部細頸状文	ナメハケ	ぶい 5YR7/4	黄褐色、 褐色	器部破 片	—
第16図 PL. 16	1区	36	弥生土師 器	—	—	[4.3]	縄文器後ヘラケズリ により器底文、地文 部は透孔状文	ナメハケ	黄褐色 2.5Y7/1	黄褐色、 白色	器部破 片	—
第16図 PL. 16	1区	37	弥生土師 器	—	—	[3.5]	縄文器後工具による器 底文、平行波線状文	ナメハケ	ぶい 7.5YR7/4	黄褐色、 褐色	器部破 片	—
第16図 PL. 16	1区	38	弥生土師 器	—	13.4	[2.0]	ナメハケ	器部ナメハケ	ぶい 10YR7/4	黄、黒 褐色、 黄、褐色	器部	—
第16図 PL. 16	1区	39	縄文土師 器	—	—	[5.4]	口縁部に割みを加えた 透孔を1周回させる	ナメハケ	黄褐色 7.5YR7/4	黄褐色、 白、褐色	口縁部 破片	縄文器後か
図版	出土地	番号	種別 器種	度量 (cm)			形・彫形技法の特徴		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第16図 PL. 16	1区	40	縄文土師 器	(30.4)	—	[25.5]	透孔口縁、口縁部は丸 棒状工具により器底 と器内面を彫る。器 内面には透孔を彫る。 器底には透孔を彫る。 器底には透孔を彫る。 器底には透孔を彫る。	透孔口縁、口縁部は丸 棒状工具により器底 と器内面を彫る。器 内面には透孔を彫る。 器底には透孔を彫る。 器底には透孔を彫る。	ぶい 7.5YR7/4	黄、黒 褐色、 白色	1/3	縄文中期後半。 加賀利E3式
第17図 PL. 17	1区	41	縄文土師 器	(26.5)	—	[13.0]	口縁部は丸棒状工具 により器底と器内面 を彫る。器内面には 透孔を彫る。器底 には透孔を彫る。器 底には透孔を彫る。	口縁部は丸棒状工具 により器底と器内面 を彫る。器内面には 透孔を彫る。器底 には透孔を彫る。	ぶい 10YR7/4	黄、黒 褐色、 白色	1/4	縄文中期後半。 加賀利E3式
第17図 PL. 17	1区	42	縄文土師 器	—	—	—	口縁部は器内面を器 底により彫る。器底 には透孔を彫る。	口縁部は器内面を器 底により彫る。器底 には透孔を彫る。	ぶい 10YR7/3	黄褐色、 褐色	破片	縄文中期後半 器部戻しか
第17図 PL. 17	1区	43	縄文土師 器	—	—	—	口縁部は器内面を器 底により彫る。器底 には透孔を彫る。	口縁部は器内面を器 底により彫る。器底 には透孔を彫る。	ぶい 7.5YR7/4	黄、黒 褐色、 褐色	破片	縄文中期後半
第17図 PL. 17	1区	44	縄文土師 器	—	—	—	口縁部に透孔を、器 底には透孔を彫る。 器内面には透孔を 彫る。	口縁部に透孔を、器 底には透孔を彫る。 器内面には透孔を 彫る。	ぶい 7.5YR7/4	黄、黒 褐色、 褐色	破片	縄文中期後半 加賀利E3式
第17図 PL. 17	1区	45	縄文土師 器	—	—	—	口縁部内面、地文に 単部丸棒状文を彫る。 透孔、透孔により上 部口縁の器内面を 彫る。	口縁部内面、地文に 単部丸棒状文を彫る。 透孔、透孔により上 部口縁の器内面を 彫る。	黄 7.5YR7/4	黄、黒 褐色、 褐色	破片	縄文中期後半
第17図 PL. 17	1区	46	縄文土師 器	—	—	—	口縁部は丸棒状工具 による透孔を彫る。 器底には透孔を彫る。	口縁部は丸棒状工具 による透孔を彫る。 器底には透孔を彫る。	ぶい 10YR7/3	黄、黒 褐色、 褐色	破片	縄文中期後半
第17図 PL. 17	1区	47	縄文土師 器	—	—	—	口縁部は丸棒状工具 による透孔を彫る。 器底には透孔を彫る。	口縁部は丸棒状工具 による透孔を彫る。 器底には透孔を彫る。	ぶい 10YR7/4	黄、黒 褐色、 褐色	破片	縄文中期後半
図版	出土地	番号	種別 器種	度量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法の特徴		残存	備考
				長さ	幅	厚さ			長さ	厚さ		
第17図 PL. 17	1区	48	石器 スクレイパー	5.72	7.88	2.3	92.8	黄岩	断面をもつ割片を 素材とし、縁部に2 次加工の痕跡が認め られる。刃部は 器底側。	—	—	—
第17図 PL. 17	1区	49	石器 打製石片	[6.62]	4.5	[1.2]	30.2	黒色頁岩	断面をもつ割片を 素材とし、両側 縁部に直接打撃による 加工を認める。 刃部に磨耗痕。全体 にリダクションが 認められる。	1/2	—	—
第17図 PL. 17	1区	50	石器 スクレイパー	5.05	5.7	1.4	40.8	ホルン フェルス	打製石片の断面を 素材とし、縁部(3 側)に微細な磨削痕 を認める。断面は 断面をもつ割片として 使用された痕跡と考 えられる。	—	—	打製石片の未製品 を転用か
第17図 PL. 17	1区	51	石器 スクレイパー	6.3	5.05	1.5	38.0	黒色頁岩	断面をもつ割片を 素材とし、縁部の (下)に直線的な磨削 痕跡が認められる。	—	—	—
図版	出土地	番号	種別 器種	度量 (cm)			形跡		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第17図 PL. 17	1区	52	得式土師 器	—	—	[4.8]	口縁部細い粘土層付加 による折り返し後、口 縁部細頸状文	へらミガキ	ぶい 7.5YR7/3	黄、黒 褐色、 褐色	口縁部 破片	—

第5表 溝跡出土遺物観察表④

図版	出土地	番号	種別	法量 (cm)			形状				色調	胎土	残存	備考		
				口径	底径	高さ	外面		内面							
第16図 PL.17	4区 SD11	1	土師器 S字蓋	—	—	[20.2]	ナメハク		彫部ナデ・オサエ		にぶい黄 緑 [1072/4]	白・黒色結	1/2	台部内面に砂粒を 多く含む粘土貼付		
第16図 PL.17	4区 SD11	2	土師器 土器	6.6	4.9	2.5	口ウロナデ。底部彫部 余切り。		口ウロナデ		にぶい黄 緑 [2.5YR6/4]	黄緑色。白 色胎	完形	底部余切り失敗の 破部		
図版	出土地	番号	種別	全長 (cm)	幅・玉縁長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整		凹面調整		側面調整		色調 構成	残存	備考	
第16図 PL.17	4区 SD11	3	丸瓦	[11.5]	玉縁長: 6.5	最大: 2.9 最小: 1.1	玉縁部ヨコナデ		32本/3cmの細かい布 目織。コビキ入。		玉縁部凸面縁・凹 面縁部・側面縁部		18/敷	玉縁部破片	—	
図版	出土地	番号	種別	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整		凹面調整		側面調整		色調 構成	残存	備考		
第16図 PL.17	4区 SD11	4	平瓦	全長: [21.2] 幅: 11.5	2.3	タナナデ		細かい布目織		—		18/敷	破片	—		
図版	出土地	番号	種別	法量 (cm)			重量 (g)		残存	作成技法等の特徴				備考		
第16図 PL.17	4区 SD11	5	銅鏡 光地逆貫	2.5	0.7	0.1	2.4	完形		行書。					—	
第16図 PL.17	4区 SD11	6	銅鏡 逆貫光背	2.5	0.8	0.1	3.6	完形	行書。模倣鏡。				—			
第16図 PL.17	4区 SD11	7	銅鏡 光背逆貫	2.25	0.6	0.1	3.0	完形	行書。				—			
第16図 PL.17	4区 SD11	8	銅鏡 逆貫光背	2.5	0.6	0.1	3.3	完形	行書。模倣鏡。				—			
第16図 PL.17	4区 SD11	9	銅鏡 口凸光背	2.4	0.6	0.1	3.2	完形	行書。				—			
図版	出土地	番号	種別	法量 (cm)			重量 (g)		残存	作成技法等の特徴				備考		
第21図 PL.17	2-1区 SD13	1	かわらけ	(口径) 8.2	6.4	2.0	口ウロナデ。底部彫部 余切り。			口ウロナデ。底部彫部 余切り。		黄 緑 [5Y7/4]	灰白色。黒 色粒。黄緑 色胎		1/3	—
図版	出土地	番号	種別	全長 (cm)	内径	外径	全長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整		凹面調整		接合法	色調 構成	残存	備考
第21図 PL.17	2-1区 SD13	2	土師器 丸瓦	11.8	7.9	1.8	0.9	1.4	彫部ナデ。叩き		瓦面 未加工		1A/敷	瓦面	底面進行	
図版	出土地	番号	種別	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	瓦面幅 外縁幅	全長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整		凹面調整		接合法	色調 構成	残存	備考
第21図 PL.17	2-1区 SD13	3	土師器 丸瓦	[8.2]	[8.1]	0.9	[5.2]	1.35	凸面・裏面ヨコ ナデ		瓦面外縁上端面取り		折り目け 技法	1A/敷	瓦面	底面
第21図 PL.17	2-1区 SD13	4	土師器 丸瓦	[16.2]	[16.3]	0.9~ 1.0	[5.2]	2.2	凸面・裏面ヨコ ナデ		瓦面外縁上端面取り		折り目け 技法	1A/敷	瓦面	底面
第21図 PL.17	2-1区 SD13	5	土師器 丸瓦	—	[13.7]	0.9	[2.4]	2.0	凸面・裏面ヨコ ナデ		—		折り目け 技法	3A/敷	瓦面	—
第21図 PL.17	2-1区 SD13	6	土師器 丸瓦	[8.7]	[10.5]	1.0	[7.2]	2.1	凸面・裏面ヨコ ナデ		瓦面外縁上端面取り		折り目け 技法	3B/敷	瓦面	—
図版	出土地	番号	種別	全長 (cm)	幅・玉縁長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整		凹面調整		側面調整		色調 構成	残存	備考	
第21図 PL.18	2-1区 SD13	7	丸瓦	35.6	広端: 13.3 玉縁: 6.4 玉縁長: 5.8	最大: 2.5 最小: 0.6	玉縁部ヨコナ デ。彫部残部 後下家タナナ デ。彫部凸面 縁丸くナデ調整。		30本/3cmの細かい布 目織。コビキ入。		玉縁部凸面縁・凹 面縁部・側面縁 部。彫部凸面 縁丸くナデ調整。		2/敷	完形	—	
第21図 PL.18	2-1区 SD13	8	丸瓦	[16.4]	広端: [13.1] 玉縁: (6.4) 玉縁長: 6.0	最大: 2.6 最小: 1.2	玉縁部ヨコナ デ。彫部残部 後下家タナナ デ。彫部凸面 縁丸くナデ調整。		30本/3cmの細かい布 目織。コビキ入。		玉縁部凸面縁・凹 面縁部・側面縁 部。彫部凸面 縁丸くナデ調整。		18/敷	1/3	—	
第21図 PL.18	2-1区 SD13	9	丸瓦	[20.2]	広端: [13.0] 玉縁: 6.0 玉縁長: —	最大: 3.0 最小: 1.2	玉縁部ヨコナ デ。彫部残部 後下家タナナ デ。彫部凸面 縁丸くナデ調整。		30本/3cmの細かい布 目織。コビキ入。		彫部凸面縁・側 面縁部		2/敷	2/3	—	
第21図 PL.18	2-1区 SD13	10	丸瓦	[13.1]	広端: [10.3] 玉縁: — 玉縁長: —	最大: 2.4 最小: 1.7	彫部残部後下 家タナナデ。彫 部凸面縁丸く ナデ調整。		30本/3cmの細かい布 目織。コビキ入。		彫部凸面縁・側 面縁部		3A/敷	1/2	—	
第21図 PL.18	2-1区 SD13	11	丸瓦	[21.4]	広端: [12.8] 玉縁: — 玉縁長: —	最大: 2.4 最小: 1.8	彫部残部後下 家タナナデ。彫 部凸面縁丸く ナデ調整。		30本/3cmの細かい布 目織。コビキ入。		彫部凸面縁・側 面縁部。広端部 凸面縁部		2/敷	2/3	—	
第21図 PL.18	2-1区 SD13	12	丸瓦	[17.0]	—	最大: 2.3 最小: 1.0	彫部残部後下 家タナナデ。彫 部凸面縁丸く ナデ調整。		細かい布目織。コビ キ入。		彫部凸面縁・側 面縁部		3B/敷	1/3	—	
第22図 PL.18	2-1区 SD13	13	丸瓦	[6.8]	広端: — 玉縁: 6.8 玉縁長: 6.8	最大: 2.1 最小: 1.1	玉縁部ヨコナ デ		細かい布目織		玉縁部凸面縁・凹 面縁部・側面縁 部		3A/敷	1/6	—	
第22図 PL.18	2-1区 SD13	14	丸瓦	[13.1]	広端: 12.8 玉縁: — 玉縁長: —	最大: 2.1 最小: 1.2	彫部残部後下 家タナナデ。彫 部凸面縁丸く ナデ調整。		32本/3cmの細かい布 目織。コビキ入。		彫部凸面縁部 面取り		3A/敷	1/3	—	

第6表 清跡出土遺物観察表⑤

図版	出土地	番号	種類 器種	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側面調整	色調/構成	残存	備考				
												口径	底径	高さ	外面
第2202 PL. 18	2-1区 SD15	15	平瓦	全長: [13.7] 広幅: 23.6 狭幅: —	2.4	斜格子叩き。磨 れ砂付着。	布直線は具られ ず、磨れ砂付着。 コビキム。	凹面側・底面磨 取。	3B/軟質	1/3	—				
第2202 PL. 18	2-1区 SD13	16	平瓦	全長: [12.3]	2.2	斜格子叩き。磨 れ砂付着。	ラテナデ	凹面側を面取り。	3A/軟質	1/5	凹面に斜格子叩き の圧痕				
第2202 PL. 18	2-1区 SD13	17	平瓦	全長: [19.2]	2.7	斜格子叩き。磨 れ砂付着。	ラテナデ、磨れ砂 付着。	—	1A/軟質	1/5	凹面から凸面へ穿 孔(内釘跡)				
第2202 PL. 18	2-1区 SD13	18	平瓦	全長: [18.7]	2.7	斜格子叩き。磨 れ砂付着。	圧状工具による叩 き。磨れ砂付着。	—	3B/軟質	1/5	凹面から凸面へ穿 孔(内釘跡)				
第2202 PL. 18	2-1区 SD13	19	平瓦	全長: [13.3]	2.7	斜格子叩き。磨 れ砂付着。	細かい布直線。磨 れ砂付着。	—	2/軟質	1/5	—				
第2202 PL. 18	2-1区 SD13	20	平瓦	全長: [7.8]	2.1	無文叩き。細か い布直線。	細かい布直線。コ ビキム。	—	1A/軟質	1/6	—				
第2202 PL. 18	2-1区 SD13	21	瓦斗瓦	全長: [20.0] 広幅: — 狭幅: 11.0	2.1	斜格子叩き。磨 れ砂付着。	細かい布直線。磨 れ砂付着。	凹面側を面取り。	2/軟質	2/3	縦線を入れ焼成後 に分割				
第2202 PL. 18	2-1区 SD13	22	瓦斗瓦	全長: [13.4] 幅: 10.4	2.6	斜格子叩き。磨 れ砂付着。	無文叩き。コビキ ム。	半取面未調整。	1B/軟質	1/2	縦線を入れ焼成後 に分割				
第2202 PL. 18	2-1区 SD13	23	瓦斗瓦	全長: [9.2] 幅: 13.3	2.3	無文叩き。磨れ 砂付着。	無文叩き。磨れ砂 付着。	凹面側を面取り。 半取面未調整。	2/軟質	1/3	縦線を入れ焼成後 に分割				
図版	出土地	番号	種類 器種	質量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考			
				口径	底径	高さ	外面	内面							
第2202 PL. 18	2-1区 SD14	1	軟質陶器 火鉢	—	—	7.7	ナデ	—	にぶい橙 5YR6/4	黄・黒・紅 色粒	崩部	—			
第2202 PL. 18	2-1区 SD15	1	かわらけ	7.0	5.3	1.4	ロクロナデ。底 面磨取。	ロクロナデ。	灰白 2.5YR2/2	長石・黒色 粒	ほぼ完 形	口縁部スズ付着			
第2202 PL. 18	2-1区 SD15	2	瓦質陶器 火鉢	(30.4)	—	[11.9]	口縁部ナデ後薄層貼付。 腹帯間に溝文。裏面内文 状の凹線。口縁部・体部 ヨミミガキ。	脂ナデ	灰 黄/0	長石・黒・ 褐色粒	1/5	15世紀代			
第2202 PL. 18	2-1区 SD15	3	陶器 蓋	(10.5)	—	[5.0]	灰粒。ロクロナデ。	ロクロナデ。	灰 黄/0	長石・黒色 粒	口縁部 破片	玉縁状口縁。 16世紀。覆物?			
第2202 PL. 18	2-1区 SD15	4	陶器 蓋	(31.0)	6.2	9.2	底面を磨き灰粒。	灰粒。粘土層付着。	灰白 2.5YR2/2	長石・黒色 粒	1/4	骨縁。底面			
図版	出土地	番号	種類 器種	質量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考			
				全長・幅	厚さ	凸面調整	凹面調整	側面調整							
第2202 PL. 18	2-1区 SD15	5	平瓦	全長: [19.9]	2.7	無文叩き。磨 れ砂付着。	30cm/3cmの細か い布直線。	—	1A/軟質	1/5	—				
第2202 PL. 18	2-1区 SD15	6	瓦斗瓦	全長: [21.9] 広幅: [12.7] 狭幅: 10.6	2.6	斜格子叩き。磨 れ砂付着。	細かい布直線。無 文叩き。	凹面側凹面側。凹 面側を面取り。半 取面未調整。	2/軟質	2/3	縦線を入れ焼成後 に分割				
第2202 PL. 19	2-1区 SD15	7	瓦斗瓦	全長: [8.8] 幅: 11.7	2.6	斜格子叩き。磨 れ砂付着。	無文叩き。磨れ砂 付着。コビキム。	凹面側を面取り。 半取面未調整。	1B/軟質	1/3	縦線を入れ焼成後 に分割				
図版	出土地	番号	種類 器種	質量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考			
				口径	底径	高さ	外面	内面							
第2202 PL. 19	4区 SD15	8	軟質陶器 鉢	—	—	[9.3]	口唇~口縁部ヨコナデ。 体部ヨコナデ後薄オサエ	ヨコナデ	灰 黄/0	長石・黒色 粒	口縁~ 体部破片	14世紀後半			
第2202 PL. 19	4区 SD15	9	軟質陶器 鉢	—	—	[8.0]	口縁部ヨコナデ。体部上 部ヨコナデ。体部中位ハ ラナデ	ヨコナデ	灰 黄/1	長石・黒色 粒。白色微 細粒	口縁~ 体部破片	15世紀前半			
第2202 PL. 19	2-1区 SD17	1	硬質陶器	(19.6)	—	[7.9]	口縁~胴部磨粒状文。 胴部平打叩き。	口縁~胴部ロクナ デ。胴部同心円状に 灰粒。	黄 7.5YR6/1	長石・黒色 粒	口縁~ 胴部破片	—			
第2202 PL. 19	2-1区 SD17	2	軟質陶器 内耳瓶	(29.8)	—	[13.8]	口縁~体部ハケナデ。底 部ハラケズリ	ヨコナデ	黄 10YR3/1	長石・黒色 粒	1/5	14世紀後半~15世 紀初葉			
第2202 PL. 19	2-1区 SD17	3	硬質陶器 蓋	—	—	[8.1]	ロクロナデ	ロクロナデ	黄 10YR4/1	黄・黒・ 黒色粒	口縁部 破片	底による磨粒着			
図版	出土地	番号	種類 器種	質量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考			
				口径	底径	高さ	外面	内面							
第2202 PL. 19	2-1区 SD17	4	陶器品 経線品	—	—	[11.0]	0.05	22.6	調	経線品部と経線部を結ぶための小孔 2ヶ所残存。平直。針等の痕跡あり。	ほぼ完 形	—			
図版	出土地	番号	種類 器種	質量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考			
				口径	底径	高さ	外面	内面							
第2202 PL. 19	2-1区 SD17	5	凹文研丸 瓦(左)	—	—	1.9	0.8	研文	[3.3]	2.0	周縁ナデ	瓦直線 部ナデ	1A/軟質	瓦片部	—
図版	出土地	番号	種類 器種	質量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考			
				口径	底径	高さ	外面	内面							
第2202 PL. 19	2-1区 SD22	1	土師器 杯	14.2	—	5.2	ラケズリ	ナデ	黄 5YR7/6	黄・黒・ 黒色粒	1/3	7世紀後半			
第2202 PL. 19	2-1区 SD26	1	軟質陶器 鉢	—	—	[7.7]	口縁部ヨコナデ。体部上 部ナデ	ナデ	灰白 2.5Y7/1	長石・黒色 粒	口縁部 破片	口縁部あり 15世紀前半			
第2202 PL. 19	2-1区 SD26	2	軟質陶器 内耳瓶	—	—	[12.8]	口縁部ナデ。体部ハラケ ズリ後ナデ。指オサエ	ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	長石・黒色 粒	1/6	14世紀後半~15世 紀初葉			

第7表 溝跡出土遺物観察表⑥

図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
				口径	底径	器高	外面	内面						
第28図 PL. 19	2-1区 S026	3	軟質陶器 内耳瓶	(29. 0)	—	[13. 0]	口縁部ナデ、体部残ナデ・指オサエ、底部ヘラケズリ	ヨコナデ	灰 7. 5YR/1	灰青、黒雲母、白色斑	1/5	内耳助付部外面に粉土粘付 14世紀後半～15世紀初頭		
第28図 PL. 19	2-1区 S026	4	軟質陶器 内耳瓶	(25. 8)	(18. 4)	[16. 0]	口縁部ナデ、体部残ナデ・指オサエ、底部ヘラケズリ	ヨコナデ	黒褐 7. 5YR/1	灰青、黒雲母、白色斑	1/4	14世紀後半～15世紀初頭		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第28図 PL. 19	2-1区 S026	5	石製品 砥	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	外面					内面	
				[13. 2]	[5. 7]	[1. 6]	179. 4	黒色頁岩	—	—	1/2	—		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第28図 PL. 19	2-1区 S026	6	石製品 石臼(上臼)	口径	底径	器高	外面	内面						
				(34. 0)	—	8. 1	1. 4	輝石安山岩	上縁部に磨粒とみられる隙孔あり、張り目使用により磨粒。	—	1/6	—		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第28図 PL. 19	2-1区 S026	7	和蘭文様瓦	口径	底径	器高	外面	内面						
				[4. 3]	[7. 5]	1. 0	[3. 2]	2. 3	曜凸面・裏面ヨコナデ	裏面外縁上縁面磨り	折り曲げ技法	1A/軟質	瓦面部	—
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第28図 PL. 19	2-1区 S026	8	軟質陶器 火鉢	口径	底径	器高	外面	内面						
				—	—	7. 1	ナデ、ヘラケズリ	—	灰 2. 5YR6/6	白・黒・緑	局部	—	—	
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第29図 PL. 19	2-1区 S027	1	石製品 灰磚	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	外面					内面	
				[32. 4]	30. 8	3. 5	6. 8	緑泥片岩	頂角の下に二条の溝を刻み、溝の下に主要種子を刻む。溝の下に主要種子を刻む。溝の下に主要種子を刻む。	—	1/3	—		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	1	陶器 碗	口径	底径	器高	外面	内面						
				12. 9	4. 8	7. 2	灰緑。	灰緑。	にぶい黄緑 2. 5YR/4	灰青、黒色	1/3	瀬戸・美濃系		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	2	陶器 碗	9. 3	3. 5	5. 9	灰緑+具須緑。体部八弁花。	灰緑。	灰白 5Y7/1	白・黒色粒	3/4	肥前系		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	3	陶器 鉢	—	5. 2	[4. 5]	灰緑+具須緑。高倉内筒。	灰緑。	灰10Y6/1	白・黒色粒	1/4	唐津 17世紀末～19世紀前半		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	4	陶器 皿	11. 4	4. 0	2. 8	灰緑。底部を除き灰緑。	灰緑。蛇ノ目黒割製	灰ナリ 2. 5Y5/2	褐色粒	1/2	瀬戸・美濃系		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	5	陶器 皿	11. 4	7. 0	2. 7	灰緑+鉄粒。黒竹文。	灰緑。	灰白 2. 5Y6/1	灰青	1/2	瀬戸・美濃系 17世紀前半		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	6	陶器 鉢	13. 2	(6. 2)	3. 5	灰緑。	灰緑+具須緑。体部つる草文。蛇ノ目黒割製	灰白 50Y6/1	黒色粒	1/3	肥前系 1700～1780年代		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	7	陶器 鉢	(19. 4)	(12. 0)	10. 0	底部を除き鉄粒。	鉄粒	灰白 7. 5YR4/4	灰青、黒色	1/4	美濃		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	8	陶器 器種	—	—	[11. 1]	体部磨粒ヘラケズリ。磨粒。	磨粒7～8本	灰白 5Y6/2	灰青、黒・褐色粒	1/6	瀬戸		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	9	石製品 砥石	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	外面					内面	
				13. 2	2. 9	2. 6	124	洗波岩	4面使用。裏面斜位線系が顕著。	—	—	—		
第29図 PL. 19	2-1区 S028	10	石製品 灰磚	[5. 3]	[6. 7]	1. 6	114	緑泥片岩	種子とみられる磨粒あり。	—	—	—		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第29図 PL. 20	2-2区 S029	1	陶器 湯受付盆	口径	底径	器高	外面	内面						
				(9. 5)	(5. 6)	2. 0	鉄粒。体部下位磨粒。	鉄粒。口唇部粘付	褐色赤 5YR3/3	黒色粒	1/3	志戸系系。16世紀前半		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第29図 PL. 20	2-2区 S029	2	石製品 砥石	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	外面					内面	
				[8. 4]	3. 2	2. 2	108. 9	洗波岩	ほぼ完全2面使用。	—	—	—		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考		
第30図 PL. 20	3区 S032	1	土師器 杯	口径	底径	器高	外面	内面						
				(12. 0)	—	[3. 7]	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ	黒黄赤 7. 5YR6/4	灰青、黒・褐色粒	1/5	—		
第30図 PL. 20	3区 S033	1	土師器 杯	12. 5	—	5. 8	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ後放射状磨	黒 2. 5YR6/6	灰石、輝石 安山岩、珪	5/6	5世紀後半		
第31図 PL. 20	3区 S034	1	陶器 器種	—	(16. 9)	(4. 2)	体部下位磨粒ヘラケズリ。底部磨粒未切り。新製。	磨目11～12本。	灰白色 2. 5Y6/2	白・黒色粒	底部	瀬戸・美濃系。18世紀		
第31図 PL. 20	3区 S034	2	備前陶器	—	—	[5. 4]	口縁部断面ナデ状。頸部砥石工具によるナデ。	ナデ。頸部に自然磨りかか。	にぶい赤 5YR4/3	灰青、灰色	口縁部 破片	常滑 13世紀後半		

第8表 溝跡出土遺物観察表⑦

国庫	出土地	番号	種別 器種	寸法 (cm)			質量 (g)		調整		色調	胎土	残存	備考	
				口径	底径	高さ	外径	内径	厚さ	重さ					外面
第31国庫 PL. 20	3区 S034	3	陶器 水注	(9.2)	—	[8.8]			動物のうの心輪。体部飾 花文。	ロクロナデ。	灰白色 S17/2	藍色微粒粒	3/4	瀬戸・美濃系 18世紀前半	
第31国庫 PL. 20	3区 S034	4	陶器 仏指環	6.4	3.9	4.1			底部を除き灰輪。	灰輪	灰青 2.5Y8/2	—	ほぼ完全	瀬戸・美濃系	
第31国庫 PL. 20	3区 S034	5	陶器 縁付碗	9.9	3.8	4.9			体部塗輪飾横文。高台飾 面輪。	灰輪	灰白色 10Y8/1	—	1/2	肥前系 1710～1780年代	
第32国庫 PL. 20	3区 S035	1	陶器 片口鉢	(27.0)	(17.2)	14.1			底部を除き灰輪。	灰輪	灰白 2.5Y8/2	若灰、長石	口縁～ 調整破片	瀬戸・美濃系	
第32国庫 PL. 20	3区 S035	2	陶器 筒型香炉	(10.1)	(7.7)	6.6			底部を除き灰輪。梅花文 押印。底部に粘土施附 付。	ロクロナデ。	オリーブ 黄 5Y5/4	白・黒色粒	3/4	瀬戸	
第32国庫 PL. 20	3区 S035	3	陶器 碗	8.8	3.4	5.5			底部を除き灰輪。	灰輪。	黒 10Y11.7/1	白色粒	ほぼ完全	瀬戸・美濃系	
第32国庫 PL. 20	3区 S035	4	陶器 縁付碗	8.8	3.3	5.5			体部上端用横文。口部・ 高台飾面輪。体部上端部 横文。	灰輪。口部・高台飾 面輪。具足手輪玉等 花	灰白 10Y8/0	—	ほぼ完全	肥前系 18世紀後半	
国庫	出土地	番号	種別 器種	寸法 (cm)			質量 (g)		作成技法等の特徴		色調	胎土	残存	備考	
				口径	底径	高さ	外径	内径	厚さ	重さ					
第31国庫 PL. 20	S034・35	1	銅器 文久永寶	2.62	0.6	0.1	2.9				真鍮。裏面青銅皮。文久3年(1863)初鑄。			圆形	—
国庫	出土地	番号	種別 器種	寸法 (cm)			質量 (g)		調整		色調	胎土	残存	備考	
				口径	底径	高さ	外径	内径	厚さ	重さ					外面
第32国庫 PL. 20	3区 S036	1	陶器 筒型香炉	11.8	11.7	[3.7]			底部を除き灰輪。底部に 粘土施附付。	ロクロナデ。底部に 雲文焼き成す。	オリーブ 黄 2.5Y4/6	長石	1/3	瀬戸	
第32国庫 PL. 20	3区 S036	2	陶器 徳利	—	6.8	[5.0]			口縁ロナデ。灰輪。底部 輪状拭取り。	ロクロナデ	灰オリーブ 5Y5/2	藍色粒	底部	瀬戸・美濃系。18 世紀前半	
第32国庫 PL. 20	3区 S036	3	陶器 徳利	8.1	2.8	3.9			底部を除き灰輪。	灰輪	灰青 5Y8/2	長石	2/3	瀬戸・美濃系18世 紀後半～19世紀前半	
第32国庫 PL. 20	3区 S036	4	陶器 碗	12.0	5.6	6.2			灰輪+黄横文。高台飾 面輪。	灰輪	灰白 S17/2	黄石	1/4	肥前系	
第32国庫 PL. 20	3区 S036	5	陶器 縁付碗	—	4.0	[3.7]			体部上端用横文。具足 飾花文。	灰輪	灰青 50Y8/1	—	1/3	肥前系。18世紀初 半	
第32国庫 PL. 20	3区 S036	6	陶器 縁付碗	9.6	4.1	4.9			体部塗輪飾横文。高台飾 面輪。	灰輪。	灰白 50Y8/1	—	ほぼ完全	肥前系 18世紀中頃～後半	
第33国庫 PL. 20	3区 S037	1	土師器 S字釜	(12.0)	—	[4.4]			口縁部ヨコナデ。肩部 ナメハケ	にぶい黄 赤 10YR7/3	長石、黒・ 褐色粒	口縁部 破片	—	—	
第33国庫 PL. 20	3区 S037	2	土師器 S字釜	(17.8)	—	[6.0]			タテミガキ	にぶい黄 赤 10YR7/4	長石、黒・ 褐色粒	1/4	—	—	
第33国庫 PL. 20	3区 S037	3	縄文土器 浅鉢	—	—	—			地文肌積位直線文。口部 部に押込工具より沈積 を1箇所させる。	口唇部肥厚。	にぶい黄 赤 7.5YR5/4	黒雲母、白 色微粒	口縁部 破片	縄文中期後半	
第34国庫 PL. 20	3区 S038	1	土師器 S字釜	—	—	[3.9]			口縁部ヨコナデ。肩部 ナメハケ	口縁部ヨコナデ。肩 部ナメハケ・オサエ	にぶい黄 赤 10YR7/3	長石、黒・ 褐色粒	口縁部 破片	—	
第34国庫 PL. 20	3区 S038	2	土師器 台付皿	—	(8.0)	[5.6]			台部上半ヨコナデ・ナメ ハケ。台部下半ヨコナデ	ヨコナデ。指オサ エ。台部下地所り直 し。	にぶい黄 赤 10YR7/3	黒雲母、白 色微粒	台部破 片	—	
第34国庫 PL. 20	3区 S042	1	須恵器 釜	—	—	—			胴部同心円状直り具 成	胴部同心円状直り具 成	黒、白 色微粒	—	胴部破 片	—	
第34国庫 PL. 20	3区 S042	2	土師器 釜台	—	—	[3.5]			胴部ヨコナデ。肩部 へラナデ。タテミガキ	胴部ヨコナデ。肩 部ナメハケ・オサエ	にぶい黄 赤 2.5YR6/3	長石、黒・ 褐色粒	1/3	—	
第34国庫 PL. 20	3区 S042	3	土師器 釜台	—	—	[2.2]			ヨコナデ後縁直文。縁状 文を施す。	ヘラナデ	黒 2.5YR7/4	長石、黒・ 褐色粒	胴部破 片	台部内面に砂粒を 多く含む粘土を施	
第34国庫 PL. 20	3区 S042	4	土師器 S字釜	—	—	[2.7]			台部ナメハケ	胴部ナデ。台部内 オサエ	にぶい黄 赤 2.5YR7/4	長石、黒・ 褐色粒	台部破 片	台部内面に砂粒を 多く含む粘土を施	
国庫	出土地	番号	種別 器種	全長 (cm)	幅・玉縁長 (cm)	厚さ (cm)	凸凹調整		凹面調整		側面調整		色調 肌成	残存	備考
第40国庫 PL. 20	4区 S044	1	丸瓦	[11.5]	幅: [7.4] 玉縁長: 4.3	最大: 2.3 最小: 1.2	玉縁部ヨコナ デ。胴部叩き 後下家ナデ。		細かい布目成		玉縁部凸側縁・胴 部端部・側縁面取 り。胴部凹側面・ 側縁部面取り。		3A/軟質	玉縁部破 片	—
第40国庫 PL. 20	4区 S044	2	丸瓦	[17.5]	幅: [8.3]	最大: 1.7 最小: 1.0	胴部叩き後下 家ナデナデ。凸 面縁部丸ナデ 調整。		32x3cmの細かい布 目成。コビキA		胴部凹側面・側縁 部面取り。		1A/軟質	1/3	—
国庫	出土地	番号	種別 器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	凸凹調整		凹面調整		側面調整		色調 肌成	残存	備考
第40国庫 PL. 20	4区 S044	3	平瓦	全長: [16.5] 幅: [14.6]	2.0～ 2.2	—	斜角子叩き。彫れ砂付 面。		無文叩き。彫れ砂付 面。		凹面ナデ。		3A/軟質	1/4	—
国庫	出土地	番号	種別 器種	寸法 (cm)			成・製作技法の特徴		色調	胎土	残存	備考			
				口径	底径	高さ									
第40国庫 PL. 20	4区 S044	4	縄文土器 浅鉢	—	—	[16.3]			口縁部丸棒状工具による横円区面を表出。区面 には網文充て。胴部丸棒状工具による彫り 文を施す。地文部にLRの扉形網文を充て。	にぶい黄 赤 10YR8/4	若灰、長 石、白・ 褐色粒	口縁～ 胴部破 片	縄文中期後半		

第9表 溝跡出土遺物観察表③

図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)				重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	残存	備考					
				長さ	幅	厚さ	高さ										
第40図 PL. 20	4区 SD44	5	石製品 五輪型	25.3	13.8	12.5	3.0	花崗岩質 砂岩	—	一割欠 損	灰・黒粘						
第40図 PL. 20	4区 SD44	6	石製品 五輪型	12.7	19.2	18.9	3.3	花崗岩質 砂岩	—	ほぼ完全 欠損	火焼						
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)				重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	残存	備考					
				調整													
				口径		器高		色調		胎土							
第40図 PL. 20	4区 SD45	1	かわらけ	11.3	6.5	2.2		ロクロナデ。	ロクロナデ。底部と 体部の積オサエ施 め。	淡黄緑 10YR8/4	灰・黒色粘	完形	—				
第40図 PL. 20	4区 SD45	2	土師器 台付蓋	—	10.0	[7.2]		ナメハケ状指ナデ	底部へラナデ。台部 下端折り返し後指ナ デ・オサエ	にぶい黄 緑 10YR6/4	石灰、黒粘 土、白色粘	台部	—				
第40図 PL. 20	4区 SD45	3	土師器 高坪	—	—	[8.5]		ヘラナデ	ナデ。シボり底残 存。	赤褐 10YR6/6	石灰、黒粘 土、黒色粘	器部 1/2	—				
第40図 PL. 20	4区 SD45	4	土師器 蓋	(12.7)	—	[6.1]		ナデ	口唇部・口縁部下端指 状工具による削突。口縁 部コナデ。基部タテハ ケ・ヨコハケ・指状工 具による縁部文刻痕。	黄 7.5YR6/6	灰石、黒粘 土、黒色粘	破片	—				
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)				重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	残存	備考					
				調整													
				外径		内径		色調		胎土							
第40図 PL. 20	4区 SD45	5	フイゴ 頸口	(7.0)	(3.0)	[6.7]	66		先端は滑部し、黒色にガラス質化して おり。白色のガラス質物が付着。			破片	—				
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)				重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	残存	備考					
				調整													
				口径		器高		色調		胎土							
第40図 PL. 20	4区 SD45	6	青磁 椀	—	—	[4.0]			青磁釉。顔料赤文。	青磁釉	オリブ 灰 2.50YR/1	—	破片	龍泉窯			
図版	出土地	番号	種別 器種	全長・幅 (cm)	厚さ (cm)	調整		重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	残存	備考					
				調整		調整											
第40図 PL. 20	4区 SD45	7	平瓦	全長：[10.8] 幅：[11.7]	1.6	斜格子印き。隠れ砂付 着。				タテナデ。隠れ砂付 着。	側面を面取り	1A/敷瓦	破片	—			
第40図 PL. 20	4区 SD45	8	平瓦	全長：[18.3] 幅：[12.7]	1.7~ 1.9	横文印き。タテナデ。隠 れ砂付着。				タテナデ。隠れ砂付 着。コビキ	側面ナデ	3A/敷瓦	破片	—			
第40図 PL. 20	4区 SD45	9	平瓦	全長：[10.5] 幅：[12.6]	1.7	斜格子印き。隠れ砂付 着。				横文印き。隠れ砂付 着。	側面・縁部ナデ	1A/敷瓦	破片	—			
図版	出土地	番号	種別 器種	実高後 (cm)	内径	外径	外区文幅	全長 (cm)	瓦厚 (cm)	調整		重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	残存	備考	
				調整				調整									
第41図 PL. 20	4区 SD45	10	白文丸瓦 (12.0)	(7.8)	1.8	0.9	横文	[2.7]	1.8	隠れナデ	接合法			丸瓦先頭 未加工	1B/敷瓦	瓦基部	—
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)				重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	残存	備考					
				調整													
				外径		内径		色調		胎土							
第41図 PL. 21	4区 SD45	11	銅鏡 扁平通寶	2.5	0.6	0.1	3.6			真鍮。模倣鏡。				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	12	銅鏡 元祐通寶	2.4	0.7	0.1	3.0			鎌倉。模倣鏡。				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	13	銅鏡 皇平通寶	2.4	0.7	0.1	3.0			鎌倉。模倣鏡。				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	14	銅鏡 隆元通寶	2.4	0.7	0.1	3.2			—				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	15	銅鏡 元亨通寶	2.5	0.7	0.24	5.0			行書。				完形	鏡により2枚接 着。		
第41図 PL. 21	4区 SD45	16	銅鏡 口元光	2.5	0.7	0.1	4.2			真鍮。				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	17	銅鏡 元祐通寶	2.35	0.7	0.1	2.6			鎌倉。				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	18	銅鏡 元亨通寶	2.5	0.6	0.2	5.9			鎌倉。				完形	鏡により2枚接 着。		
第41図 PL. 21	4区 SD45	19	銅鏡 正隆元寶	2.5	0.7	0.18	3.6			—				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	20	銅鏡 咸平元寶	2.4	0.6	0.1	2.4			真鍮。				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	21	銅鏡 元亨通寶	2.4	0.7	0.1	2.7			行書。				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	22	銅鏡 元祐通寶	2.4	0.7	0.1	2.9			鎌倉。				完形	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	23	銅鏡 —	2.2	0.7	0.1	2.6			—				ほぼ完全 欠損	—		
第41図 PL. 21	4区 SD45	24	銅鏡 口元光	2.35	0.6	0.1	3.0			鎌倉。				完形	—		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)				重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	残存	備考					
				調整													
				口径		器高		色調		胎土							
第41図 PL. 21	4区 SD45	1	土師器 台付蓋	—	9.7	[7.4]			台部ナメハケ状指・ヘ ラナデ	台部下端折り返し後 指ナデ・オサエ	淡黄緑 10YR8/4	黒粘土、相 4/5	台部 4/5	台部内部に砂粒を 多く含む粘土貼付			

第10表 溝跡出土遺物観察表⑨

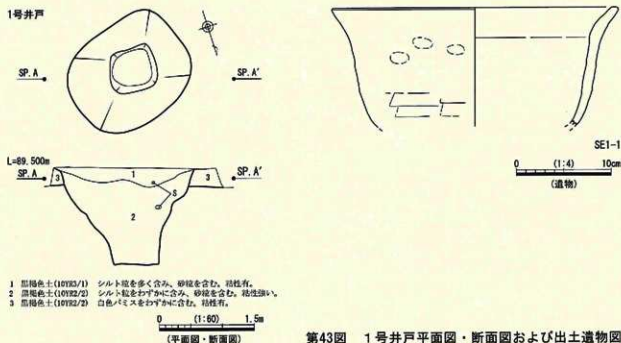
図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			形状		色別	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第41圖 PL. 21	4区 S250	2	土師器 釜	24.7	—	[6.6]	口縁部強い押ナデ、口縁部ヨコハケ後ヘラナデ	口縁部ヨコナデ後ヘラナデ	赤褐色 10YR5/3	赤・黒色粒	口縁部 1/4	—
第41圖 PL. 21	4区 S250	3	陶器 鉢	11.7	5.4	2.8	口クロナデ、厚底を除き灰胎。	見込に印文文。灰胎。	灰白 10YR8/2	石灰、黒色粒	1/2	瀬戸・美濃系
第42圖 PL. 21	4区 S253	1	赤土師器 豆	—	—	[5.2]	口縁部?位の粘土帯接合面を残す。	ヨコヘラミガキ	にぶい褐色 7.5YR6/1	黒石、黒褐色粒、チャード、白色粒	口縁部 破片	—

第4節 井戸跡

検出した井戸の総数は22基で、1区で1基、2区で13基、3区で3基、4区で5基を検出した。年代別に見てみると、中世9基、近世5基、近代1基、時期不明7基となっている。出土遺物を見ると、6号井戸から肩部に押印文を施す知多窯産の大甕が出土し、中世でもやや古い様相を呈する。また、5・8号井戸からは14世紀後半から15世紀前半の内耳鍋が出土しており、19号井戸でも同時期の中世瓦が一括廃棄された状態で出土している。これら中世の井戸は、付近に存在する瓦葺建物とともに中世寺院にともなう遺構と考えられる。

1号井戸 (第43圖)

規模・形状：長径1.9m、短径1.6m、深さ1.5mで、平面形は不整形円形を呈する。断面は上端部から0.5mの位置で緩い段差がつき、この部分から下はほぼ垂直に掘削されている。 出土遺物：土師器甕・S字甕、内耳鍋・鉢 覆土：シルト粒を含む黒褐色粘質土層 遺構年代：出土遺物に時期差がみられるが、15世紀代に廃絶したと考えられる。



第43圖 1号井戸平面図・断面図および出土遺物図

2号井戸 (第44図)

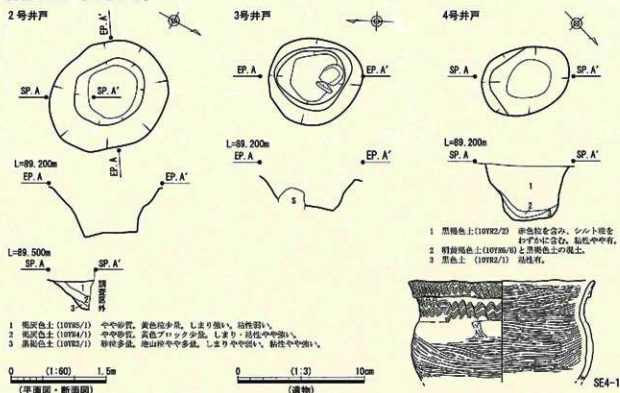
規模・形状: 長径1.9m、短径1.7m、深さ70cmで、平面形は不整形形を呈する。断面は台形状を呈するが、上端部から0.4mの位置で緩い段差がつく。 出土遺物: なし 覆土: 黄色土ブロックを少量含む褐色シルト層が堆積することから、人為的な埋没の可能性がある。 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を特定することはできない。 所見: 現状で見る限り、底面は湧水層に達していない。断面が台形状を呈することなどから、湧水する井戸ではなく、雨水等を溜めておく水溜めのような性格をもつ遺構であると考えられる。

3号井戸 (第44図)

重複: 11・12号溝を掘り込む 規模・形状: 長径1.5m、短径1.4m、深さ50cmで、平面形は円形を呈する。断面は台形状を呈するが、上端部から0.3mの位置で緩い段差がつく。 出土遺物: なし 覆土: 不明。基底部で40cm大の礫を検出。 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を特定することはできない。

4号井戸 (第44図)

重複: 14号溝と重複するが前後関係不明 規模・形状: 長径1.4m、短径1.0m、深さ88cmで、平面形は楕円形を呈する。断面はほぼ台形状を呈するが、中位で段差が生じている。 出土遺物: 軟質陶器鉢、弥生土器小型甕 覆土: 覆土の大半は褐色粒を含む黒褐色土層で、下層は明黄褐色土と黒褐色土が堆積し、最下層には黒色土が堆積する。 遺構年代: 出土遺物の帰属年代により中世には廃絶したと考えられる。



第44図 2～4号井戸平面図・断面図および4号井戸出土遺物図

5号井戸 (第45図)

規模・形状: 長径2.0m、短径1.7m、深さ1.3mで、平面は不整形形を呈する。断面は上端部から0.5mの位置で緩い段差がつき、この部分からはほぼ垂直に掘削されている。 出土遺物: 内耳鍋、軟質陶器、土師器坏 覆土: 不明 遺構年代: 出土遺物の帰属年代により14世紀後半には廃絶したと考えられる。

6号井戸(第45図)

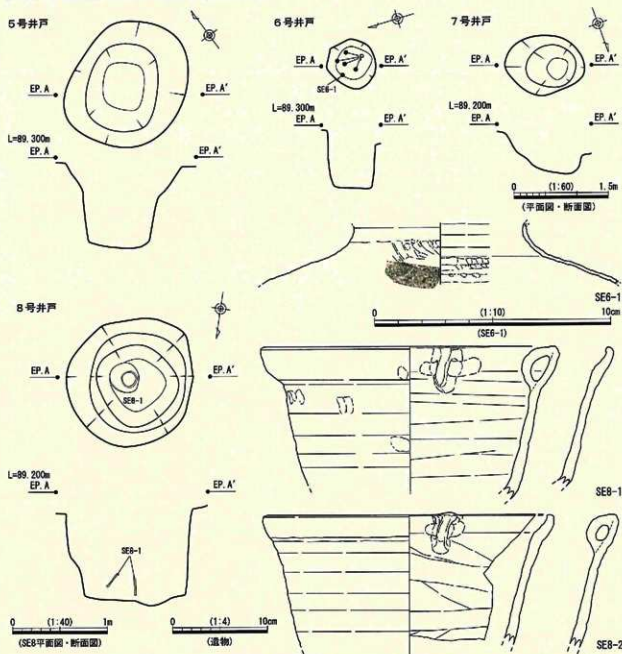
重複: 12号溝を掘り込む 規模・形状: 長径0.8m、短径0.7m、深さ80cmで、平面は円形を呈する。
 出土遺物: 焼締陶器大甕、黒色片岩(スス附着) 覆土: 下層には黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。 遺構年代: 出土遺物の帰属年代により中世には廃絶したと考えられる。

7号井戸(第45図)

重複: 22・25号溝に切られる 規模・形状: 長径1.3m、短径1.0m、深さ68cmで、平面は不整形円形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 15世紀以前に開削された22・25号溝に切られることから、それ以前に開削されたと考えられる。

8号井戸(第45図)

規模・形状: 長径1.3m、短径1.0m、深さ40cmで、平面は不整形円形を呈する。 出土遺物: 内耳鍋・鉢、土師器甕 覆土: 不明 遺構年代: 14世紀後半から15世紀前半の内耳鍋が出土することから、15世紀前半以降の廃絶と考えられる。



第45図 5～8号井戸平面図・断面図および6・8号井戸出土遺物図

9号井戸 (第46図)

重複：25号溝と重複するが前後関係不明 規模・形状：長径1.1m、短径1.0m、深さ1.5mで、平面は不整形円形を呈する。 出土遺物：なし 覆土：不明 遺構年代：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。

10号井戸 (第46図)

規模・形状：長径1.1m、短径0.9m、深さ70cmで、平面は不整形円形を呈する。断面は台形状を呈するが、上端部から30cmの位置で緩い段差がつく。 出土遺物：なし 覆土：不明 遺構年代：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。

11号井戸 (第46図)

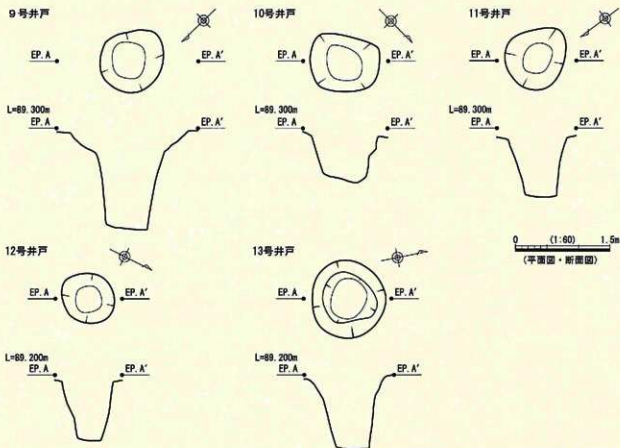
規模・形状：長径1.1m、短径1.0m、深さ94cmで、平面は不整形円形を呈する。 出土遺物：なし 覆土：不明 遺構年代：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。

12号井戸 (第46図)

規模・形状：長径0.9m、短径0.7m、深さ94cmで、平面は不整形円形を呈する。断面は台形状を呈するが、中位で段差が生じている。 出土遺物：なし 覆土：不明 遺構年代：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。

13号井戸 (第46図)

規模・形状：長径1.3m、短径1.2m、深さ1.15mで、平面は不整形円形を呈する。断面は台形状を呈するが、上端部から0.3mの位置で緩い段差がつく。 出土遺物：なし 覆土：不明 遺構年代：出土遺物がなく、鍵層となるテフラの有無も不明であるため、年代を特定することはできない。



第46図 9～13号井戸平面図・断面図

14号井戸(第47・48図)

重複: 26号溝を掘り込む 規模・形状: 長径0.8m、短径0.6m、深さ76cmで、平面形は不整形円形を呈する。 出土遺物: 磁器碗 覆土: 不明 遺構年代: 出土遺物および遺構の重複関係から、近世のものと考えられる。

15号井戸(第47・48図)

規模・形状: 長径2.6m、短径2.0m、深さ1.6mで、平面は不整形円形を呈する。断面は上端部から80cmの位置で緩い段差がつき、この部分から下はほぼ垂直に掘削されている。 出土遺物: 陶器碗・播鉢・徳利、磁器碗・皿、焼締陶器播鉢、内耳鍋、焙烙、須恵器甕、土師器環・壺・S字甕 覆土: 上層はAs-A軽石を含む黒褐色粗砂混じりシルト層、下層は地山黄色土ブロックを含む黒褐色細砂混じりシルト層が堆積することから、下層については人為的な埋没と考えられる。 遺構年代: 基底部付近で18世紀末を中心とする陶磁器が出土することから、18世紀末以降に廃絶したと考えられる。その他の遺物についても、井戸を埋める際に混入した可能性が高い。

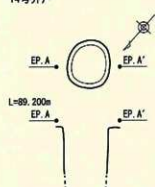
16号井戸(第47・48図)

規模・形状: 長径1.6m、短径1.3m、深さ1.75mで、平面は不整形円形を呈する。 出土遺物: 内耳鍋、土師器甕 覆土: As-A・As-B軽石を含む黒褐色～黒色土層で、上層および下層では地山黄色土粒を多量に含む。地山黄色土粒を含むことなどから、人為的な埋没と考えられる。 遺構年代: 覆土にAs-A軽石を含むことから近世に廃絶したと考えられる。

17号井戸(第48図)

重複: 42号溝を掘り込む 規模・形状: 直径0.9m、深さ1.7mで、平面は円形を呈する。 出土遺物: 磁器碗 覆土: 不明 遺構年代: 出土遺物の帰属年代から近世に廃絶したと考えられる。

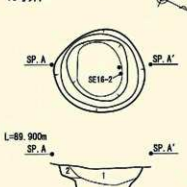
14号井戸



15号井戸



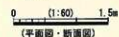
16号井戸



- 1 黒褐色(10YR2/3) 粗砂混じりシルト、As-Aバミス混入、15号井戸フタ土
- 2 黒褐色(10YR2/3) 細砂混じりシルト、15号井戸フタ土
- 3 黒褐色(10YR2/3) 粗砂混じりシルト、15号井戸フタ土
- 4 黒褐色(10YR2/3) 粗砂混じりシルト、黄色土シルトブロック(地山)混入、15号井戸フタ土

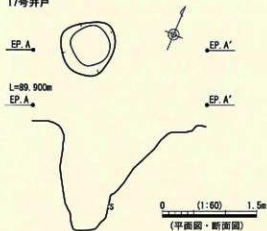
- 1 黒褐色(10YR2/3) As-A・As-B混、黄色土粒・塊(φ1~2cm)混、しきり有、16号井戸フタ土
- 2 褐色(10YR2/1) As-A・As-B混、黄色土粒・塊(φ1~2cm)混、しきり有、16号井戸フタ土
- 3 黒褐色(10YR2/3) As-A・As-B混、16号井戸フタ土
- 4 黒褐色(10YR2/2) As-A・As-B混、黄色土粒・塊(φ1~2cm)混、16号井戸フタ土

● 遺物



第47図 14~16号井戸平面図・断面図

17号井戸



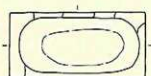
SE14-1



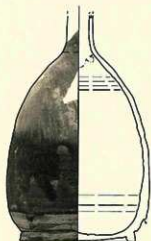
SE15-1



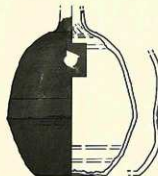
SE15-2



SE15-5



SE15-3



SE15-4



SE15-6



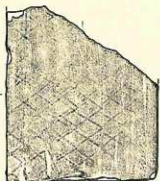
SE16-1



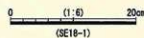
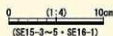
SE16-3



SE16-2



SE18-1



第48図 17号井戸平面図・断面図および14~16・18号井戸出土遺物図

18号井戸(第48・49図)

規模・形状: 長径0.7m、残存短径0.4m、深さ0.54cmで、平面は円形を呈する。 出土遺物: 丸瓦・平瓦、縄文土器 覆土: 砂質土。下層ほどきめが細かい。 遺構年代: 出土遺物から、中世以降と考えられる。

19号井戸(第49図)

重複: 11号溝を掘り込む 規模・形状: 長径1.35m、短径1.0m、深さ1.29mで、平面は楕円形を呈する。 出土遺物: 丸瓦・平瓦、土師器小片 覆土: 下から砂層・粘質土・砂質土の順に堆積する。 遺構年代: 上層に中世の瓦を一括廃棄していることから、中世に廃絶したと考えられる。

20号井戸(第50図)

規模・形状: 長径1.4m、短径1.1m、深さ1.1mで、平面は不整形円形を呈する。 出土遺物: 土師器小片 覆土: 砂質土。上層にAs-Aと思われる軽石が混入。 遺構年代: 覆土上層にAs-Aが混入することから、近世以降に廃絶したと考えられる。

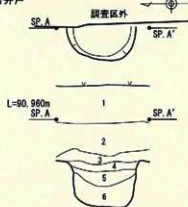
21号井戸(第50図)

規模・形状: 11・52・53号溝を掘り込む 規模・形状: 長径1.1m、短径1.0m、深さ1.63mで、平面は円形を呈する。 出土遺物: 軟質陶器内耳鍋・焙烙、桶 覆土: 半截中に崩落したため上層は不明。下層は砂層が、最下層には砂利層が形成される 遺構年代: 下層からコンクリートブロックを検出したため、近代以降の廃絶と考えられる

22号井戸(第50図)

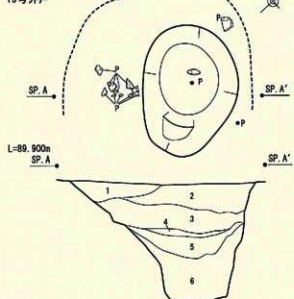
規模・形状: 長径1.6m、短径1.0m、深さ1.16mで、平面は楕円形を呈する。 出土遺物: 丸瓦・平瓦、土師器小片 覆土: 砂質土。黄色地山土ブロックが多量に混入。 遺構年代: 上層から中世の瓦が多量出土することから、中世に廃絶したと考えられる。

18号井戸



- 1 表土
- 2 黒色土
- 3 灰黄褐色土 (10YR5/2) 膠礫土。黄色ブロックやや多量。しまり強い、粘性弱い。
- 4 黄褐色土 (10YR4/1) 黄色ブロック少量。やや砂質。しまり・粘性やや強い。
- 5 黄灰色土 (10YR5/1) 軽石粒やや少量。砂質。しまりやや強い、粘性弱い。
- 6 黄褐色土 (10YR4/1) 砂質。黄色粒やや少量。しまり・粘性弱い。

19号井戸

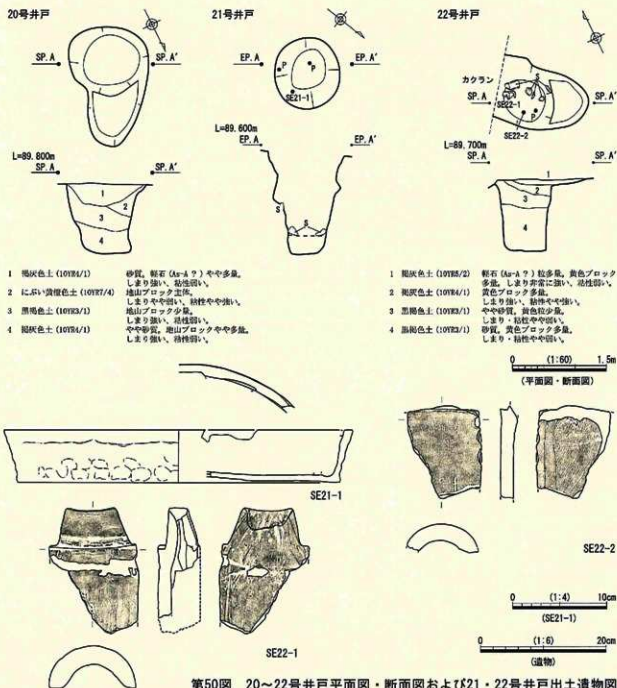


- 1 灰黄褐色土 (10YR4/1) 砂質。灰色ブロック少量。瓦片多量。しまりやや強い、粘性強い。
- 2 黄褐色土 (10YR4/1) 砂質。礫ごく少量。しまり強い、粘性弱い。
- 3 黒褐色土 (10YR2/1) 砂質。小石やや多量。しまりやや強い、粘性弱い。
- 4 黄灰色土 (10YR5/1) やや粘質。小石少量。しまり・粘性弱い。
- 5 灰黄色土 (10YR5/2) やや砂質。小石・礫少量。しまりやや強い、粘性やや強い。
- 6 黒褐色土 (10YR2/1) 砂質。小石少量。しまり・粘性なし。

1:40
1m
(平面図・断面図)

第49図 18・19号井戸平面図・断面図

第3章 検出した遺構・遺物



第50図 20~22号井戸平面図・断面図および21・22号井戸出土遺物図

第11表 井戸跡出土遺物観察表①

図号	出土地	番号	種別 器種	寸法 (cm)		重量	形状		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径		器高	外面				
第43図 PL. 21	1区 SE1	1	軟質陶器 内耳瓶	(34.2)	—	[12.6]	口縁ヨコナデ。体部指 オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 10YR3/2	長石、黒 褐色粒	1/10	—
第44図 PL. 21	2-1区 SE4	1	硬式土器 小甕	14.7	—	[7.8]	口縁部細い粘土紐付加 による折り返し後、標 識波状文。胴部タハ ケ糸割線波状文。胴部 ナデ後ヨコミガキ	ナデ後ヨコミガキ	にぶい黄 褐色 10YR7/3	長石、黒 褐色粒	口縁~ 胴部 1/3	—
第45図 PL. 21	2-1区 SE6	1	硬質陶器 大甕	—	—	[16.5]	胴部ヨコナデ。胴部板 状工具によるナデ・指 オサエ。肩部に印キ	胴部ヨコナデ、胴部 指ナデ・オサエ	灰黄色 10YR5/2	長石、白色 微細粒	胴部~ 胴部破 片	常滑
第45図 PL. 21	2-1区 SE8	1	軟質陶器 内耳瓶	31.5	—	[16.2]	口縁部ヨコナデ。体部 短なナデ後指オサエ。	ヨコナデ	黒褐色 7.5YR3/1	黒石、白色 微細粒	胴部欠 損	内第2瓦葺群 14世紀末~15世紀初期
第45図 PL. 21	2-1区 SE8	2	軟質陶器 内耳瓶	30.8	—	[14.0]	口縁部ヨコナデ。体部 短なナデ後指オサエ。	ヨコナデ	褐色 10YR6/1	長石、白色 微細粒	1/3	内第1瓦葺群 14世紀末~16世紀初期
第48図 PL. 22	2-1区 SE14	1	磁器 風付碗	(10.8)	4.2	6.2	灰緑土質須絵。雷紋梅 樹文。高台附懸縁。	反胎。	灰白 10YR/1	黒色粒	1/4	肥前系 1710~1780年代

第12表 井戸跡出土遺物観察表②

図版	出土地	番号	種別 器種	流量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考	
				口径	底径	器高	外面	内面					
第48図 Pl. 22	3区 SE15	1	焼酎器 磁罍	—	—	[14.4]	錆跡。体部ヘラズリ。	ヨコナデ	新倉組 2.5YR5/6	長石、黒色 口縁部 薄片	—	—	
第48図 Pl. 22	3区 SE15	2	磁器 盆付皿	(14.0)	8.4	3.8	体部唐草文、高台脚面縁。 高台縁部無縁、砂付着。	—	新倉組 7.5YR7/1	—	1/3	肥前系 1700～1780年代	
第48図 Pl. 22	3区 SE15	3	陶器 德利	—	12.2	[24.0]	鉄錆。底部粉拭い取り。	無縁	新倉組 10YR7/2	黒色粒	ほぼ完 形	美濃 18世紀末～19世紀前半	
第48図 Pl. 22	3区 SE15	4	陶器 德利	—	7.5	[17.5]	錆跡。	無縁	7.5YR4/4	長石、黒色 粒	ほぼ完 形	美濃 18世紀末～19世紀前半	
図版	出土地	番号	種別 器種	流量 (cm)				重量 (g)	石材	作成技法等の特徴		残存	備考
				長さ	幅	厚さ	高さ			断面	表面		
第48図 Pl. 22	3区 SE15	5	石製品 硯	14.4	6.9	1.5	450	黒色頁 岩	断面	断面調整	側面調整	ほぼ完 形	—
第48図 Pl. 22	3区 SE15	6	石製品 打割石斧	[12.7]	6.4	3.2	240	頁岩	断面	断面調整	側面調整	ほぼ完 形	—
図版	出土地	番号	種別 器種	流量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考	
				口径	底径	器高	外面	内面					
第48図 Pl. 22	3区 SE16	1	飲食器 内耳瓶	—	—	[5.0]	ヨコナデ	ヨコナデ	黒地 7.5YR3/1	雲母粒、 黒・褐色粒	破片	—	
第48図 Pl. 22	3区 SE16	2	磁器 盆付碗	(12.4)	—	[6.3]	体部唐文、高台脚面 縁。	—	オリブ・ 青 5Y5/4	黒色粒	2/5	肥前系	
第48図 Pl. 22	3区 SE16	3	陶器 碗	(9.2)	4.0	5.5	胎縁×ウのふ縁。	胎縁×ウのふ縁。	灰白 10YR7/1	黒色粒	1/8	美濃・度島系 18世紀前半	
図版	出土地	番号	種別 器種	全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側面調整	側面調整	色調 構成	残存	備考
第48図 Pl. 22	4区 SE18	1	平瓦	全長：[28.3] 底幅幅：22.2	—	1.9	斜格子印き。粗れ砂付 着。	斜格子印き。粗れ砂付 着。	凸面調整	凸面調整	凸面調整	38/飲食 3/4	—
図版	出土地	番号	種別 器種	流量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考	
				口径	底径	器高	外面	内面					
第50図 Pl. 22	4区 SE21	1	飲食器 内耳瓶	36.8	33.9	5.6	口唇～口縁部ヨコナ デ、体部ヨコナデ後部 オサエ。底部粗れ砂。	ヨコナデ。体部と底 部の境強いナデ。内 耳基部残存。	新倉組 10YR3/1	雲母粒	1/4	体部上位層倉 17世紀前半	
図版	出土地	番号	種別 器種	全長 (cm)	幅・玉縁長 (cm)	厚さ (cm)	凸面調整	凹面調整	側面調整	側面調整	色調 構成	残存	備考
第50図 Pl. 22	4区 SE22	1	丸瓦	[20.9]	幅[12.7] 玉縁：7.6 玉縁長：6.1	最大：2.9 最小：1.9	互縁部ヨコナデ。 断面調整後下 タナ・ヨコナデ 断面凸面縁丸 ナデ調整。	32本/3cmの粗かい布 目織	玉縁部凸面縁・凹 面調整。側縁面取 り。断面調整面・ 側縁面取。	18/飲食 1/4	—		
第50図 Pl. 22	4区 SE22	2	丸瓦	[14.8]	幅：[11.7]	最大：2.7 最小：2.0	断面調整後ヨ コナデ。断面凸面 縁丸ナデ調整。	粗かい布目織。コピ キA	断面凸面縁・側 縁面取。	18/飲食 1/3	—		

第5節 礎石建物・土坑跡

検出した土坑跡の総数は52基で、1区で5基、2区で16基、3区で3基、4区で14基を検出した。なお、6～17号土坑に関しては礎石建物の柱穴である可能性が高いため、項目を分けて報告する。年代別にみても、縄文時代中期後葉1基、古墳時代以前1基、古墳時代以降1基、古墳時代前期4基、中世(15世紀)3基、中世(15世紀)以降7基、時期不明11基などとなっている。特筆すべき遺構としては、縄文中期後葉の22号土坑、土坑墓と考えられる40・44・45号土坑があげられる。

1. 1号礎石建物跡

建物の柱穴と考えられる土坑は2-1区北辺中央部で検出された。建物の復元はできないものの、周辺の溝から軒瓦を含む多量の瓦が出土していることや遺構配置の状況から、建物の柱穴と推定した。やや大型の柱穴基底部には根石とみられる凹円礫を配することから、礎石建物にともなう柱穴の一部と考えられる。

6号土坑(第51・52図)

規模・形状：長径0.8m、短径(検出長)0.7m、深さ48cmで、平面形は隅丸方形を呈する。出土遺物：なし 覆土：シルト粒・小ブロックを多量に含む黒褐色土 遺構年代：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。

7号土坑(第51・52図)

規模・形状:長径0.7m、短径0.6m、深さ45cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物:陶器鉢、縄文土器深鉢(縄文中期後葉) 覆土:地山ブロックを多量に含む黒褐色土 遺構年代:鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。 所見:基底部に根石とみられる径20cm程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴(柱穴)と考えられる。

8号土坑(第51・52図)

重複:4号井戸と重複するが前後関係不明 規模・形状:長径0.7m、短径0.6m、深さ44cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:不明 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。 所見:基底部に根石とみられる径10cm程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴(柱穴)と考えられる。

9号土坑(第51・52図)

規模・形状:長径1.0m、短径0.8m、深さ39cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:不明 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。

10号土坑(第51・52図)

規模・形状:長径0.4m、短径0.3m、深さ34cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:不明 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。

11号土坑(第51・52図)

重複:15号溝を掘り込む 規模・形状:長径0.6m、短径0.2m、深さ35cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:黒色粒を含む黒色土 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。 所見:基底部に根石または礎石とみられる径36cmの亜円礫を配することから、礎石据付穴(柱穴)と考えられる。

12号土坑(第51・52図)

規模・形状:長径0.8m、短径0.6m、深さ24cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:シルト粒・小ブロックを多量に含む黒褐色土 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。 所見:基底部に根石とみられる径20cm程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴(柱穴)と考えられる。

13号土坑(第51・52図)

重複:12号溝を掘り込む 規模・形状:長径0.7m、短径0.7m、深さ40cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:不明 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。 所見:基底部に根石とみられる径2~5cm程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴(柱穴)と考えられる。

14号土坑(第51図)

規模・形状:長径0.6m、短径0.35m、深さ13cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:不明 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。 所見:基底部に根石とみられる径20cm程度の亜円礫を配することから、礎石据付穴(柱穴)の可能性がある。

15号土坑(第51・52図)

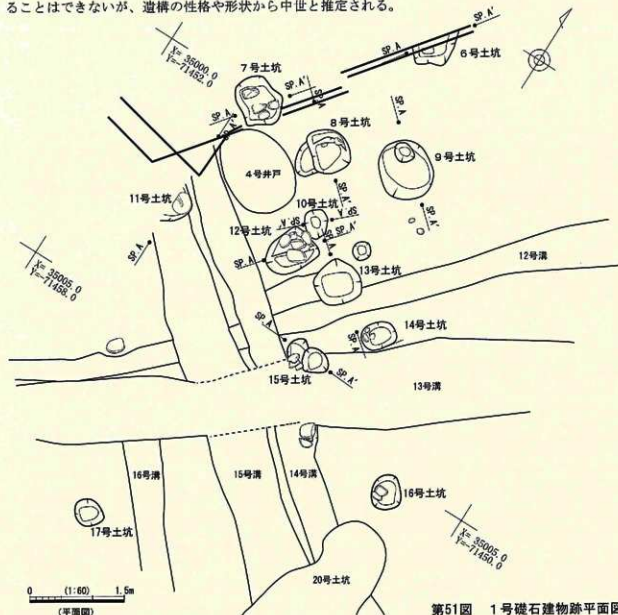
重複: 13号溝を掘り込む 規模・形状: 長径0.5m、短径0.2m、深さ26cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。 所見: 基底部に根石とみられる径20cm程度の垂円礫を配することから、礎石据付穴(柱穴)の可能性がある。

16号土坑(第51図)

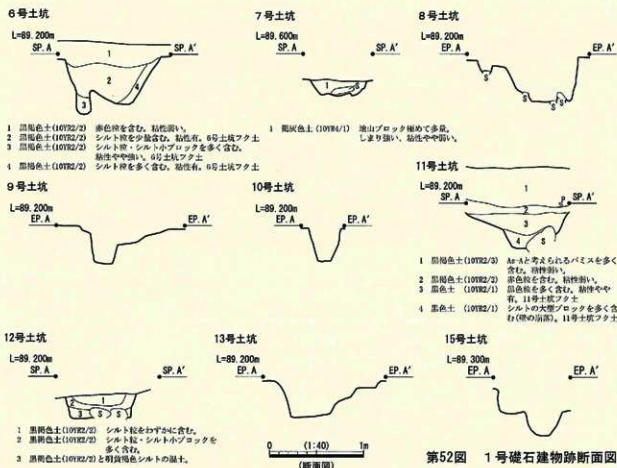
規模・形状: 長径0.55m、短径0.4m、深さ11.5cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。 所見: 基底部に根石とみられる径20cm程度の垂円礫を配することから、礎石据付穴(柱穴)の可能性がある。

17号土坑(第51図)

規模・形状: 長径0.5m、短径0.4m、深さ16.6cmで、平面形は不整形形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。



第51図 1号礎石建物跡平面図



第52図 1号礎石建物跡断面図

2. 土坑跡

1号土坑 (第53図)

規模・形状：長径0.8m、短径0.5m、深さ11cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物：なし
覆土：As-C 軽石を含むシルト層 遺構年代：覆土にAs-C 軽石を含むことから、As-C 降下以降に廃絶したと考えられる。

2号土坑 (第53図)

規模・形状：長径0.48m、短径0.38m、深さ12cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物：なし
覆土：As-C 軽石を含むシルト層 遺構年代：覆土にAs-C 軽石を含むことから、As-C 降下以降に廃絶したと考えられる。

3号土坑 (第53図)

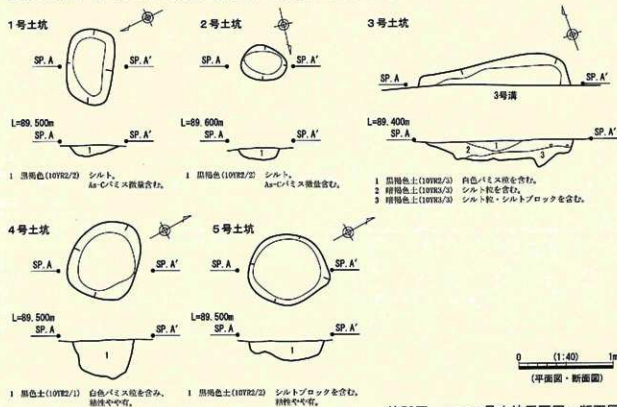
重複：3号溝と重複関係にあるが、覆土は3号溝上層とほとんど差異がないため、前後関係不明。
規模・形状：長径1.6m、短径(残存長)0.4m、深さ20cm 出土遺物：土師器S字壺 覆土：上層に白色パミスを含む黒褐色土で、下層はシルト粒を含む暗褐色土が堆積する。 遺構年代：古墳時代前期の溝である3号溝と重複関係にあり、S字壺が出土しているが、前後関係は不明であり、遺物も流れ込みの可能性が高いため年代を断定することはできない。ただし、覆土の状況から古墳時代の可能性も考えられる。

4号土坑 (第53図)

規模・形状：長径0.9m、短径0.7m、深さ40cmで、平面形は不整形を呈する。 出土遺物：縄文土器(縄文中期後葉) 覆土：白色パミス粒を含む黒褐色土(As-C 軽石か) 遺構年代：覆土の状況から、As-C 降下以降に廃絶した可能性が考えられる。

5号土坑(第53図)

規模・形状:長径0.8m、短径0.7m、深さ10cmで、平面形は不整形円形を呈する。出土遺物:土師器S字甕 覆土:白色バミス(As-C 堅石か)・地山黄色土ブロックを含む黒褐色土 遺構年代:覆土の状況から、As-C降下以降に廃絶した可能性が考えられる。



第53図 1～5号土坑平面図・断面図

18号土坑(第5図)

重複:17号溝を掘り込む 規模・形状:長径0.8m、短径0.6m、深さ50cmで、平面形は不整形円形を呈する。出土遺物:なし 覆土:不明 遺構年代:15世紀以降に廃絶した17号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。

19号土坑(第54図)

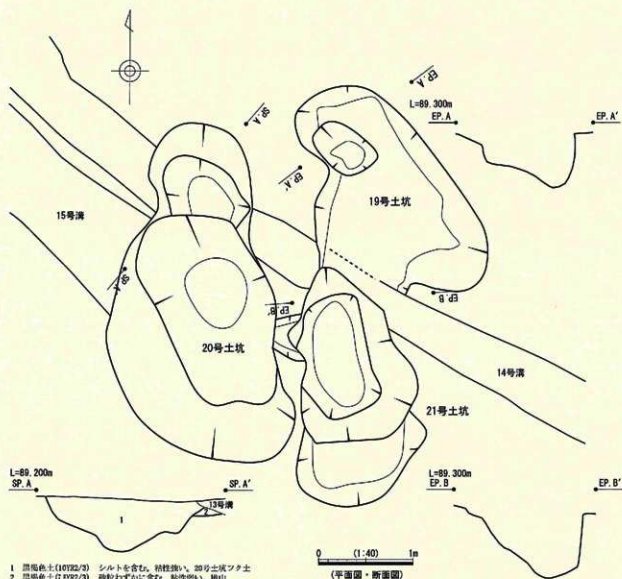
重複:14号溝を掘り込む 規模・形状:長径2.6m、短径1.6m、深さ53cmで、平面形は不整形円形を呈する。出土遺物:なし 覆土:不明 遺構年代:15世紀以降に廃絶した14号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。

20号土坑(第54図)

重複:14号溝を掘り込み、15号溝に切られる。規模・形状:長径2.7m、短径1.8m、深さ56cm～1.0mで、平面形は楕円形を呈する。出土遺物:なし 覆土:黒褐色土 遺構年代:15世紀以降に廃絶した14号溝を掘り込むことから、15世紀以降に開削されたと考えられる。ただし、断面写真では単一の土により埋没したような状況がみられ、14号溝とそれほど時期差のない15号溝に切られることから、15世紀頃に比較的短期間のうちに埋没したことが推定される。

21号土坑(第54図)

重複:14号溝を掘り込む 規模・形状:長径1.9m、短径1.0m、深さ68cmで、平面形は楕円形を呈する。出土遺物:なし 覆土:不明 遺構年代:15世紀以降に廃絶した14号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。



第54図 19～21号土坑平面図・断面図

22号土坑 (第55・63図)

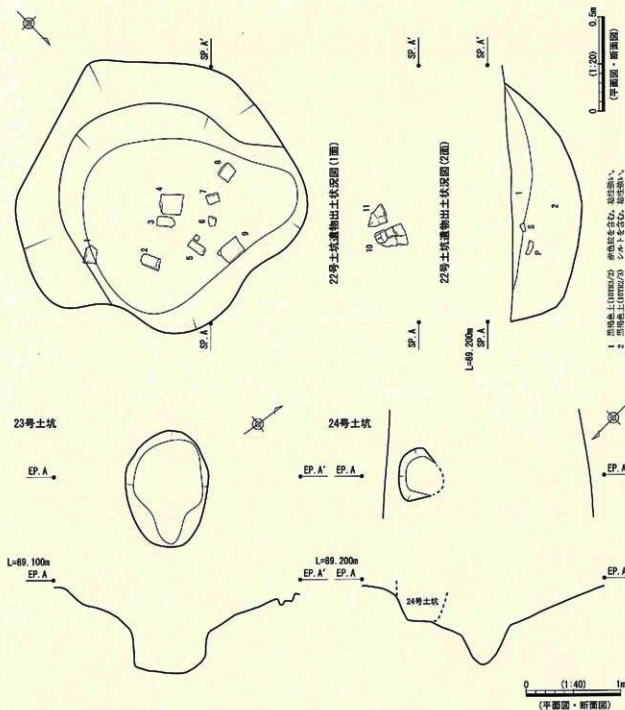
重複：16号溝と重複するが前後関係不明 規模・形状：長径1.5m、短径1.4m、深さ38cmで、平面形は不整形を呈する。 出土遺物：縄文土器深鉢（加曾利E3式） 覆土：上層に褐色粒子、下層にシルトブロック（地山黄色土か）を含む黒褐色土 遺構年代：覆土中位より多量の縄文土器が出土していることから、縄文時代中期後葉のものと考えられる。

23号土坑 (第55図)

重複：17号溝を掘り込む 規模・形状：長径1.9m、短径1.2m、深さ66cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物：なし 覆土：不明 遺構年代：15世紀以降に廃絶した17号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。

24号土坑 (第55図)

重複：17号溝を掘り込む 規模・形状：長径0.6m、短径（残存長）0.3m、深さ38cmで、平面形は不整形を呈する。 出土遺物：なし 覆土：不明 遺構年代：15世紀以降に廃絶した17号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。



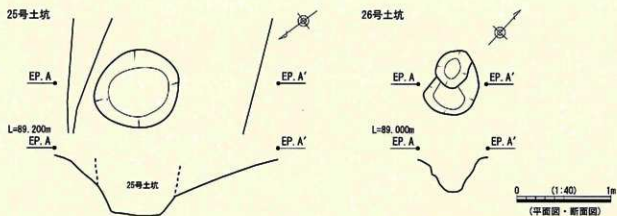
第55図 22～24号土坑平面図・断面図

25号土坑(第56図)

重複：17号溝を掘り込む 規模・形状：長径1.0m、短径0.8m、深さ61cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物：なし 覆土：不明 遺構年代：15世紀以降に廃絶した17号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。

26号土坑(第56図)

重複：17号溝を掘り込む 規模・形状：長径0.4m、短径0.3m、深さ36cmで、平面形は不整形円形を呈する。 出土遺物：なし 覆土：不明 遺構年代：15世紀以降に廃絶した17号溝を掘り込むことから、それ以降の開削と考えられる。



第56図 25・26号土坑平面図・断面図

27号土坑 (第57図)

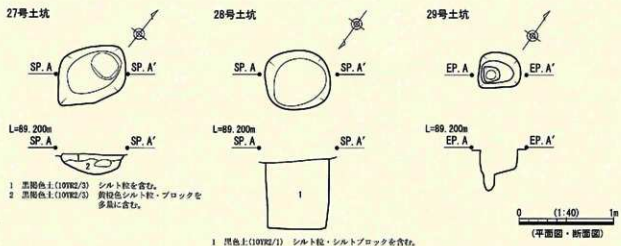
規模・形状：長径0.7m、短径0.55m、深さ20cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物：なし
 覆土：シルト粒・ブロックを多量に含む黒褐色土 遺構年代：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできないが、遺構の性格や形状から中世と推定される。所見：
 基底部に根石とみられる径16cmの皿円礫を配することから、礎石据付穴(柱穴)の可能性がある。

28号土坑 (第57図)

規模・形状：長径0.7m、短径0.6m、深さ71cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物：なし
 覆土：シルト粒・ブロックを含む黒色土 遺構年代：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

29号土坑 (第57図)

規模・形状：長径0.7m、短径0.3m、深さ26cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物：なし
 覆土：不明 遺構年代：出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。



第57図 27~29号土坑平面図・断面図

30号土坑 (第58図)

重複：26号溝を掘り込む 規模・形状：長径3.6m、短径1.2m、深さ50cmで、平面形は長方形を呈する。 出土遺物：内耳鍋、平瓦 覆土：黒褐色土 遺構年代：近世以降に廃絶した26号溝を掘り込むことから、それ以降と考えられる。

31号土坑(第58図)

重複: 26号溝を掘り込む 規模・形状: 長径(検出長)1.3m、短径0.8m、深さ16cm 出土遺物: なし 覆土: 黒褐色土 遺構年代: 近世以降に廃絶した26号溝を掘り込むことから、それ以降と考えられる。

32号土坑(第58図)

重複: 26・28号溝を掘り込む 規模・形状: 長径2.5m、短径1.0m、深さ1.0mで、平面形は長方形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 黒褐色土 遺構年代: 近世以降に廃絶した26・28号溝を掘り込むことから、それ以降と考えられる。

33号土坑(第58図)

重複: 26号溝を掘り込む 規模・形状: 長径2.3m、短径1.0m、深さ67cmで、平面形は長方形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 黒褐色土 遺構年代: 近世以降に廃絶した26号溝を掘り込むことから、それ以降と考えられる。

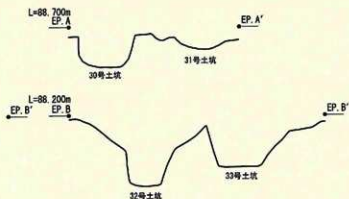
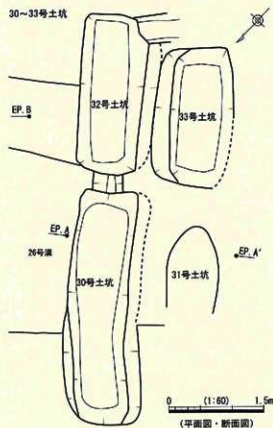
34号土坑(第58図)

重複: 37号溝を掘り込む 規模・形状: 長径1.0m、短径0.8m、深さ17cmで、平面形は不整形円形を呈する。 出土遺物: 土師器S字甕 覆土: 上層はAs-A軽石を少量、As-B軽石を多量に含む黒褐色細砂混じりシルト層で、下層はテフラを含まない黒褐色シルト層が堆積する。 遺構年代: As-B降下以前に廃絶した37号溝を掘り込み、覆土上層にAs-A軽石を含むことから、As-B降下以降に閉削され、近世以降に廃絶したと考えられる。

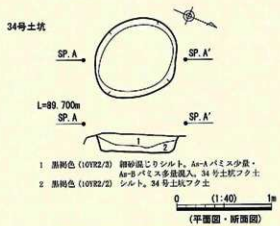
35号土坑(第59図)

重複: 38号溝を掘り込む 規模・形状: 長径0.95m、短径0.9m、深さ15cmで、平面形は不整形円形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: As-A軽石を含む 遺構年代: 覆土にAs-A軽石を含むことから、近世以降と考えられる。

30~33号土坑



34号土坑



- 1 黒褐色(101R2/3) 細砂混じりシルト。As-A軽石少量・As-B軽石多量混入。34号土坑フタ土
- 2 黒褐色(101R2/2) シルト。34号土坑フタ土

第58図 30~34号土坑平面図・断面図

36号土坑(第59・63図)

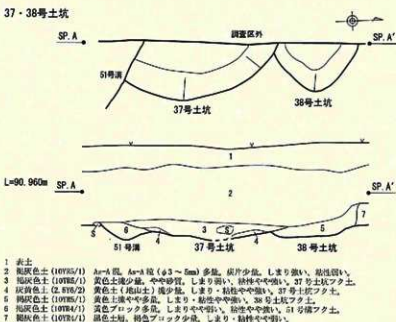
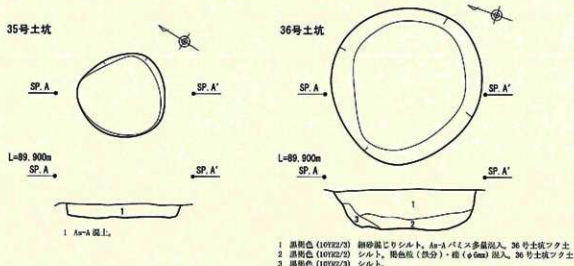
規模・形状:長径1.7m、短径1.55m、深さ40cmで、平面形は不整形円形を呈する。 出土遺物:なし
 覆土:As-B軽石を含む 遺構年代:覆土にAs-B軽石を含むことから、As-B降下以前に開削されたと考えられる。

37号土坑(第59図)

重複:51号溝・38号土坑を掘り込む 規模・形状:長径(検出長)1.3m、短径(検出長)0.65m、深さ15cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:砂粒混じりの粘質土。黄色地山土ブロックを含む。 遺構年代:51号溝を掘り込むことから、古墳時代以降と考えられる。

38号土坑(第59図)

重複:37号土坑に切られる 規模・形状:長径0.8m、短径(検出長)0.5m、深さ11cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:粘質土。黄色地山土ブロックを多く含む。 遺構年代:51号溝・37号土坑に切られることから、古墳時代以前と考えられる。



第59図 35~38号土坑平面図・断面図

39号土坑(第60図)

重複: 44号溝と切り合うが前後関係不明 規模・形状: 長径(検出長)2.5m、短径(検出長)0.35m、深さ16cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: 土師器坏、S字壺、縄文土器 覆土: 砂粒混じりの黒色土 遺構年代: 44号溝と覆土を共有することからほぼ同時期と考えられる。

40号土坑(第60・63図)

重複: 45・46号溝と切り合うが前後関係不明 規模・形状: 長径0.9m、短径0.85m、深さ24cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: 銅銭 覆土: 軽石粒をやや多量に含む。 遺構年代: 出土遺物と覆土の状況から近世以降と考えられる。 所見: 銅銭が6枚出土しており、墓坑の可能性がある。

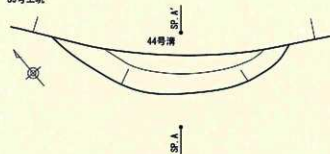
41号土坑(第60図)

規模・形状: 長径1.5m、短径1.25m、深さ15cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: 土師器小片 覆土: 硬くしまっており、As-A軽石を多量に含む。 遺構年代: 覆土にAs-A軽石を含むことから、近世以降と考えられる。

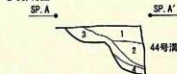
42号土坑(第60図)

重複: 45号溝と切り合うが前後関係不明 規模・形状: 長径1.05m、短径0.7m、深さ33cmで、平面形は隅丸長方形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 砂質土 遺構年代: 出土遺物がなく、銕層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

39号土坑

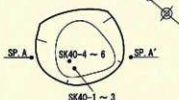


L=90.100m

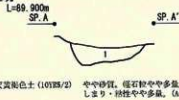


- 1 灰黄褐色土 (10YR6/2) 砂質、小石少量、しまり強い、粘土やや弱い、砂質、小石ごく少量
- 2 褐色土 (10YR4/1) しまり強い、粘性やや強い、褐色土と砂の混じり
- 3 黒褐色土 (10YR3/1) しまり強い、粘土やや強い、灰褐色土と砂の混じり
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) しまり強い、粘性やや強い、しまり強い、粘性やや強い

40号土坑

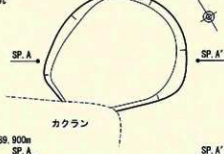


40号土坑

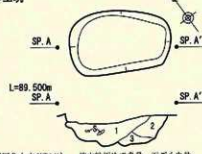


- 1 灰黄褐色土 (10YR6/2) やや砂質、軽石粒やや多量、しまり・粘性やや多量。(As-A?)

41号土坑



42号土坑



- 1 褐色土 (10YR4/1) 堆山粒極めて多量、石ごく少量、軽石粒やや多量、しまり強い、粘性弱い
- 2 灰黄褐色土 (10YR6/4) 堆山土主体、褐色土ブロック少量、しまり強い、粘性やや強い
- 3 褐色土 (10YR4/1) 堆山粒やや多量、しまり・粘性やや強い

- 1 暗黄褐色土 (2.5Y5/2) As-A軽石極めて多量、褐色土ブロックやや少量、しまり極めて強い、粘性強い
- 2 褐色土 (10YR4/1) 砂粒少量、しまり・粘性やや強い

0 (1:40) 1m
(平面図・断面図)

第60図 39~42号土坑平面図・断面図

43号土坑 (第61図)

規模・形状: 長径1.8m、短径1.5m、深さ24cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物: 陶磁器、染付碗、焙烙 覆土: 黄色地山土ブロックを少量含む。 遺構年代: 出土遺物から近世以降と考えられる。

44号土坑 (第61・63図)

重複: 51号溝と切り合うが前後関係不明 規模・形状: 長径0.75m、短径0.7m、深さ18cmで、平面形は隅丸長方形を呈する。 出土遺物: 銅銭 覆土: 上層は軽石混じりの砂質土、下層は砂粒混じりの粘質土。 遺構年代: 出土遺物と出土状況から近世以降と考えられる。 所見: 銅銭が6枚出土しており、墓坑の可能性がある。各長辺の中央付近に3枚ずつ配される。

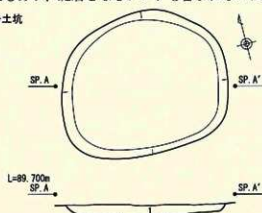
45号土坑 (第61・64図)

規模・形状: 長径(検出長)1.4m、短径0.7m、深さ19cmで、平面形は隅丸長方形を呈する。 出土遺物: 銅銭 覆土: 砂粒・軽石粒を含む黒褐色土。 遺構年代: 出土遺物と出土状況から近世以降と考えられる。 所見: 銅銭が6枚出土しており、墓坑の可能性がある。各長辺の中央付近に3枚ずつ配される。

46号土坑 (第61・64図)

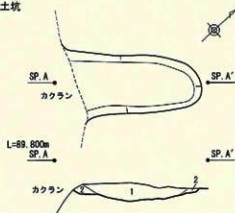
規模・形状: 長径1.9m、短径0.75m、深さ20cmで、平面形は隅丸長方形を呈する。 出土遺物: 打製石斧 覆土: 小石・黄色地山土ブロックを少量含む粘質土。 遺構年代: 出土遺物は混入の可能性もあり、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

43号土坑



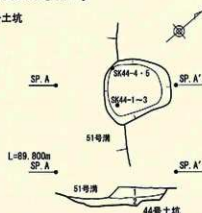
- 1 稲灰色土 (10735/1) 地山ブロックやや少量。しまりやや強い、粘性やや弱い。
- 2 稲灰色土 (10734/1) 砂粒やや多量。地山ブロック少量。しまりやや強い、粘性やや弱い。

45号土坑



- 1 稲灰色土 (10734/1) やや砂質。軽石混 (Ar-1?) やや多量。地山ブロック少量。しまり強い、粘性弱い。
- 2 黄褐色土 (10736/0) 黒色土ブロックやや少量。

44号土坑



- 1 黒褐色土 (10733/1) やや砂質。軽石混 (Ar-1?) 少量。しまり強い、粘性やや弱い。
- 2 稲灰色土 (10734/1) やや砂質。地山ブロックやや多量。しまり・粘性やや弱い。

46号土坑



- 1 稲灰色土 (10734/1) 小石やや少量。地山ブロック少量。しまり強い、粘性やや弱い。
 - 2 灰黄褐色土 (10733/1) やや砂質。地山ブロックごく少量。しまり・粘性やや弱い。
- 0 (1:40) 1m
[平面図・断面図]

第61図 43~46号土坑平面図・断面図

47号土坑(第62図)

規模・形状:長径2.25m、短径1.3m、深さ35cmで、平面形は長方形を呈する。 出土遺物:須恵器蓋、S字瓦 覆土:砂質土 遺構年代:出土遺物が僅少であり、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

48号土坑(第62図)

規模・形状:長径0.8m、短径0.7m、深さ13cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:黄色地山土ブロックを少量含む灰褐色土。 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

49号土坑(第62図)

規模・形状:長径0.8m、短径0.6m、深さ12cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:黄色地山土ブロックを多量に含む褐灰色土。 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

50号土坑(第62図)

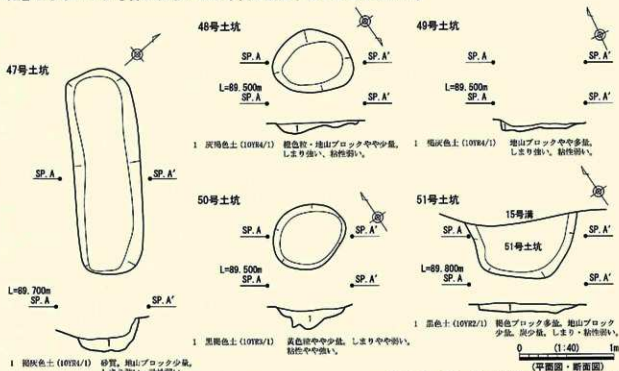
規模・形状:長径0.8m、短径0.7m、深さ23cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:黒褐色粘質土 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

51号土坑(第62図)

重複:15号溝に切られる 規模・形状:長径1.0m、短径(検出長)0.6m、深さ10cmで、平面形は不整形形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:黄色地山土ブロックを少量含む黒色土。 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

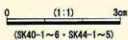
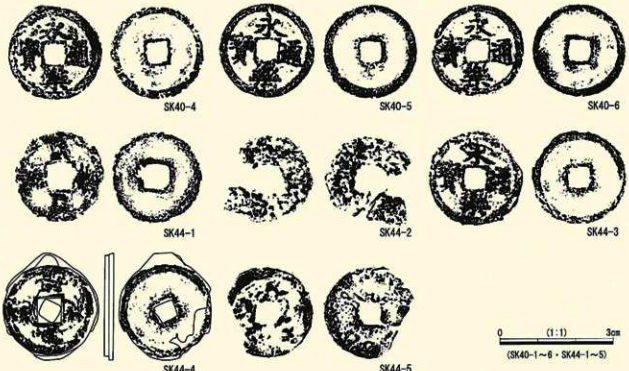
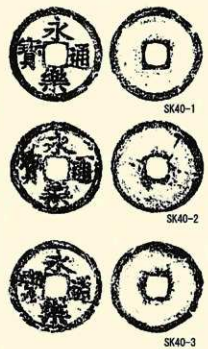
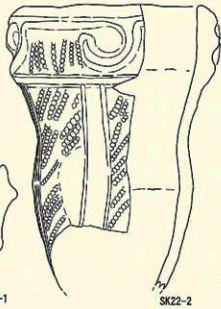
52号土坑(第63図)

重複:15号溝に切られる 規模・形状:直径1.0m、深さ19cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物:なし 覆土:黄色地山土ブロックを少量含む褐灰色土。 遺構年代:出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

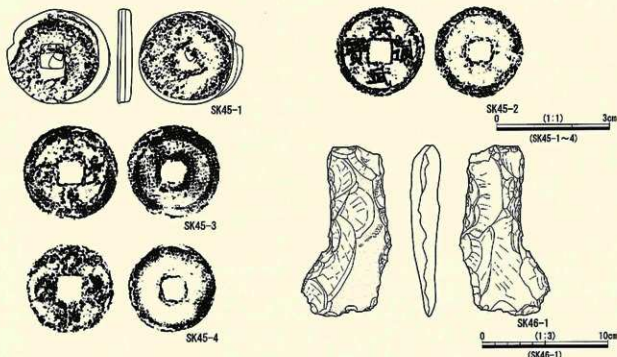


第62図 47~51号土坑平面図・断面図

52号土坑



第63図 52号土坑平面図・断面図および22・36・40・44号土坑出土遺物図



第13表 土坑跡出土遺物観察表

第64図 45・46号土坑出土遺物図

図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			成・製法技術の特徴	色調	胎土	残存	備考	
				口径	底径	器高						
第63図 Pl. 22	2-1区	SK22	縄文土器 深鉢	—	—	[8. 0]	口縁部に丸棒状工具により渦文と斜内区画を 表出。	赤褐色 5YR8/4	黄土 数粒	口縁部 破片	縄文中期後半	
第63図 Pl. 22	2-1区	SK22	縄文土器 深鉢	(14. 0)	—	[22. 5]	口縁縁部及び下位に縁帯を面らせる。縁帯周 には同様縁帯による渦文と斜状区画を表 出。区画内にはLRの基層渦文を充填。胴部 には渦文から2条帯位の沈線を垂下させ、地文 部と渦文部を区画する。地文はLRの基層渦文 を充填。	にぶい橙 7. 5YR7/3	黒石、内灰 石、白色粒	1/3	縄文中期後半	
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			器態		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高	外面	内面				
第63図 Pl. 22	3区	SK30	陶器 磨き	—	6. 0	[5. 7]	底部を除き灰焼	灰焼	灰白 2. 5YR7/2	黒色粒	ほぼ完 形	瀬戸・美濃系
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)				作成技法等の特徴	残存	備考		
			外径	内径	厚さ	長さ						
第63図 Pl. 22	4区	SK40	銅鉄 永年通貨	2. 5	0. 6	0. 1	2. 7	—	完形	—		
第63図 Pl. 22	4区	SK40	銅鉄 永年通貨	2. 5	0. 6	0. 1	4. 2	—	完形	—		
第63図 Pl. 22	4区	SK40	銅鉄 永年通貨	2. 5	0. 6	0. 1	2. 7	—	完形	—		
第63図 Pl. 22	4区	SK40	銅鉄 永年通貨	2. 4	0. 7	0. 1	3. 0	—	完形	—		
第63図 Pl. 22	4区	SK40	銅鉄 永年通貨	2. 5	0. 6	0. 1	3. 7	—	完形	—		
第63図 Pl. 22	4区	SK40	銅鉄 永年通貨	2. 5	0. 6	0. 1	4. 2	—	完形	—		
第63図 Pl. 22	4区	SK44	銅鉄 口口通貨	2. 4	0. 7	0. 1	2. 6	—	完形	—		
第63図 Pl. 22	4区	SK44	銅鉄	2. 4	0. 7	0. 1	1. 4	—	一部欠 損	—		
第63図 Pl. 22	4区	SK44	銅鉄 永年通貨	2. 5	0. 6	0. 1	2. 8	—	完形	—		
第63図 Pl. 23	4区	SK44	銅鉄	2. 65	0. 7	0. 25	3. 4	—	完形	縁により2枚接 ぎ。		
第63図 Pl. 23	4区	SK44	銅鉄	2. 4	0. 6	0. 1	1. 4	—	一部欠 損	—		
第64図 Pl. 23	4区	SK45	銅鉄	2. 5	0. 6	0. 4	5. 2	—	完形	縁により3枚接 ぎ。平行溝。		
第64図 Pl. 23	4区	SK45	銅鉄 決り通貨	2. 45	0. 5	0. 1	2. 3	—	完形	—		
第64図 Pl. 23	4区	SK45	銅鉄 元定通貨	2. 5	0. 6	0. 1	2. 1	行巻。	完形	—		
第64図 Pl. 23	4区	SK45	銅鉄	2. 4	0. 6	0. 1	3. 0	—	完形	—		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法等の特徴		残存	備考
				長さ	幅	厚さ						
第64図 Pl. 23	4区	SK46	石器 打錫石斧	12. 5	7. 2	2. 3	169	花崗	縁底をもつ横長製片を素材とし、周縁に 縦横打撃による周面加工を施す。	ほぼ完 形	—	

第6節 掘立柱建物・ピット

掘立柱建物・ピットは2-1区を中心に101基を検出した。掘立柱建物と考えられるピット群は遺構の遺存状況が悪く、復元には検討の余地を残すが3棟を検出した。なお、1・4区で検出したピットは紙面の都合上、切り合い関係や特記事項のあるものだけに限り報告することとする。

1. 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物(第65図)

主軸方位: N-25°-W 規模・形状: 南北1間(検出長2.3m)、東西1間(検出長2.0m)、柱掘方径21~38cm、深さ14~30cm 出土遺物: なし 覆土: シルト粒・小ブロックを含む黒褐色土 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。所見: 建物跡の復元には検討の余地が残すが、現状では矩形で完結する柱列1~3号ピットを掘立柱建物と推定した。

2号掘立柱建物(第5図)

主軸方位: N-45°-W 規模・形状: 南北1間(5.0m)、東西3間(12.8m)、柱掘方径30~50cm、深さ24~37cm 出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。所見: 遺構の遺存状況が悪く、建物跡の復元には検討の余地を残すが、中世の溝である16号溝と主軸方位が近似しており、遺構の規模や配列から13~18号ピットを掘立柱建物と推定した。このうち13~16号ピットは櫛列の可能性もある。

3号掘立柱建物(第5図)

主軸方位: N-48°-E 規模・形状: 南北1間(3.8m)、東西1間(6.0m)、柱掘方径30~40cm、深さ30cm 出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。所見: 遺構の遺存状況が悪く、建物跡の復元には検討の余地を残すが、中世の溝である16号溝と主軸方位が近似しており、遺構の規模や配列から19~21号ピットを掘立柱建物と推定した。

2. ピット

4号ピット(第65図)

規模・形状: 長径39cm、短径30cm、深さ16cmで、平面形は不整形円形を呈する。出土遺物: なし 覆土: シルト小ブロックを含む黒褐色土 遺構年代: 出土遺物がなく、鍵層となるテフラも含まれないため年代を断定することはできない。

5号ピット(第65図)

重複: 28号溝と重複するが前後関係不明。規模・形状: 長径70cm、短径50cm、深さ34cmで、平面形は隅丸方形を呈する。出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 不明

6号ピット(第65図)

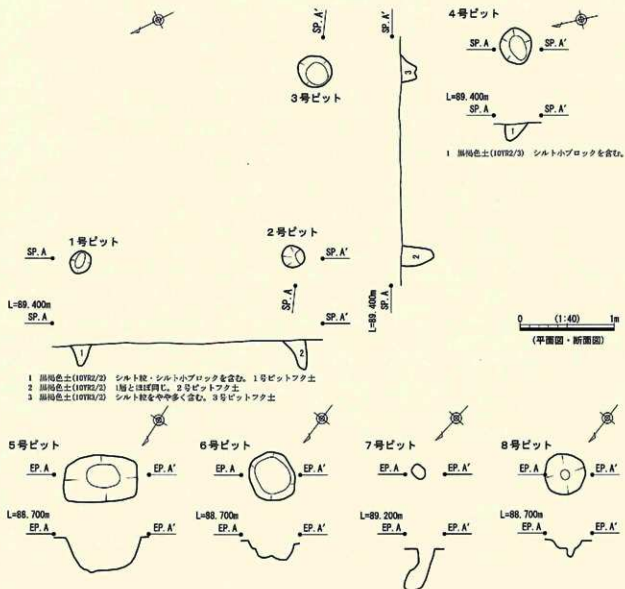
重複: 28号溝を掘り込む 規模・形状: 長径50cm、短径40cm、深さ14cmで、平面形は隅丸方形を呈する。出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 近世に廃絶した28号溝を掘り込むことから、近世以降と考えられる。

7号ピット(第65図)

重複: 28号溝を掘り込む 規模・形状: 長径18cm、短径10cm、深さ44cmで、平面形は楕円形を呈する。出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 近世に廃絶した28号溝を掘り込むことから、近世以降と考えられる。

8号ピット(第65図)

重複: 28号溝を掘り込む 規模・形状: 径40cm、深さ15cmで、平面形は円形を呈する。出土遺物: なし 覆土: 不明 遺構年代: 近世に廃絶した28号溝を掘り込むことから、近世以降と考えられる。

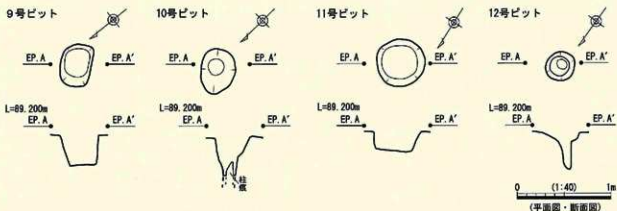


9号ピット (第66図) 第65図 1号掘立柱建物跡・4～8号ピット平面図・断面図
 規模・形状: 長径40cm、短径30cm、深さ30cmで、平面形は隅丸方形を呈する。 出土遺物: なし
 覆土: 不明 遺構年代: 近世か 所見: 10号ピットとともに26号溝にかけられた橋脚の柱穴となる可能性がある。

10号ピット (第66図)
 規模・形状: 長径50cm、短径30cm、深さ40cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物: 軟質陶器
 覆土: 不明。柱根残存。 遺構年代: 近世か 所見: 9号ピットとともに26号溝にかけられた橋脚の柱穴となる可能性がある。

11号ピット (第66図)
 規模・形状: 径50cm、深さ20cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 不明
 遺構年代: 不明

12号ピット (第66図)
 規模・形状: 径30cm、深さ39cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 不明
 遺構年代: 不明



24号ピット(第67図)

第66図 9~12号ピット平面図・断面図

規模・形状: 径35cm、深さ44cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 黒褐色砂質土 遺構年代: As-B降下以前 備考: 黒色土層下の灰色土層から掘り込まれている。

32号ピット(第67図)

規模・形状: 径33cm、深さ42cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: 土師器壺小片 覆土: 褐灰色土 遺構年代: 不明

36号ピット(第67図)

重複: 11号溝に切られる 規模・形状: 長径40cm、短径30cm、深さ28cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: 黄色地山土ブロックを含む褐灰色粘質土 遺構年代: 48号溝に切られることから、中世以前と考えられる。

37号ピット(第67図)

規模・形状: 残存径62cm、深さ19cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物: 土師器小片 覆土: 黒褐色土 遺構年代: 48号溝に切られることから、中世以前と考えられる。

38号ピット(第68図)

規模・形状: 長径53cm、短径42cm、深さ16cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物: 土師器小片 覆土: 黄色地山土ブロックを少量含む黒褐色土 遺構年代: 不明

59号ピット(第69図)

規模・形状: 長径75cm、短径35cm、深さ34cmで、平面形は不整楕円形を呈する。 出土遺物: 土師器小片 覆土: 黄色地山土ブロックを多量に含む黒色粘質土 遺構年代: 不明

60号ピット(第69図)

重複: 11号溝に切られる 規模・形状: 長径(残存長)50cm、短径50cm、深さ12cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: 縄文土器片 覆土: 黄色地山土ブロックを多量に含む褐灰色土 遺構年代: 11号溝に切られることから、中世以前と考えられる。

63号ピット(第69図)

規模・形状: 長径60cm、短径46cm、深さ28cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物: 土師器小片、S字瓦 覆土: 黄色地山土ブロックを少量含む灰黄褐色粘質土 遺構年代: 不明

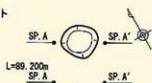
64号ピット(第69図)

規模・形状: 直径49cm、深さ21cmで、平面形は円形を呈する。 出土遺物: なし 覆土: As-A軽石を含む 遺構年代: 覆土の状況から、近世以降と考えられる。

66号ピット(第69図)

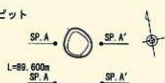
規模・形状: 長径58cm、短径35cm、深さ9cmで、平面形は楕円形を呈する。 出土遺物: 土師器小片 覆土: 黄色地山土ブロックを少量含む灰黄褐色土 遺構年代: 不明

22号ピット



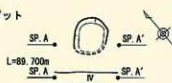
- 1 褐灰色土 (10YR4/1) 黄色ブロック少量。しまり・粘性強い。

23号ピット



- 1 褐灰色土 (10YR2/1) 黄色ブロック少量。しまり・粘性やや弱い。

24号ピット



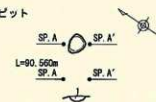
- 1 褐灰色土 (10YR4/1) やや砂質。礫石少量。しまり強い、粘性強い。
2 黒褐色土 (10YR3/1) 砂質。黄色粒やや少量。しまり強い、粘性強い。

25号ピット



- 1 褐灰色土 (10YR4/1) 黄色ブロック少量。しまり強い、粘性やや弱い。

26号ピット



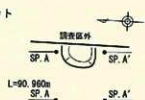
- 1 黒色土 (10YR2/1) 黄色ブロック少量。しまり強い、粘性やや弱い。

27~29号ピット



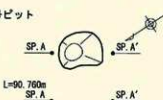
- 1 褐灰色土 (10YR4/1) 黄色ブロック多量。しまりやや弱い、粘性やや強い。
2 褐灰色土 (10YR4/1) 黄色ブロック少量。しまりやや弱い、粘性やや強い。

30号ピット



- 1 黄褐色土 (5YR3/2) 黄色ブロック少量。しまり強い、粘性やや弱い。

31号ピット



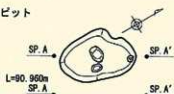
- 1 褐灰色土 (10YR4/1) 黄色粒多量。しまり・粘性やや弱い。

32号ピット



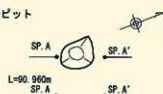
- 1 褐灰色土 (10YR5/1) 黄色粒やや少量。しまり強い、粘性やや弱い。
2 褐灰色土 (10YR4/1) 黄色粒少量。しまり・粘性やや強い。

33号ピット



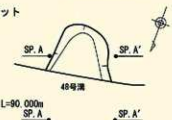
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 黄色ブロック多量。しまりやや弱い、粘性強い。

34号ピット



- 1 褐灰色土 (10YR2/1) 黄色ブロック多量。しまり・粘性やや強い。

37号ピット



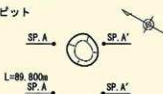
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 白色粒・小石ごく少量。しまりやや強い、粘性強い。
2 褐灰色土 (10YR4/1) 黄色土粒やや多量。しまり・粘性やや強い。

35号ピット

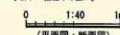


- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 礫石粒やや多量。小石ごく少量。しまり・粘性やや強い。

36号ピット



- 1 灰褐色土 (10YR4/1) 塊状ブロックやや多量。しまり・粘性強い。



第67図 22~37号ピット平面図・断面図

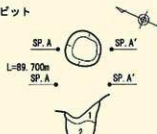
第3章 採出した遺構・遺物

38号ピット



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 黄色ブロックやや少量。
しまりやや強い、粘性やや強い。

39号ピット



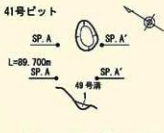
- 1 灰褐色土 (10YR5/2) 黄色粘赤帯に多量。
しまり強い、粘性やや強い。
2 黒灰色土 (10YR4/1) 地山ブロック少量。
しまり・粘性やや強い。

40号ピット



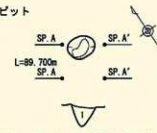
- 1 黒灰色土 (10YR5/1) 黄色粘やや少量。
しまりやや強い、粘性やや強い。
2 黒褐色土 (10YR3/1) 地山ブロック少量。
しまり弱い、粘性やや強い。

41号ピット



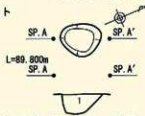
- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 黄色粘やや少量。
しまりやや強い、粘性やや強い。

42号ピット



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 地山粘多量。しまり強い、
粘性やや強い。

43号ピット



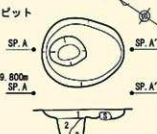
- 1 黒灰色土 (10YR5/1) 砂粒・地山ブロック少量。
しまり・粘性やや強い。

44号ピット



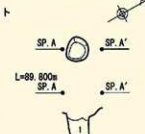
- 1 黒色土 (10YR2/1) 地山ブロック少量。
しまり強い、粘性やや強い。
2 淡灰色土 (2.5Y7/4) 地山土主体。
しまり・粘性強い。
3 黒灰色土 (10YR4/1) 地山ブロックやや少量。
しまりやや強い、粘性強い。

45号ピット



- 1 黒灰色土 (10YR5/1) 黄色粘やや多量。しまり・粘性やや強い。
2 黒褐色土 (10YR3/1) 地山粘多量。しまりやや強い、粘性強い。
3 明黄褐色土 (2.5Y6/6) 地山主体。黒色土ブロック少量。しまり強い、粘性やや強い。
4 黒色土 (10YR2/1) 地山ブロック多量。しまり強い、粘性やや強い。

46号ピット



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 地山ブロックごく少量。
しまり強い、粘性やや強い。

47号ピット



- 1 黒灰色土 (10YR4/1) 地山ブロックやや多量。
しまりやや強い、粘性強い。

48号ピット



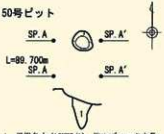
- 1 黒灰色土 (10YR4/1) 地山ブロック少量。
しまりやや強い、粘性やや強い。

49号ピット



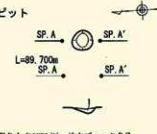
- 1 黒灰色土 (10YR4/1) 地山ブロック多量。
しまりやや強い、粘性やや強い。

50号ピット



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 地山ブロック少量。
しまり・粘性やや強い。

51号ピット



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 地山ブロック多量。
しまり強い、粘性やや強い。

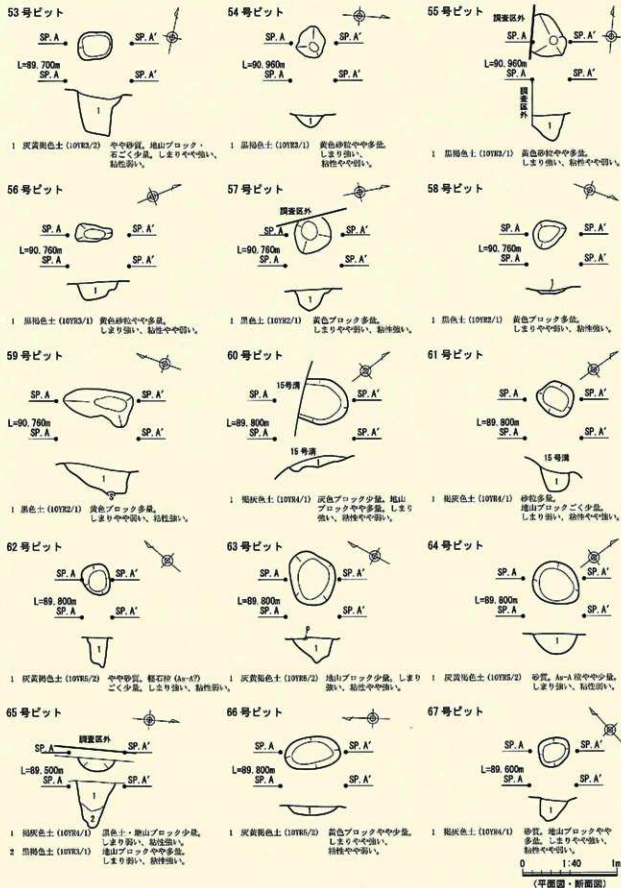
52号ピット



- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) 地山ブロックやや少量。
しまりやや強い、粘性やや強い。

0 1:40 1m
(平面図・断面図)

第68図 38~52号ピット平面図・断面図



第69図 53~67号ビット平面図・断面図

90号ピット(第71図)

規模・形状:直径40cm、深さ12cmで、平面形は不整形円形を呈する。出土遺物:なし 覆土:褐灰色砂質土 遺構年代:不明 所見:底面付近より平坦な礫を検出。礎石の可能性ある。

92号ピット(第71図)

規模・形状:直径28cm、深さ40cmで、平面形は円形を呈する。出土遺物:なし 覆土:黄色地山土ブロックを少量含む褐灰色粘質土 遺構年代:不明 所見:南西側に向けて斜め方向に掘削されている。

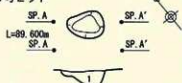
95号ピット(第71図)

規模・形状:長径97cm、短径78cm、深さ50cmで、平面形は楕円形を呈する。出土遺物:平瓦、土師器小片 覆土:上層は灰黄褐色砂質土、最下層は黄色地山土ブロックを多量に含む褐灰色粘質土 遺構年代:出土遺物から、中世以降の廃絶と考えられる。

98号ピット(第72図)

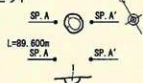
規模・形状:長径75cm、短径66cm、深さ22cmで、平面形は円形を呈する。出土遺物:軟質陶器片口鉢、丸瓦・平瓦 覆土:As-A 軽石を含む砂質土 遺構年代:出土遺物には中世に該当するものもあるが、覆土にAs-A 軽石を含むことから近世以降に廃絶したと考えられる。

68号ピット



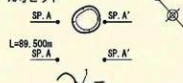
1 褐灰色土(10YR4/1) 地山ブロック少量、しまり強い、粘性やや強い。

69号ピット



1 褐灰色土(10YR4/1) 地山ブロック少量、しまり強い、粘性やや強い。

70号ピット

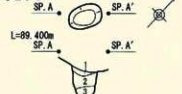


1 褐灰色土(10YR4/1) 地山ブロックやや多量、しまり・粘性強い。

71・75号ピット

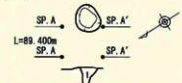


74号ピット



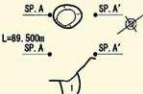
1 褐灰色土(10YR5/1) 砂粒やや少量、しまり・粘性強い。
2 褐灰色土(10YR5/1) 地山ブロック多量、しまり強い、粘性やや強い、やや砂質。
3 黒褐色土(10YR3/1) しまりやや強い、粘性弱い。

76号ピット



1 褐灰色土(10YR5/1) 黄色粒やや少量、しまり強い、粘性やや強い。

72号ピット



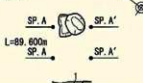
1 褐灰色土(10YR5/1) 地山ブロック少量、しまり・粘性強い。

76号ピット



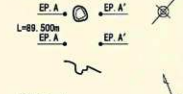
1 褐灰色土(10YR4/1) 地山ブロック少量、しまり強い、粘性やや強い。

80号ピット



1 褐灰色土(10YR4/1) 地山ブロック少量、しまり・粘性強い。

73号ピット



77号ピット



79号ピット

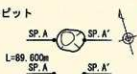


1 黒褐色土(10YR3/1) 炭粒ごく少量、地山粒少量、しまり・粘性やや弱い。
2 褐灰色土(10YR4/1) 地山ブロックやや多量、しまり強い、粘性やや強い、地山ブロックやや少量。
3 灰黄褐色土(10YR6/2) しまり・粘性やや強い。



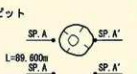
第70図 68~80号ピット平面図・断面図

81号ピット



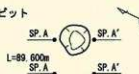
1 黒褐色土 (10YR3/1) 地山ブロック多量。しまり弱い、粘性やや強い。

82号ピット



1 灰褐色土 (10YR4/1) 地山ブロックやや少量。しまりやや強い、粘性やや強い。

83号ピット



1 褐色土 (10YR4/1) 地山ブロック多量。しまり・粘性やや強い。

84号ピット



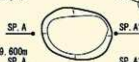
1 黒灰色土 (10YR4/1) やや砂質。黒色土・地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。

85号ピット



1 黒褐色土 (10YR3/1) 地山ブロックやや多量。褐色粒ごく少量。しまり・粘性やや強い。

86号ピット



1 黒褐色土 (10YR3/1) 黄褐色ブロックやや多量。黄褐色粒少量。しまり・粘性やや強い。

87号ピット



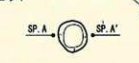
1 褐色土 (10YR4/1) 地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。

88号ピット



1 黒灰色土 (10YR4/1) 地山ブロックやや少量。しまりやや強い、粘性強い。

89号ピット



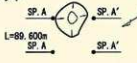
1 灰黄褐色土 (10YR6/2) やや砂質。礫石粒ごく少量。しまり・粘性やや強い。

90号ピット



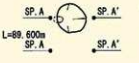
1 黒灰色土 (10YR4/1) 砂質やや少量。しまり強い、粘性強い。

91号ピット



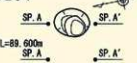
1 黒灰色土 (10YR4/1) 地山ブロックやや多量。しまり強い、粘性やや強い。

92号ピット



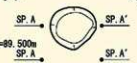
1 黒灰色土 (10YR4/1) 地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。

93号ピット



1 黒灰色土 (10YR4/1) 地山ブロック多量。しまりやや強い、粘性やや強い。

94号ピット

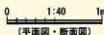


1 黒灰色土 (10YR4/1) 褐色粒多量。しまり・粘性やや強い。

95号ピット



1 灰黄褐色土 (10YR6/2) やや砂質。礫石粒ごく少量。地山ブロック少量。しまり強い、粘性強い。



第71図 81~95号ピット平面図・断面図

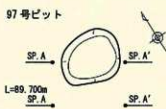
第3章 検出した遺構・遺物

96号ピット



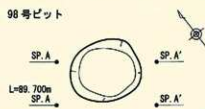
- 1 褐色土 (10YR4/1) 地山粒やや少量。しまり・粘性やや強い、砂粒やや多量。
- 2 褐色土 (10YR4/1) 地山ブロック多量。しまり・粘性やや強い。

97号ピット



- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) 灰色土・地山ブロック少量。しまり・粘性やや強い。

98号ピット



- 1 褐灰色土 (10YR4/1) As-A 粒やや少量。砂質。しまり・粘性やや強い、黒色土ブロックやや少量。
- 2 褐色土 (10YR4/1) しまり強い、粘性強い。

99号ピット



- 1 黒褐色土 (10YR3/1) 白色粒やや少量。地山ブロック少量。れこく少量。しまりやや強い、粘性やや弱い。

100号ピット



- 1 明赤褐色土 (5YR5/6) 粘土主体。黒色土混入多量。しまり強い、粘性弱い。
- 2 黒褐色土 (10YR3/1) 砂粒ごく少量。赤色土塊少量。しまりやや強い、粘性やや強い。
- 3 褐色土 (10YR4/1) 地山ブロックやや少量。しまり・粘性やや強い。

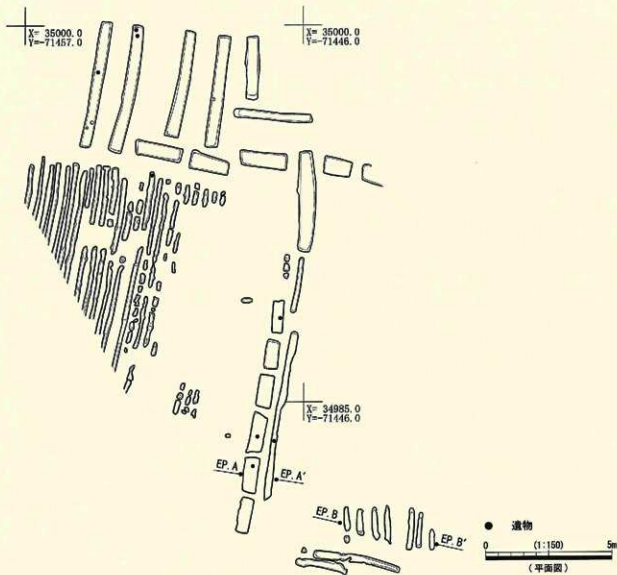
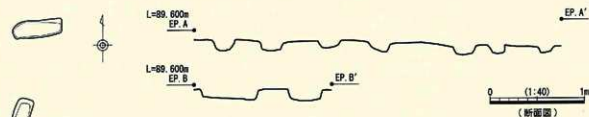
101号ピット



第72図 96～101号ピット平面図・断面図

第7節 As-A 軽石充填遺構 (第73図)

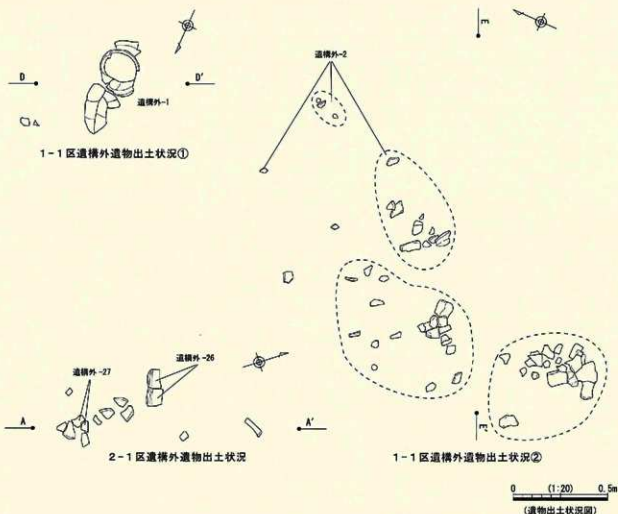
2-1区北東部の上面ではAs-A軽石降下以前の畝状遺構とAs-A軽石充填遺構を検出した。およそ20×12mの限られた範囲で検出され、畝状遺構は約18条を確認した。畝方向はN-10°-Eで、畝幅は10~20cm、As-A軽石の埋没する作は上端幅14~20cm、深さ10cmであった。覆土は明確な降下単位が観察されず一次堆積ではないと考えられるが、少なくともAs-A軽石降下以前まで畝があったものと考えられる。遺物は近世陶器の皿が少量出土している。



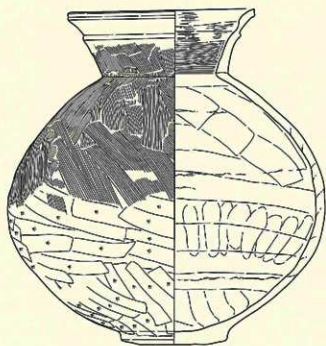
第73図 As-A輕石充填遺構平面圖・断面圖

第8節 遺構外出土遺物

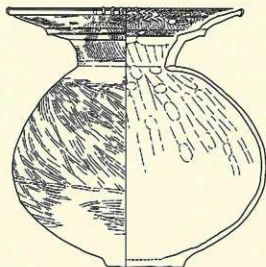
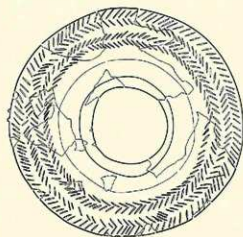
本調査では、検出した多くの遺構から様々な遺物が出土しているが、なかには明確な遺構に伴わない状態で出土するものもある。また、1-1区・4区では黒色土(IV層上面)より多量の土師器・縄文土器が出土した。いずれも明確な掘り込みが確認できなかったものの、1-1区では東海系のいわゆる柳ヶ坪型壺など古墳時代前期を中心とする土師器が数か所でまとまって出土しており、付近の7号溝から布留式系の甕が出土するなどの特徴がみられた。また、1-1区IV層上面では複合口緑壺5個体・直口壺1個体・小型丸底壺・S字甕4個体・台付甕3個体などが、およそ7m四方の範囲で出土している。土器の組成から祭祀遺構の可能性も捨てきれないが、本遺跡近辺での集落分布などの課題もあり、集落の縁辺部などで祭祀がおこなわれていたとの断定はできない。本節では、明確な遺構に伴わない遺物を「遺構外出土遺物」として扱い、資料化できたものを中心に掲載する。



第74図 遺構外遺物出土状況図

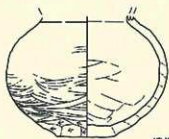


遺構外-1

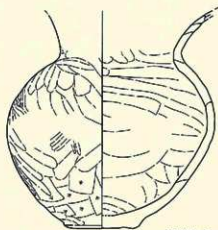


遺構外-2

0 (1:4) 10cm
(遺構外-2)

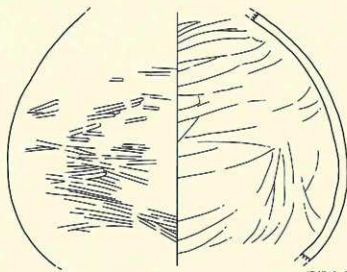


遺構外-4



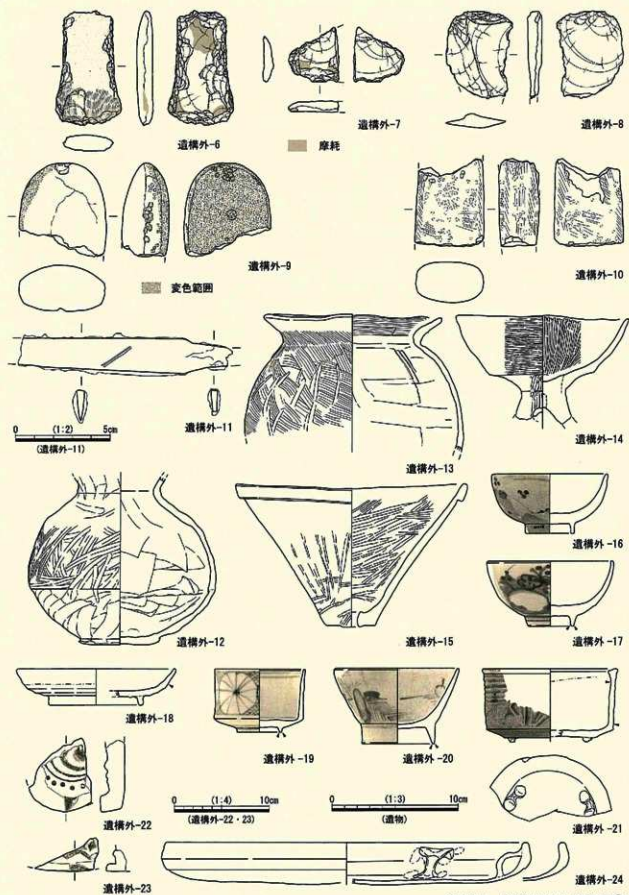
遺構外-5

0 (1:3) 10cm
(遺物)

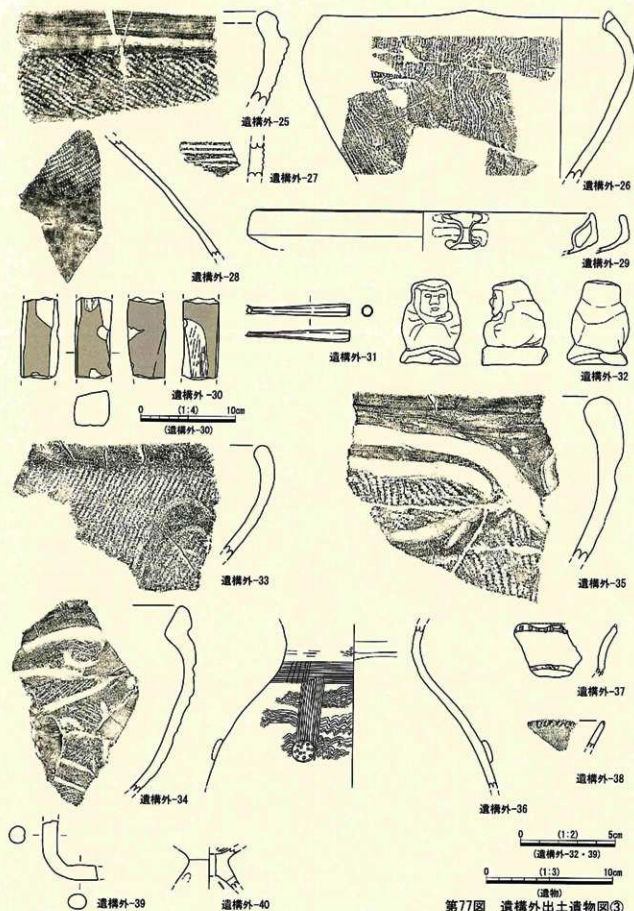


遺構外-3

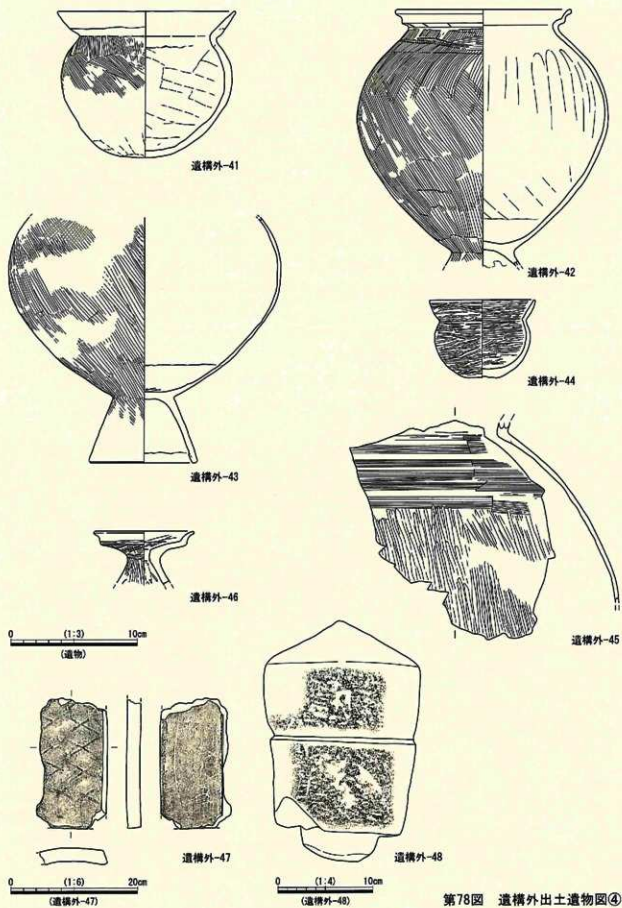
第75図 遺構外出土遺物①



第76図 遺構外出土遺物図②



第77圖 遺構外出土遺物圖③



第78図 遺構外出土遺物図④

第14表 遺構外出土遺物観察表①

図版	出土地	番号	種別 器種	質量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考			
				口径	底径	高さ	外面	内面							
第75図 Pl. 23	遺構外	1	土師器 壺	14.6	8.4	26.7	口縁部ヨコナデ、腹部 タテハケ、肩部上平 タテ・ナメミハケ、胴部 下平ヘラケズリ	口縁部ヨコハケ後ヨ コナデ、腹部ヨコ コナデハケ後ナデ、 肩部ヘラケズリ	にぶい黄 7.5YR6/4	石英、白色 磁鉄砂多量	ほぼ完 形	—			
第75図 Pl. 23	遺構外	2	土師器 壺	24.5	8.3	27.5	口縁部ヨコナデ後横 段付文付、口縁一頭部 タテ・ヨコミガキ、胴 部ナデ後ヨコ・ナメ ミガキ	口縁部タテ・ナメ ミガキ後ヘラケズリ により横付文を施 文、胴部ナデ、胴部 横ナデ・オサエ	にぶい黄 10YR7/4	石英、黒 磁鉄砂、 チャート	2/3	横ナデ型			
第75図 Pl. 23	遺構外	3	土師器 壺	—	—	[10.7]	ナデ後ヨコ・ナメミ ガキ	ヘラケナデ	褐色 10YR6/3	長石、角閃 石、黒・黄 色土	3/4	—			
第75図 Pl. 23	遺構外	4	土師器 壺	—	6.1	[12.7]	胴部ナデ後ヨコミガ キ、胴部下横ヘラケ ズリ、底部ナデ	ヘラケナデ	褐色 10YR7/6	石英、長 石、白・黒 色土	1/3	—			
第75図 Pl. 23	遺構外	5	土師器 小壺	—	5.2	[17.2]	口縁部・底部ケズリ後 ナデ、胴部ケズリ後ミガ キ	ナデ、ヘラケナデ	にぶい黄 10YR7/4	石英、長石 、黒磁鉄砂、 白色磁鉄砂	1/2	—			
図版	出土地	番号	種別 器種	質量 (cm)			石材	調整	色調	胎土	残存	備考			
長さ	幅	厚さ	長さ	高さ											
第76図 Pl. 23	遺構外	6	石器 打製石斧	6.1	5.2	1.35	81.8	頁岩	擦削、根底をもつ横製削片を素材とし、 直接打撃による両面加工を施す。刃部に 原縁痕、全体にリダクシヨシが顕著。	—	—	ほぼ完 形	—		
第76図 Pl. 23	遺構外	7	石器 スクレイパー	4.35	4.04	0.9	15.0	頁岩	削片の縁部に直接打撃による両面加工を 施す。刃部には部分的に微細割痕が認 められる。	—	—	打製石斧の未製品 を転用か	—		
第76図 Pl. 23	遺構外	8	石器 リタツドフレイク	[6.95]	5.3	1.15	38.4	頁岩	擦削をもつ薄製削片を素材とし、縁辺の 一部に微細割痕が認められる。	—	—	—	—		
第76図 Pl. 23	遺構外	9	石器 磨石	[7.45]	[6.9]	[3.7]	250.5	輝石安 山岩	表裏面に原縁痕。上端部の一部に磨打 痕・割痕痕。両側面は粗・磨により平 滑。磨一筋・磨	—	—	—	—		
第76図 Pl. 23	遺構外	10	石器 磨製石斧	[7.0]	[5.5]	[3.25]	260.4	褐色輝 石	基部、刃部とも欠損。磨一筋。部分的に 磨打痕が残存。	—	—	—	—		
図版	出土地	番号	種別 器種	質量 (cm)			外面	内面	色調	胎土	残存	備考			
長さ	幅	厚さ													
第76図 Pl. 23	遺構外	11	鉄製品 刀子	[11.4]	2.2	0.8	—	—	—	—	4/5	—			
図版	出土地	番号	種別 器種	質量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考			
口径	底径	高さ	外面	内面											
第76図 Pl. 23	遺構外	12	土師器 小壺	—	6.4	[13.3]	胴部ヘラケナデ、肩部上 位ミガキ、胴部下横ヘ ラケナデ、底部ヘラケズリ	胴部一頭部ヘラケ ナデ、底部オサエ	にぶい黄 7.5YR/4	長石、黒 磁鉄砂	1/2	—			
第76図 Pl. 23	遺構外	13	土師器 壺	14.1	—	[10.9]	口縁部ナメミハケ後ヨ コナデ、肩部ナメミ ハケ後ミガキ	口縁部ヨコハケ、胴 部ヘラケナデ	灰緑 7.5YR4/2	石英、黒 磁鉄砂	1/3	—			
第76図 Pl. 23	遺構外	14	土師器 高坪	13.8	—	[8.7]	外部ヨコミガキ、胴部 タテミガキ	タテミガキ	黄 7.5YR7/8	長石、黒・ 褐色土	1/2	—			
第76図 Pl. 23	遺構外	15	土師器 有孔鉢	[18.2]	4.0	11.0	口縁部縦いびれ総付加に よる厚み減少、ヨコナ デ、底部ミガキ、底部ナ デ	口縁部ヨコナデ、体 部ケズリ、底部ナデ	褐色 10YR6/6	石英、黒 磁鉄砂	3/4	内外両面赤、底部 横溝磨削孔			
第76図 Pl. 23	遺構外	16	磁器 灰付碗	(9.3)	(4.0)	5.0	灰緑+黄鉄結、黄鉄結 顕著。高台際磨削。	灰緑	灰白 5YR7/1	黒色土	1/4	釜足見取 17世紀末-18世紀中頃			
第76図 Pl. 23	遺構外	17	磁器 灰付碗	10.0	3.7	5.2	灰緑+黄鉄結、黄鉄結 顕著。高台際磨削。	灰緑	灰白 2.5YR/1	黒色土	3/4	前期系 1710~1780年代			
第76図 Pl. 23	遺構外	18	陶器 皿	12.6	7.5	2.9	口縁部のみ灰緑	灰緑	黄鉄 5Y5/3	長石	1/2	瀬戸・東濃系 18世紀			
第76図 Pl. 23	遺構外	19	磁器 磨製碗	(7.1)	3.6	5.0	灰緑+黄鉄結。青花も らした。高台際磨削。	灰緑、長辺半指玉原 付花。	灰白 6B/0	黒色土	1/2	前期系 18世紀後半			
第76図 Pl. 23	遺構外	20	陶器 碗	9.9	5.8	6.0	灰緑+黄鉄結、高台際 磨削。	灰緑、口部・高台際 磨削。	灰白 5Y7/2	黒色土	ほぼ完 形	前期系			
第76図 Pl. 24	遺構外	21	陶器 磨製香炉	(10.8)	(10.1)	5.8	底部磨削除粘結、菊文 文押印、底部に粘土総付。	口縁部磨削。	黄鉄 5Y4/4	黒色土	1/3	瀬戸			
図版	出土地	番号	種別 器種	瓦当径 (cm)	内区径 (cm)	外区径 (cm)	外区文	全長 (cm)	瓦当厚 (cm)	凸凹調整	凸凹調整	接合法	色調 構成	残存	備考
第76図 Pl. 24	遺構外	22	瓦文野丸瓦 (左)	—	—	1.7	1.0	梵文 [2.2]	2.0	磨製ナデ	瓦当 ナデ	—	3B/敵質	瓦当部	—
図版	出土地	番号	種別 器種	上弦幅 (cm)	下弦幅 (cm)	瓦当部 外縁幅 (cm)	全長 (cm)	瓦当厚 (cm)	凸凹調整	凸凹調整	凸凹調整	接合法	色調 構成	残存	備考
第76図 Pl. 24	遺構外	23	瓦文野丸瓦	—	[6.5]	0.9	[2.2]	—	磨製ナデ	—	—	1A/敵質	瓦当部	—	
図版	出土地	番号	種別 器種	質量 (cm)			調整		色調	胎土	残存	備考			
長さ	幅	厚さ	外面	内面											
第76図 Pl. 24	遺構外	24	軟質陶器 塔形	(38.5)	—	4.5	口縁部ヨコナデ、底部 外周1.5cmヘラケズリ、 底部磨削。	ナデ、橙オサエ	黄 5YR5/6	長石、黒 磁鉄砂	1/4	内瓦2ヶ所残存。 外周口縁部スチ付 替。			

第15表 遺構外出土遺物観察表②

図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			成・整形技法の特徴	色調	胎土	残存	備考		
				口径	底径	器高							
第77図 PL. 24	遺構外	25	縄文土器 深鉢	—	—	[7.5]	口縁部は内湾し、底平す。口縁上辺に押状工具による浅線を1条施らる。地文は既の深鉢断面文を継ぎ、無文部は平滑に仕上げらる。	にぶい黄 7.5YR7/3	石英、長石、黄砂	口縁部破片	縄文中期後半		
第77図 PL. 24	遺構外	26	縄文土器 深鉢	23.3	—	[13.2]	口縁部は内湾し、指ノズを施す。胴部は深鉢状工具による浅線を継ぎ施す。	黄褐色 5YR6/6	石英、黄砂 赤、白砂粒	胴部破片	縄文中期後半		
第77図 PL. 24	遺構外	27	縄文土器 深鉢	—	—	[2.7]	平直竹管による平行浅線を横位施す。	黄褐色 7.5YR5/6	石英、黄砂 赤、白砂粒	口縁部破片	縄文中期後半		
第77図 PL. 24	遺構外	28	弥生土器 高脚盃	—	—	—	胴部調文を施す。	灰白 10YR8/2	長石、黄砂 褐色粒	胴部破片	宮ヶ谷・赤井戸系		
第77図 PL. 24	遺構外	29	弥生土器 高脚盃	36.0	—	[4.2]	口縁部ヨコナデ、底部外周1.5cmヘラケズリ、底部離れ砂。	黄褐色 5YR6/6	黄砂、長石、黒色粒	口縁部破片	内周1ヶ所残存。外面口縁部スズ付着。		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			石材	作成技法等の特徴		残存	備考		
				長さ	幅	厚さ		色調	色調				
第77図 PL. 24	3区 遺構外	30	石製品 砥石	[6.2]	3.0	2.8	87.5	流紋岩	4面に研磨面。	破片	—		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	作成技法等の特徴		色調	胎土	残存	備考
				長さ	幅	厚さ		重量	色調				
第77図 PL. 24	3区 遺構外	31	陶製品 燧管	[8.2]	0.4~1.0	7.1	—	—	—	材質：黒	ほぼ完全	—	
第77図 PL. 24	3区 遺構外	32	土人形 記る事	4.5	3.3	3.1	—	—	—	灰青	ほぼ完全	—	
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高		外面	内面				
第77図 PL. 24	4区 遺構外	33	縄文土器 深鉢	—	—	[9.1]	口縁部は内湾する。地文にLR帯部調文を施す。押状工具による浅線を上端内側の区画を縁く。	にぶい黄褐色 10YR7/2	石英、長石、褐色粒	口縁部破片	縄文中期後半		
第77図 PL. 24	4区 遺構外	34	縄文土器 深鉢	—	—	[8.0]	口縁部は内湾し、地文を継ぎにより表出。区画内は既の帯部調文を施す。	にぶい黄褐色 10YR7/2	石英、長石、褐色粒	口縁部破片	縄文中期後半		
第77図 PL. 24	4区 遺構外	35	縄文土器 深鉢	—	—	[14.8]	口縁部に丸棒状工具を用いた度線による渦文を半円筒状の小突起が配される。地文には既の渦文を施す。	黄褐色 7.5YR5/2	石英、黄砂 赤、白砂粒	口縁部破片	縄文中期後半		
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高		外面	内面				
第77図 PL. 24	4区 遺構外	36	埴土製 燧管	—	—	[12.9]	胴部細線状文、肩部3段の帯部調文→タテハケ→側面細線状文。	ヘラナデ	—	黄褐色 10YR6/6	長石、黄砂 赤、白砂粒	胴部破片	胴部側面破片
第77図 PL. 24	4区 遺構外	37	弥生土器 深鉢	—	—	[4.0]	口唇部板状工具小口によるナデ。口縁部ナデ	ナデ	—	にぶい黄褐色 10YR6/4	石英、黄砂	口縁部破片	—
第77図 PL. 24	4区 遺構外	38	弥生土器 深鉢	—	—	[2.2]	口唇部板状工具小口によるナデ。口縁部ヨコナデ後ナメハケ。	ヨコハケ後ナデ	—	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	石英	口縁部破片	—
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高		外面	内面				
第77図 PL. 24	4区 遺構外	39	土製品 不明	—	—	—	0.8	ナデ	—	黄褐色 10YR7/6	白色粒	破片	—
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴		色調	胎土	残存	備考
				口径	底径	器高		外面	内面				
第77図 PL. 24	4区 遺構外	40	土師器 盃	—	—	[3.4]	ハケナデ	胴受部ヘラミガキ、台部ナデ	—	黄褐色 7.5YR6/6	石英、角閃石 石安山岩、白色微塵粒	破片	透かし孔1ヶ所残存
第78図 PL. 24	4区 遺構外	41	土師器 小型盃	14.1	—	[11.6]	口縁部ナデ、胴部上半ハケナデ、胴部下半ヘラケナデ、ナデ	口縁部ナデ、胴部ヘラナデ	—	にぶい黄褐色 2.5YR6/4	チャート、褐色粒	1/2	—
第78図 PL. 24	4区 遺構外	42	土師器 3字型	13.8	—	[20.4]	口縁部ヨコナデ、胴部調文、胴部ナデハケ後ヨコハケ、胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、一部指ナデ、胴部ナデ、底部ヘラナデ	—	にぶい黄褐色 10YR6/3	長石、黄砂 赤	1/2	台部内面に砂粒を多く含む粘土が付着
第78図 PL. 24	4区 遺構外	43	土師器 台付盃	—	8.5	[19.5]	胴部ナメハケ、台部ナメハケ後指ナデ	胴部ナメハケ、台部ナメハケ後指ナデ	—	灰褐色 7.5YR5/2	長石、黄砂 白色微塵粒	1/3	—
第78図 PL. 24	4区 遺構外	44	土師器 小型盃	(8.4)	2.5	6.2	微細なヘラミガキ	微細なヘラミガキ	—	にぶい黄褐色 7.5YR5/4	黄砂、褐色粒	1/2	—
第78図 PL. 24	4区 遺構外	45	土師器 盃	—	—	[14.3]	胴部ヨコハケ、胴部タテミガキ	指ナデ後オサエ	—	黄褐色 10YR6/6	黄砂、褐色粒	破片	—
第78図 PL. 24	4区 遺構外	46	土師器 盃	8.0	—	[4.2]	口唇部ナデ、胴受部ヘラミガキ	胴受部ヘラミガキ、台部ナデ	—	黄褐色 7.5YR6/4	黄砂、角閃石 石安山岩	1/6	透かし孔1ヶ所残存
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	成・整形技法の特徴		色調/構成	残存	備考	
				全長・幅	厚さ	重量		表面調	背面調				
第78図 PL. 24	4区 遺構外	47	灰斗瓦	全長：[20.6] 幅：11.0	2.0~2.3	—	側切子切、端れ砂付着。	無文印。端れ砂付着。	部周面を面取り。半断面未調整。	1A/軟質	2/3	断面を入手後成後に分割	
図版	出土地	番号	種別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	作成技法等の特徴		色調	胎土	残存	備考
				長さ	幅	厚さ		重量	石材				
第78図 PL. 24	4区 遺構外	48	石製品 玉輪	25.5	16.5	14.2	5.8	輝石安山岩	縦位の細い工具が施される。	—	—	ほぼ完全	空・風蝕

第9節 自然科学分析

上中居前屋敷遺跡（3次調査）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

上中居前屋敷遺跡（高崎市上中居町地内）は、鳥川左岸の高崎台地（広義の前橋台地）上に位置する。本遺跡の発掘調査では、出土遺物から近世（18世紀後半）頃と考えられる井戸跡等が検出されている。

本報告では、上述した井戸跡から出土した種実および昆虫遺体の同定を行い、当時の古環境や食料に関する検討を行った。

1. 試料

試料は、近世の井戸跡（3区15号井戸）の基底付近（4層下部）から出土した種実遺体10点（No.1～10）と、昆虫遺体3点（No.1～3）の計13点である。

2. 分析方法

(1) 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本と石川（1994）、中山ほか（2000）等の図鑑類を参考に実施する。分析後は、種実遺体を容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液没し、保管する。

(2) 昆虫同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。昆虫遺体の同定は、形態的特徴より実施する。分析後は、乾燥を防ぐために昆虫遺体を水入りの菅瓶で保管する。なお、同定・解析は、松本浩一氏（東京農業大学）の協力を得た。

3. 結果

(1) 種実同定

井戸跡（3区15号井戸）出土種実は、裸子植物1分類群（常緑針葉樹のスギ）1点、被子植物4分類群（広葉樹のコナラ、クリ、モモ、エゴノキ）9点に同定された。

種実遺体群は全て木本から成り、栽培種はモモの核が1点（No.1）確認された。栽培種を除いた分類群は、常緑高木のスギの球果が1点（No.2）、落葉高木のコナラの果実が6点（No.4～9）、クリの果実が1点（No.3）、落葉小高木のエゴノキの種子が1点（No.10）確認された。

(2) 昆虫同定

同定結果を表1に示す。昆虫遺体2点（No.1,2）は、カナブン（*Pseudotorynorhina japonica* : コウチュウ目コガネムシ科）の前胸（No.1）と右中脚（No.2）に同定された。残りの1点（No.3）は、スジコガネムシ属（コウチュウ目コガネムシ科）の一種の上翅の一部に同定された。

4. 考察

18世紀後半とされる井戸跡（3区15号井戸）から出土した種実遺体は、モモ、スギ、コナラ、クリ、エゴノキに同定され、昆虫遺体は、カナブン、スジコガネムシ属に同定された。

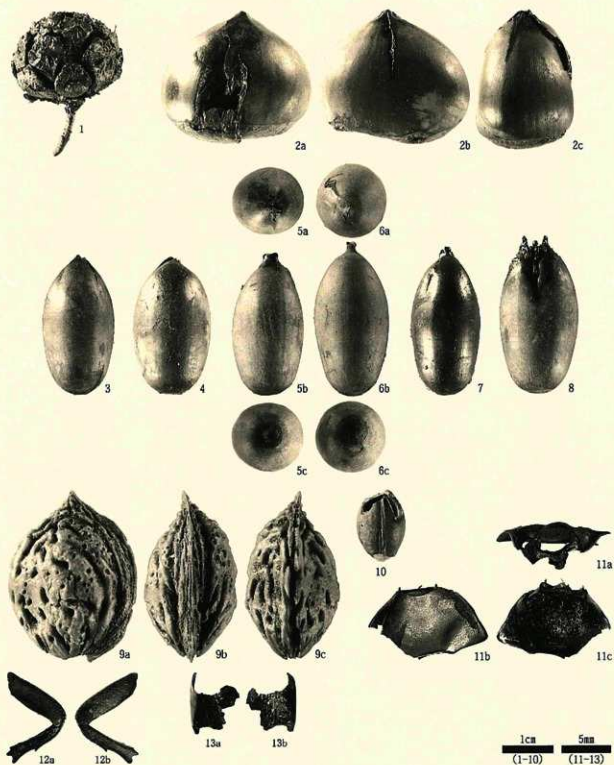
種実遺体で確認された栽培種であるモモは、果実や種子が食用、薬用、祭祀等に、花が観賞用に利用される。詳細な用途を言及することは難しいが、少なくともモモ核の出土から植物質食料としての利用が推定される。

栽培種を除いた分類群は、針葉樹のスギは、山地の沢沿いに生育する常緑高木で、よく植栽される有用樹である。広葉樹のコナラやクリは、山地や丘陵等に生育する二次林要素の落葉高木であり、エゴノキは山麓の雑木林や山地の谷間、小川のほとり等に生育する落葉小高木である。これらの分類群は、種実が出土したことから、植栽された可能性も含めて、調査地付近の森林に生育していたと考えられる。また、クリは、果実内部の子葉が生食可能で、コナラは子葉があく抜きすれば食用可能な有用植物である。ただし、井戸跡から出土した果実は完全な状態を保っており、利用の痕跡は見出せなかった。

昆虫遺体で確認されたカナブンは、日本全土の平地から低山に極めて普通の種で、雑木林の樹液や熟果に集食する。スジコガネムシ属は花の花粉や花蜜に集食する。これらの出土昆虫は、調査地周辺の雑木林やその周辺に生息していたと考えられる。

引用文献

- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
中山至大・井之口秀秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.



1. スギ 球果(3区SE15;No2)
2. クリ 果実(3区SE15;No3)
3. コナラ 果実(3区SE15;No4)
4. コナラ 果実(3区SE15;No5)
5. コナラ 果実(3区SE15;No6)
6. コナラ 果実(3区SE15;No7)
7. コナラ 果実(3区SE15;No8)
8. コナラ 果実(3区SE15;No9)
9. モモ 核(3区SE15;No1)
10. エゴノキ 種子(3区SE15;No10)
11. カナブン 前脚(3区SE15;No1)
12. カナブン 右中脚(3区SE15;No2)
13. スジコガネムシ属の一種 上翅の一部(3区SE15;No3)

第79図 種実遺体・昆虫遺体

第4章 成果と課題

第1節 上中居前屋敷遺跡の遺構変遷

今回報告をおこなった上中居前屋敷遺跡の調査では、縄文時代から近世まで幅広い時期の遺構・遺物が検出された。特に古墳時代の溝群・中世寺院に関連する建物跡や区画溝を確認できたことは大きな成果である。本章では、本遺跡の遺構変遷および特筆すべき項目について若干の考察をおこない、本報告のまとめとする。

縄文時代 縄文時代の遺構としては2-1区で検出した22号土坑があげられる。覆土中位より加曽利E3式を中心とする多量の縄文土器が出土していることから、縄文中期後葉の土坑と考えられる。当地域で確認されている縄文時代の遺構は少なく、上中居遺跡群で縄文中期後半頃を中心すると考えられる集石遺構、土坑、被熱痕跡および当該期の土器群、下中居条里Ⅲ遺跡で縄文中期後半の竅穴住居跡1軒、土坑5基が確認されるなど、ごくわずかである。本遺跡は上中居遺跡群と下中居条里Ⅲ遺跡のほぼ中間に位置し、中居町一丁目遺跡などでも縄文時代の土器が出土していることから、当地域の微高地を中心に縄文時代の遺跡が広がっていたことが想定される。

弥生時代 弥生時代では遺構は確認されていないものの、弥生後期の構式土器が9号溝・4号井戸・遺構外から出土している。

古墳時代 古墳時代前期の遺構としては溝跡8条、1区で検出した土坑4基と4区で検出した土坑1基があげられる。中でも、1区の7号溝ではS字甕・小型丸底壺が多量に出土しており、布留系・東海西部系・吉ヶ谷式系などの外来系土器が主体となっている。また、45号溝では肩部に櫛歯状工具による稜杉文を刺突する南関東系の壺、遺構外からは柳ヶ坪型の二重口縁壺が出土しており、本遺跡の性格の一端を示す貴重な資料となった。

古墳時代中期の遺構としては3区で検出した33号溝が中期まで存続するものの、それ以外で確実に中期に機能していた遺構は確認されておらず、古墳時代前期や後期と比較して希薄である。

古墳時代後期の遺構としては1・3区で検出した溝跡7条があげられる。これらの多くはHr-FA起源と考えられる洪水層を覆土とすることから、6世紀初頭以前には開削されており、Hr-FA起源の洪水により埋没したと考えられる。また、古墳時代前期の溝である7号溝と後期の溝である8～10号溝は、土層の堆積状況から洪水により埋没したものを掘り返しながら継続的に利用していたことがうかがえる。これらの利用状況や古墳時代から中世を通じて北西から南東に流下する多数の溝は、当地域の水利経営を考えるうえで重要なものであり、今後調査を実施する際にも留意すべきものである。

中・近世 中世の遺構としては2・4区で検出した溝跡11条と井戸跡9基、2区で検出した礎石建物1棟、掘立柱建物2棟、土坑3基があげられる。中でも、2・4区にかけて検出した区画溝とみられる16・17・23・25・44・45号溝、軒瓦を含む多量の瓦類や軟質陶器・火鉢の出土した11・13・15号溝と8・19・22号井戸および建物跡は中世寺院に関連する遺構群と考えられる。なお、瓦類の出土は11・13・15号溝と22号井戸にほぼ限定されることや瓦の出土量からみて、瓦葺建物は1号礎石建物のみと考えられる。また、27号溝から出土した板碑片や44号溝から出土した五輪塔、11・45号溝から出土した銅銭などから中世墓の存在も考慮する必要がある。

近世の遺構としては2区で検出した溝跡4条・井戸跡1基や3区で検出した溝跡3条・井戸跡3基、4区で検出した47号溝・20号井戸、土坑5基があげられる。このうち、40・44号土坑は永楽通寶を中心とする銅銭が6枚ずつ出土していることから土坑墓である可能性も考えられる。

上中居前屋敷遺跡の遺構変遷についてまとめると、縄文時代の遺構はわずかながら2-1区で縄文時代中期後葉（加曽利E式期）の土坑を確認できた。その後、弥生時代前期から中期の空白期間がある

ものの、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて多くの水路が掘削されるなど、当地域の水利経営における面期が認められる。また、この時期に布留系・東海西部系・吉ヶ谷系などの外来系土器を中心とする土器組成は、本遺跡の性格を考えるうえで重要である。その後、古墳時代中期にはやや希薄になるが後期になると再び多くの水路が掘削されるようになる。これは周辺遺跡の集落動向とも合致している。そして古代から14世紀半ばまで遺構・遺物とも希薄になるものの、13世紀後半から14世紀初頭には中世寺院が造営され、また11・45号溝出土の銅銭や27号溝出土の板碑により、寺院に先行する中世墓が近隣に存在した可能性がある。その後、永楽通寶を副葬品とする近世初頭の土坑墓が営まれ、以後近世に至るまで屋敷地として存続したと考えられる。

第2節 中世寺院と墓域

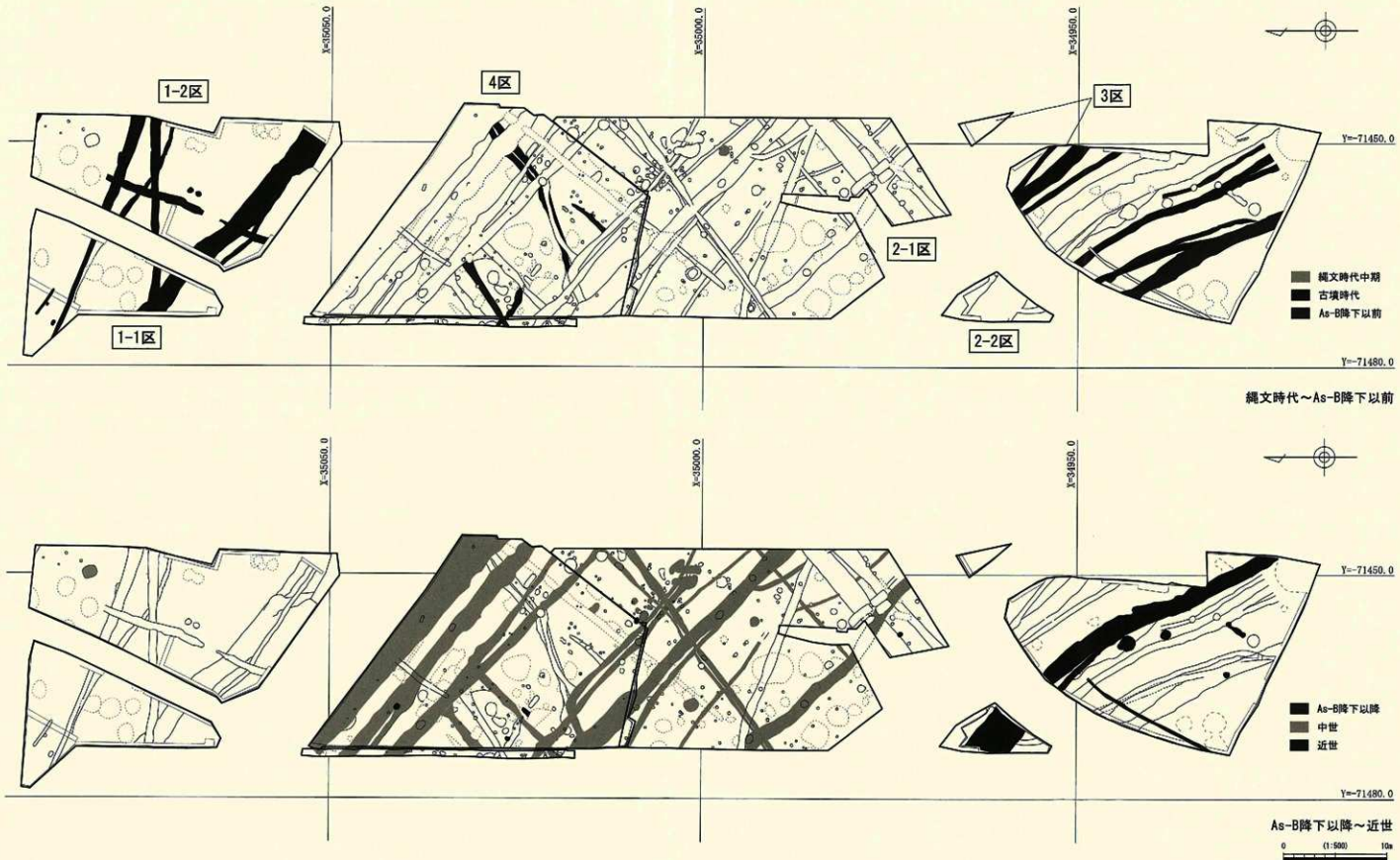
中世寺院とみられる遺構は、2・4区にかけて検出された。区画溝とみられる16・17・23・25・44・45号溝、1号礎石建物、8・19・22号井戸が中世寺院に関連する遺構群と考えられる。また、2-1区で検出した2・3号掘立柱建物は側柱建物と考えられ、区画溝とみられる16号溝と主軸方位が近似していることや位置関係などにより、中世寺院と関連する施設である可能性もある。そして、27号溝から出土した板碑片や44号溝から出土した五輪塔、11・45号溝から出土した銅銭や4区北西で検出した銅銭を伴う40・44・45号土坑により墓域の存在がうかがわれ、遺跡の性格を考えるうえで考慮する必要がある。なお、瓦類の出土が11・13・15号溝と22号井戸にほぼ限定されることや瓦の出土量からみて、瓦葺建物は1号礎石建物のみと考えられる。1号礎石建物は明瞭な寺院としての遺構である基壇などは伴わないため、「村堂」のような施設であったことが考えられよう。なお、2・3号掘立柱建物については遺構の構築時期や埋没状況の記録が不十分であり、詳細は不明である。本来ならば、この節で扱うべきものではないかもしれないが、将来隣接地の調査が可能となった際の一助となることを願い、ここに報告する次第である。

次に4区で検出した墓とみられる土坑について、若干の考察を述べることにする。まず、40号土坑は円形の平面プランを呈し、出土した銭貨6枚すべてが永楽通寶である。北関東では中世後期に永楽通寶をはじめとする明銭が六道銭の組成に加わることが指摘されており⁽¹¹⁾、40号土坑の年代も15～16世紀と推定される。44号土坑は隅丸長方形の平面プランを呈し、永楽通寶を含む銭貨6枚が出土しており、やはり15～16世紀と推定される。45号土坑は隅丸長方形の平面プランを呈し、洪武通寶を含む銭貨6枚が出土しており、このうち1枚には布が付着していた。このことから布に包まれた状態で埋納されたことが明らかとなった。また、遺構の時期については14世紀末から15世紀前半を上限とするものと考えられる。これら3基の土坑は、群馬・栃木では円形土坑墓の出現は近世以降とみられること、六道銭の成立が16世紀頃とみられることなどから⁽¹²⁾、中世後期から近世初頭にかけての土坑墓である可能性が極めて高いといえる。さらに、付近の44号溝から出土した小型五輪塔の存在から、石造物を伴う銭貨埋納中世墓である可能性も考えられる。高崎市においては、小八木志貝戸遺跡や天田・川押遺跡で小型五輪塔を伴う銭貨埋納土坑墓が確認されており、本遺跡での造墓階層や地域性を考えるうえで考慮する必要がある。

註1 齊藤弘 2009a「北関東の中世墓」『日本の中世墓』狭川真一編 高志書院

註2 藤澤典彦 1994「六道銭の成立」『出土銭貨』第2号 出土銭貨研究会

齊藤弘 2009a「北関東の中世墓」『日本の中世墓』狭川真一編 高志書院



第80図 上中層前歷敷遺跡遺構変遷図

第3節 中世瓦の分析

1. 製作技法

軒丸瓦 軒丸瓦は左巻きの巴文軒丸瓦3種を確認した。SD13-2(A種)は外縁の幅と高さが2:1で、巴頭部はやや尖る。圏線を欠き、巴の尾は長くのびる。瓦当厚は1.4cmで、丸瓦との接合部は補強のため、裏面に粘土を貼り付け、指ナゲ調整を施す。丸瓦部凸面にも補充粘土を用い、ヘラナゲ調整を施している。色調は褐灰色で焼成は軟質である。SD17-5(B種)も外縁の幅と高さが2:1で、巴頭部はやや尖る。巴の尾は長くのび、圏線と連なる。珠文はA種と比べやや小さい。色調・焼成はA種と同様である。遺構外-22(C種)は外縁の幅がおよそ2:1で、巴頭部はやや尖る。巴の尾は長くのび、圏線と連なる。色調はにぶい黄橙色で焼成は軟質である。いずれも傷傷が顕著である。

軒平瓦 軒平瓦は剣頭文軒平瓦2種を確認した。SD13-3~10・SD26-7(A種)は陽刻の下向き剣頭文軒平瓦である。剣の長さとおよそ1:0.8で、剣および鑄部分は凸線で表現され、地の部分は平坦である。平瓦部凹面から瓦当にかけて連続した布目を残し、瓦当裏面には指オサエによる凹凸の痕跡があり、いわゆる「完成した段階の折り曲げ造り」である⁽¹⁸⁾。いずれも傷傷が顕著であり、SD13-3・4は箱型を切り詰めた痕跡(箱詰め)がみられる。遺構外-23(B種)は下向きの陽刻剣頭文軒平瓦であるが、剣および鑄部分は太く尖っている。破片資料のため製作技法は不明であるが、瓦当面に布目痕がみられないことから、別の技法で製作された可能性も考えられる。色調は褐灰色・にぶい黄橙色の2つがあり、焼成はいずれも軟質である。

丸瓦 丸瓦はいずれも玉縁を有するもの(有段式)で、製作技法にも違いはみられなかった。法量は全長35.6cmで、縦糸・横糸がそれぞれ3cm内に30本前後と布目痕は非常に細かい。粘土板を模骨に巻き付けて凸面に縄叩きを施すが、縄叩き後丁寧なナゲ調整をおこなうため、縄目はほとんど残存しない。凹面には模骨から粘土板をはがしやすくするために布筒を被せるので布目が残存する。また、玉縁部凸側縁・凹面端部・側縁および胴部凹側面・側縁、広端部凹側面を面取りし、胴部凸側縁を丸くナゲ調整する。色調は褐灰色・黄灰色・にぶい黄橙色の3つがあり、焼成はいずれも軟質である。

平瓦 平瓦は凸面に斜格子叩きを施すものと文様のない板状工具を用いた無文叩きを施す2種がある。また、SD13-19・20は凹面側に布目痕が残存し、SD13-15・17・18は凹面に布目痕がなく、凹凸両面に離れ砂が付着している。これらの特徴から、凸型成形台の上で1枚ずつ叩きしめて4枚積み重ねる、凸型成形台積み重ね4枚作り技法が用いられた可能性も考えられる。この技法は14世紀前後の高崎市米迎寺・浜川北遺跡や神奈川県金沢文庫遺跡で、ほぼ4枚に1枚ほど凹面に布目があり、他の3枚ほどは布目がなく、凹凸両面に離れ砂と格子叩きの痕跡が残存することから、中世において確かに存在したと考えられる。面取りは側面と凹面側の広端部にみられ、狭端部はナゲ調整を施すものがある。また、SD13-17・18には焼成前に凹面側から穿孔した釘穴が残存する。色調は褐灰色・黄灰色・にぶい黄橙色の3つがあり、焼成はいずれも軟質である。

道具瓦 道具瓦は熨斗瓦のみ確認した。製作技法は基本的に平瓦と同一である。焼成前に分割裁線を刻み、焼成後に分割したと考えられる。半断面は未調整のため、分割断面が残る。凸面には斜格子叩きを施すものと文様のない板状工具を用いた無文叩きを施す2種がある。色調・焼成は褐灰色と黄灰色の2つがあり、焼成は軟質である。

2. 中世瓦の年代観

上中居前屋敷遺跡では軒丸瓦3種、軒平瓦2種が出土した。軒丸瓦はいずれも外区の圏線を欠き、珠文が小さく、巴頭部はやや尖り、尾は長くのびる。軒平瓦A種は下向きの陽刻剣頭文軒平瓦である。剣頭文軒平瓦には陰刻と陽刻があり、鎌倉・鶴岡八幡宮や永福寺などの瓦研究から、陰刻→剣および鑄部分が外区より低い陽刻化したもの→陽刻の順に変化していったと考えられている。本遺跡に先行する剣頭文軒平瓦として太田市・長楽寺の瓦(2型)をあげることができる。長楽寺出土瓦について、

山崎信二氏は、「長楽寺遺跡出土瓦のうち、最古のものは「陰刻」による下向き剣頭文軒平瓦である。ただし、剣中央の鑄部分が、外区よりやや低くなっており、埼玉県本庄市東谷中世墳墓例ほど「陽刻化」の傾向は強くないけれども、中世Ⅰ期の鎌倉鶴岡八幡宮や常陸日向廃寺例が完全な「陰刻」による製品であるのと異なっており、長楽寺例を1220年代に置くことに矛盾がないことを示している。この製品は折り曲げであろう。」⁽⁴²⁾としている。これによれば、本遺跡の剣頭文軒平瓦A種は「陽刻」による下向き剣頭文軒平瓦であり、平瓦部凹面から瓦当面にかけて連続した布目を残す「完成した段階の折り曲げ造り」であることから、長楽寺例に比べ後出するものと考えられる。また、下向き剣頭文軒平瓦は、埼玉県児玉町般若寺などで一部で中世Ⅳ期まで存続する例もあるが、概ね中世Ⅲ期には上向き剣頭文軒平瓦と併存するようになるとみられる。さらに、剣頭文軒平瓦B種は長楽寺1型と近似しており、製作技法は不明ながらもほぼ同時期と考えられる。このことから、剣頭文軒平瓦A種は中世Ⅲ期からⅣ期、B種は中世Ⅲ期に該当するものと考えられよう。

註1 上原真人「古代末期における瓦生産体制の変革」『古代研究』13・14 1978

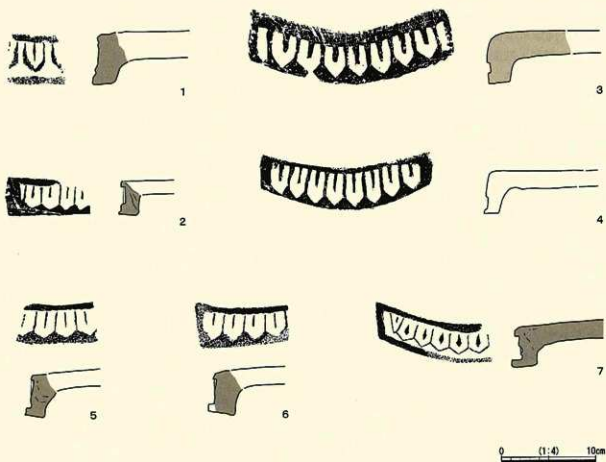
註2 山崎信二『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所 2000

中世Ⅰ期の年代については註2を参考に以下の年代をあてている。

中世Ⅰ期：1180年～1210年

中世Ⅱ期：1210年～1260年

中世Ⅲ期：1260年～1300年



1. 鶴岡八幡宮 2. 東谷中世墳墓 3・4. 日向廃寺 5～7. 長楽寺

第81図 中世Ⅰ～Ⅲ期の剣頭文軒平瓦



1-1区 全景(南東から)



1-2区 全景(西から)



2-1区 全景(1)(西から)



2-1区 全景(2)(西から)



2-1区 全景(北から)



3区 全景(南から)



4区 新築区通景 (北から)



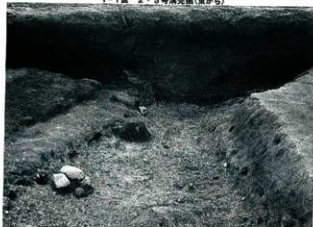
4区 倉庫 (西から)



1-1区 2・3号溝完掘(東から)



1-1区 3~5号溝完掘(北側から)



1-1区 5号溝完掘(南側から)



1-1区 3号溝完掘(北側から)



1-1区 3号溝遺物出土状況①(南側から)



1-1区 3号溝遺物出土状況②(南西側から)



1-2区 3号溝遺物出土状況③(南側から)



1-2区 4号溝完掘(南側から)



1-2区 7・8・10号溝完掘(北西から)



1-2区 7・8・10号溝セクション(西から)



1-2区 7号溝遺物出土状況(南東から)



1-2区 1号井完掘(南から)



1-2区 4号土坑完掘(南東から)



1-2区 5号土坑完掘(南東から)



1-1区 遺構外遺物出土状況①(南目から)



1-1区 遺構外遺物出土状況②(西から)



2-1区 4p-4r石 tablet遺構(南西から)



2-1区 11-13号 tablet遺構(南から)



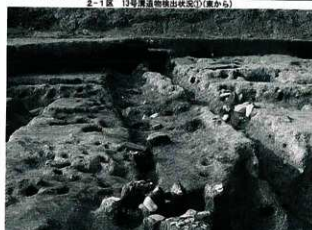
2-1区 12・13号 tablet遺物出土状況(南西から)



2-1区 13号 tablet遺物出土状況(東から)



2-1区 13号 tablet遺物出土状況(南西から)



2-1区 15号 tablet遺物出土状況(東から)



2-1区 17・18号 tablet遺構(南西から)



2-1区 15号 tablet遺物出土状況(東から)



2-1区 17号溝遺物出土状況(北東から)



2-1区 22~24号溝・24号井戸完壁(南西から)



2-1区 22~24号溝群目録(南から)



2-1区 24号石渠(南東から)



2-1区 26号溝完壁(南西から)



2-2区 29・30号溝完壁(南西から)



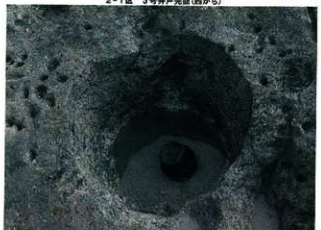
2-1区 2号井戸完壁(南東から)



2-1区 3号井戸完掘(西から)



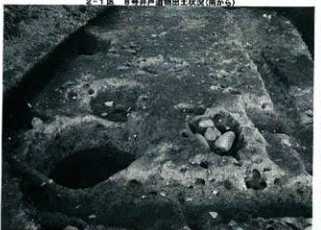
2-1区 6号井戸遺物出土状況(北西から)



2-1区 6号井戸遺物出土状況(南から)



2-1区 13号井戸完掘(東から)



2-1区 1号礎石建物跡・4号井戸完掘(南西から)



2-1区 6号土坑(西から)



2-1区 7号土坑(南東から)



2-1区 9号土坑(北東から)



3区 31-33号溝完掘(西から)



3区 34-35-37号溝完掘(南西から)



3区 34-36号溝セクション(東から)



3区 39-41号溝完掘(南西から)



3区 39-42-43号溝完掘(北西から)



3区 42号溝完掘(南東から)



3区 16号井戸完掘(東から)



3区 16号井戸完掘(東から)



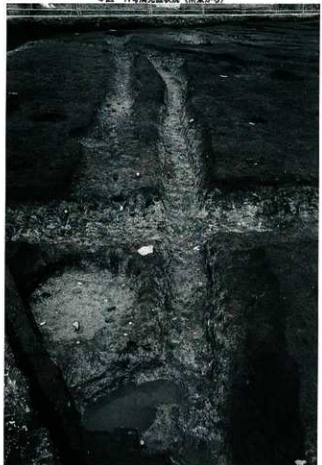
4区 11号溝完掘状況 (南東から)



4区 11・44・45号溝完掘状況 (南東から)



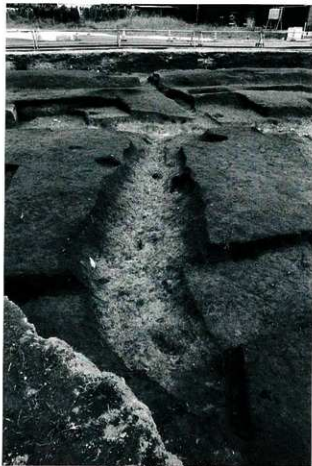
4区 44号溝五輪塔・五出土状況 (南から)



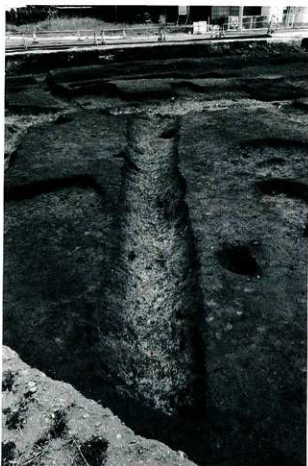
4区 14・15号溝完掘状況 (南東から)



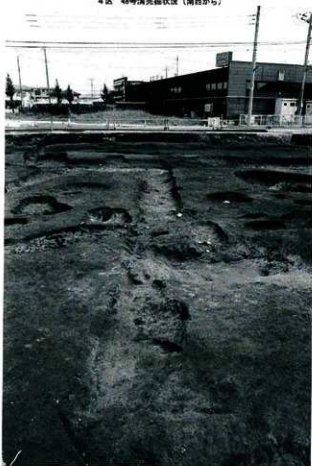
4区 45号溝完掘状況 (南東から)



4区 48号溝完壁状況 (南西から)



4区 49号溝完壁状況 (南西から)



4区 50号溝完壁状況 (南西から)



4区 50号溝土出之状況 (西から)



4区 51号溝完壁状況 (南西から)



4区 52・53号溝完掘状況(南西から)



4区 54号溝完掘状況(南から)



4区 18号井戸完掘状況(南から)



4区 19号井戸完掘状況(南から)



4区 20号井戸完掘状況(北から)



4区 22号井戸完掘状況(南から)



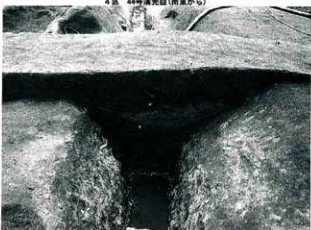
4区 50号ピット断ち割り状況(北から)



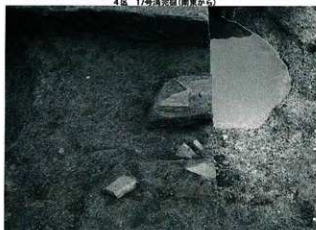
4区 17号溝完形(南東から)



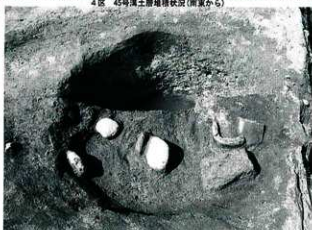
4区 44号溝完形(南東から)



4区 45号溝土層堆積状況(南東から)



4区 19号井戸瓦出土状況(南から)



4区 22号井戸遺物出土状況(北から)



4区 40号土坑遺物出土状況(南から)



SD3-1



SD3-3



SD3-2



SD3-6



SD3-4



SD3-5



SD3-7



SD3-8



SD3-9



SD3-10



SD3-11



SD3-12



SD3-13



SD3-14



SD4-1



SD7-1



SD7-2



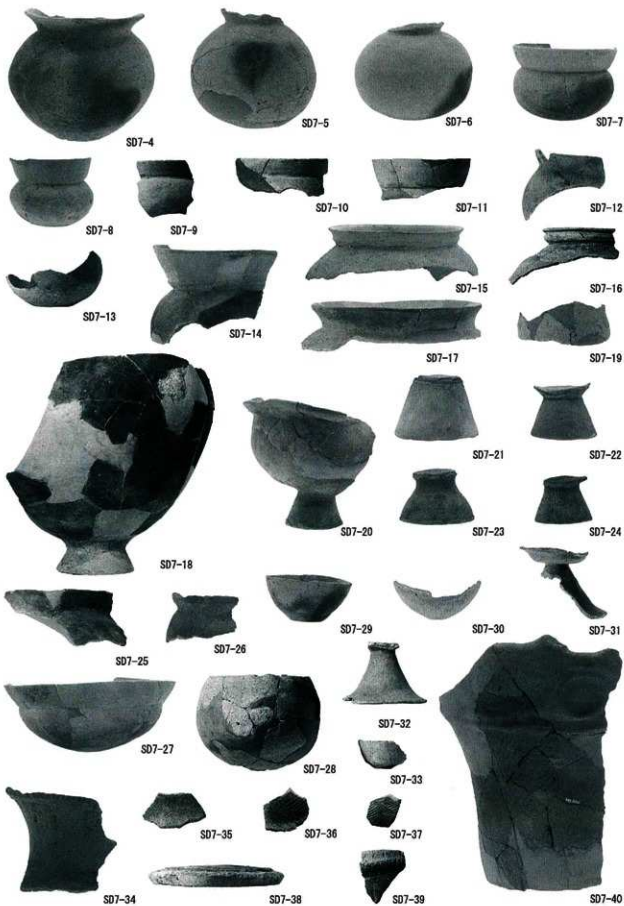
SD4-2



SD7-2



SD7-3





SD7-41



SD7-42



SD7-43



SD7-44



SD7-45



SD7-46



SD7-48



SD7-47



SD7-49



SD7-50



SD7-51



SD9-1



SD11-2



SD11-3



SD11-1



SD11-4



SD11-5



SD11-6



SD11-7



SD11-8



SD11-9



SD11-9



SD13-1



SD13-3



SD13-4



SD13-6



SD13-2



SD13-5





SD13-7



SD13-9



SD13-8



SD13-10



SD13-11



SD13-12



SD13-13



SD13-14



SD13-16



SD13-15



SD13-17



SD13-18



SD13-19



SD13-21



SD13-22



SD13-20



SD14-1



SD15-1



SD15-2



SD15-4



SD15-5



SD15-7



SD15-6



SD15-8



SD17-1



SD17-3



SD17-4



SD22-1



SD15-9

SD26-1



SD17-2



SD17-5



SD26-2



SD26-3



SD26-4



SD26-5



SD27-1 (S=1/6)



SD26-6 (S=1/6)



SD26-7



SD26-8



SD28-1



SD28-2



SD28-3



SD28-5



SD28-6



SD28-4



SD28-10



SD28-7

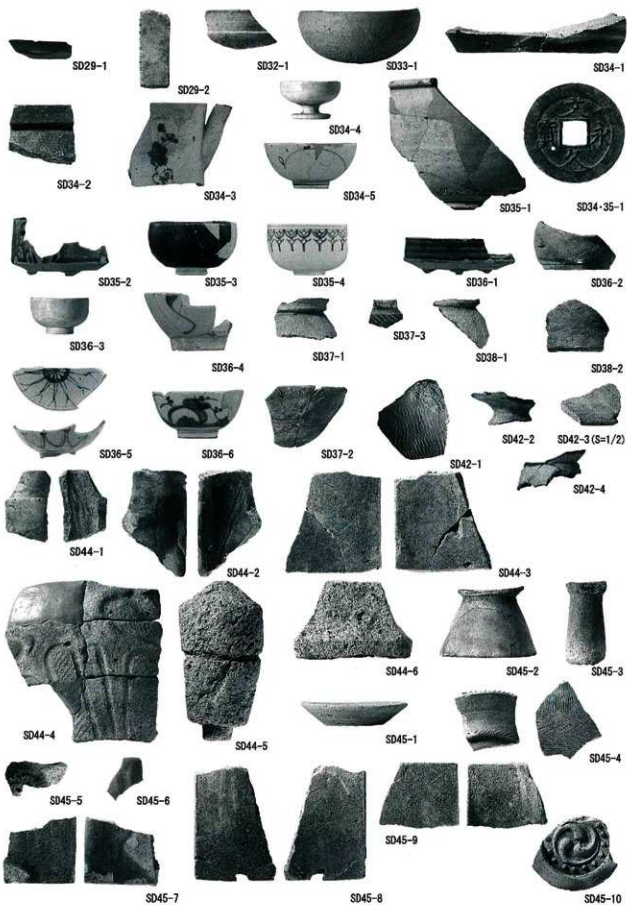


SD28-8



SD28-9







SD45-11

SD45-12

SD45-13



SD45-14

SD45-15

SD45-16



SD45-17

SD45-18

SD45-19



SD45-20

SD45-21

SD45-22



SD45-23

SD45-24

SD50-1



SD50-2

SE4-1

SE6-1



SD50-3

SD53-1

SE1-1



SE8-1

SE8-2





SK44-4

SK44-5

SK45-1



SK45-2

SK45-3

SK45-4



遺構外-1 (S=1/6)



遺構外-2 (S=1/6)



SK46-1 (S=1/4)



遺構外-4



遺構外-3 (S=1/6)



遺構外-5 (S=1/6)



遺構外-6



遺構外-7



遺構外-9



遺構外-14



遺構外-10



遺構外-8



遺構外-11



遺構外-12



遺構外-13



遺構外-15



遺構外-16



遺構外-17



遺構外-19



遺構外-20



遺構外-18



遺構外-21



遺構外-22



遺構外-23



遺構外-25



遺構外-26



遺構外-24



遺構外-27



遺構外-29



遺構外-30



遺構外-32



遺構外-28



遺構外-31



遺構外-34



遺構外-35



遺構外-36



遺構外-33



遺構外-37 (S=1/3)



遺構外-38 (S=1/3)



遺構外-39 (S=1/2)



遺構外-40 (S=1/3)



遺構外-41



遺構外-42



遺構外-43



遺構外-44 (S=1/3)



遺構外-45 (S=1/3)



遺構外-46



遺構外-47



遺構外-48

発掘調査報告書抄録

ふりがな	かみなかいまえやしきいせき							
書名	上中居前屋敷遺跡							
副書名	高前幹線事業に伴う発掘調査							
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第327集							
編著者名	大野 義人、手島実子							
編集機関	高崎市教育委員会							
所在地	群馬県高崎市高松町35番地1							
発行年月日	平成26年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
かみなかいまえやしき 上中居前屋敷 いせき 遺跡	ごんまけん 上中居前 群馬県高崎市 かみなかいま 上中居町	102020	447	139°02'03"	36°18'58"	2009.06.15 ~ 2009.12.25	5150 ㎡	道路建設
			485			2010.08.17 ~ 2010.12.01		
			547			2012.07.06 ~ 2012.08.29		
			563			2013.06.10 ~ 2013.08.08		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上中居前屋敷 遺跡	寺院	中世	溝・土坑・井戸・掘立柱建 物・礎石建物	瓦・軟質陶器・灰輪陶 器・火鉢・板碑・玉輪 唐・磁簡	中世寺院、瓦、経筒、 縄文時代土坑
	墳墓	中近世	土坑墓	古銭	
	集落	古墳	溝・土坑・井戸	土師器・須恵器・縄文 土器	
要約					

本遺跡の調査では、中世の掘立柱建物、溝跡54条、井戸跡22基、土坑52基、ピット101基であり、縄文時代および古墳時代から中世まで幅広い時期の遺構を確認した。特に、2・4区で検出した中世寺院に関連する掘立柱建物・溝跡・井戸跡や軒瓦を含む瓦類は貴重な資料となった。また、1区では古墳時代前期の溝を多数検出し、包含層中を含めて、S字壺・柳ヶ坪型壺など東海系の土器が多量に出土し、2-1区では縄文時代中期後葉の土坑と縄文土器が確認された。本遺跡周辺では縄文時代の遺構は希薄であり、周辺遺跡における時期別の変遷を考えると重要な知見を得ることができた。

高崎市文化財調査報告書第327集

上中居前屋敷遺跡

—高前幹線事業に伴う発掘調査—

印刷・発行 平成26年3月31日

発行 群馬県高崎市教育委員会
〒370-8501
群馬県高崎市高松町35番地1

印刷 上武印刷株式会社